平成２３年度

大学院生による授業評価結果報告書
（後期分）

鳴門教育大学　大学院学校教育研究科

頁数	科目区分	科目コード	科目名	担当教員名
8	広領域コア科目	30042100	子どもの規範意識の現状と課題	伴　恒信、曽根　直人
9	広領域コア科目	30043100	コミュニケーションと言語・教育	兼重　昇、原　卓志
10	広領域コア科目	30046000	教師のための声とからだとことば	余郷　裕次、頃安　利秀、綿引　勝美
11	広領域コア科目	30047000	学校危機管理研究	阪根　健二
12	広領域コア科目	30048000	現代の諸課題と学校教育Ⅱ	小西　正雄
13	広領域コア科目	30049000	予防教育科学	佐々木　恵、内田　香奈子
14	人間形成	30112000	近代教育文化史演習	梶井　一暁
15	人間形成	30115000	教育認知心理学演習	皆川　直凡
16	幼年発達支援	30514000	幼年期福祉演習	木村　直子
17	幼年発達支援	30519000	幼年発達心理演習	田村　隆宏
18	幼年発達支援	30523000	幼年期教育学演習	橋川　喜美代
19	幼年発達支援	30525000	幼年発達と幼児教育内容論演習	塩路　晶子
20	幼年発達支援	30525000	幼年発達と幼児教育内容論演習（夜間）	塩路　晶子
21	現代教育課題総合	30631100	総合学習総論	小西　正雄、谷村　千絵
22	現代教育課題総合	30636000	総合学習カリキュラム開発演習	村川　雅弘
23	現代教育課題総合	30644100	情報教育特論Ⅰ（教育情報人間論）	谷村　千絵
24	現代教育課題総合	30645100	情報教育特論Ⅱ（教材・授業開発論）	藤村　裕一
25	現代教育課題総合	30648100	環境教育特論Ⅰ（教材開発）	近森　憲助、田村　和之
26	現代教育課題総合	30650100	環境教育特論Ⅲ（実践）	近森　憲助、田村　和之
27	臨床心理士養成	30427000	臨床心理学演習	今田　雄三、葛西　真記子、吉井　健治、中津　郁子、小倉　正義、久米　禎子、曽川　京子

頁数	科目区分	科目コード	科目名	担当教員名
28	臨床心理士養成	30434000	臨床心理査定演習Ⅱ	葛西　真記子
29	臨床心理士養成	30434000	臨床心理査定演習Ⅱ	佐藤　亨
30	臨床心理士養成	30445000	臨床心理面接研究Ⅰ	中津　郁子、久米　禎子
31	臨床心理士養成	30447000	学校精神保健学演習	今田　雄三
32	臨床心理士養成	30451000	臨床心理学統計法	田中　秀紀
33	臨床心理士養成	30444000	臨床心理学研究法特論	田中　秀紀
34	特別支援教育	31151000	特別支援教育コーディネーター実践論	井上　とも子
35	特別支援教育	31152000	社会資源開発運用・連携論	井上　とも子
36	特別支援教育	31162000	特別支援教育課程特論演習	八幡　ゆかり
37	特別支援教育	31163000	特別支援教育指導特論演習	大谷　博俊
38	特別支援教育	31165000	特別支援教育臨床支援技法演習	高原　光恵
39	特別支援教育	31167000	特別支援教育学習支援演習	島田　恭仁
40	特別支援教育	31169000	発達障害児支援医学演習	津田　芳見
41	特別支援教育	31170000	発達障害児神経学演習	田中　淳一
42	言語系	32139000	日本事情・日本文化	古賀　美千留
43	言語系	32142000	日本語Ⅲ	永田　良太
44	言語系	32145000	日本古典語演習	原　卓志
45	言語系	32147000	現代日本語演習	茂木　俊伸
46	言語系	32149000	日本文学演習Ⅰ	野口　哲也
47	言語系	32151000	日本文学演習Ⅱ	小島　明子

頁数	科目区分	科目コード	科目名	担当教員名
48	言語系	32157000	日本語教育学演習	小野　由美子
49	言語系	32160000	日本語文法演習	永田　良太
50	言語系	32162000	日本語語彙論	永田　良太
51	言語系	32176000	国語科授業演習	幾田　伸司
52	言語系	32180000	国語科教材開発演習	余郷　裕次
53	言語系	32184000	日本語教育法演習	小野　由美子
54	言語系	32217000	英米文化研究Ⅲ（言語文化研究）	杉浦　裕子
55	言語系	32221000	学習英文法演習Ⅰ	眞野　美穂
56	言語系	32222000	学習英文法演習Ⅱ	藪下　克彦
57	言語系	32225000	小学校英語教育演習	ｼﾞｪﾗｰﾄﾞ ﾏｰｼｪｿ
58	言語系	32279000	英語科教育演習Ⅰ	伊東　治己
59	言語系	32280000	英語科教育演習Ⅱ	山森　直人
60	社会系	33158100	歴史学研究Ⅰ	西尾　和美
61	社会系	33158200	歴史学演習Ⅰ	大石　雅章
62	社会系	33158400	歴史学演習Ⅱ	町田　哲
63	社会系	33158600	歴史学演習Ⅲ	原田　昌博
64	社会系	33159400	法学・政治学演習	麻生　多聞
65	社会系	33173000	社会科授業研究	梅津　正美
66	社会系	33177000	現代の諸課題と社会認識教育	井上　奈穂
67	社会系	33180000	社会科教材開発演習Ⅲ（公民領域）	井上　奈穂

頁数	科目区分	科目コード	科目名	担当教員名
68	自然系	34123000	数理科学研究	宮口　智成
69	自然系	34124000	数理科学演習	宮口　智成
70	自然系	34127000	幾何学研究	松岡　隆
71	自然系	34128000	幾何学演習	松岡　隆
72	自然系	34129000	解析学研究	成川　公昭
73	自然系	34130000	解析学演習	成川　公昭
74	自然系	34173000	数学科教育学演習	佐伯　昭彦
75	自然系	34174000	数学科授業研究	秋田　美代
76	自然系	34176000	数学科教材開発演習	秋田　美代
77	自然系	34219000	無機化学特論	早藤　幸隆、今倉　康宏
78	自然系	34232000	地学実験法特論	小澤　大成、村田　守、香西　武
79	自然系	34272000	理科授業研究	佐藤　勝幸、香西　武、本田　亮、 武田　清
80	芸術系	35114000	歌唱表現演習	頃安　利秀
81	芸術系	35114000	歌唱表現演習	草下　實
82	芸術系	35122000	ソルフェージュ研究	山田　啓明
83	芸術系	35127000	室内楽（器楽）	森　正、山根　秀憲
84	芸術系	35132000	作曲法基礎演習	松岡　貴史
85	芸術系	35212000	油画制作演習	鈴木　久人
86	芸術系	35213000	平面造形演習	西田　威汎
87	芸術系	35215000	彫刻制作研究	長岡　強

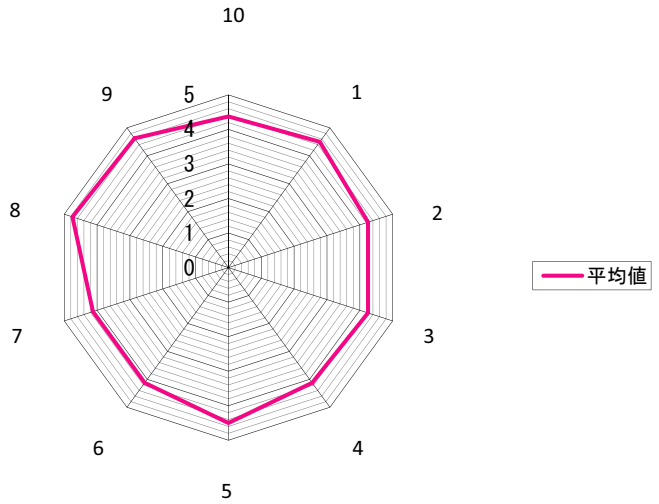
頁数	科目区分	科目コード	科目名	担当教員名
88	芸術系	35218000	デザイン制作研究	松島　正矩
89	芸術系	35220000	映像デザイン演習	内藤　隆
90	芸術系	35221000	工芸制作研究	井戸川　豊
91	芸術系	35224000	総合造形研究	内藤　隆、野崎　窮
92	芸術系	35228000	芸術学演習	小川　勝
93	生活･健康系	36120000	体育・スポーツ心理学演習	賀川　昌明
94	生活･健康系	36132000	健康科学演習	廣瀬　政雄
95	生活･健康系	36212000	情報技術研究	菊地　章
96	生活･健康系	36217100	エネルギー工学研究	畑中　伸夫
97	生活･健康系	36218100	エネルギー工学演習	畑中　伸夫
98	生活･健康系	36225000	画像情報処理研究	伊藤　陽介
99	生活･健康系	36226000	プログラミング演習	林　秀彦
100	生活･健康系	36229000	情報応用演習	曽根　直人
101	生活･健康系	36230000	コンピュータ科学演習	宮本　賢治
102	生活･健康系	36234000	機械工学演習	宮下　晃一
103	生活･健康系	36316000	衣生活学演習	福井　典代
104	生活･健康系	36318000	食生活学演習	前田　英雄、西川　和孝
105	生活･健康系	36372000	家庭科教育学演習	速水　多佳子
106	生活･健康系	36376000	家庭科授業・教材開発研究	前田　英雄、福井　典代、渡邉　廣二
107	国際教育	37111000	国際教育協力研究	前田　美子

頁数	科目区分	科目コード	科目名	担当教員名
108	国際教育	37115000	国際教育協力特論Ⅱ（IT教育）	石坂　広樹、小澤　大成、石村　雅雄、近森　憲助
109	国際教育	37122000	国際教育IT活用演習	石坂　広樹、小澤　大成、近森　憲助、石村　雅雄
110	国際教育	37175000	国際教育教材開発演習Ⅰ	石坂　広樹、小澤　大成、近森　憲助、石村　雅雄

結果報告書

授業科目名　子どもの規範意識の現状と課題
評価実施日　平成24年2月15日
担当教員名　伴　恒信，曽根　直人　　回答者数　8　人

質　問　項　目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4	4					4.5
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	4	1				4.3
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	2	2				4.3
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	4	1	3				4.1
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	4	4					4.5
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	4	1	3				4.1
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	4	3			1		4.1
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	6	2					4.8
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	3					4.6
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	5	1	2				4.4



教員のコメント

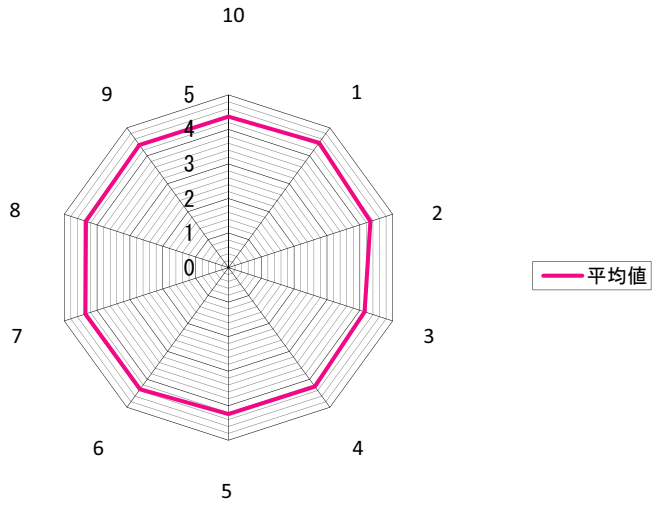
本授業では、受講生の授業課題への主体的な取り組みを促す方法論を用い、またその方法論を自ら取得する試みがなされており、その目的に沿って受講した2／3の者には総合的評価5の高い満足度がみられた。この授業でよかったと思われる点についての叙述でも、「KJ法の理論だけでなく、実践もできてよかった。」「本当のKJ法を知ることができた。また、それを体験・会得することができた。」「受講生同士で話し合えたので、いろいろな話や視点・立場と接することができた。」などと、その方法論の実践と取得に満足している様子がうかがえる。

本授業では情報倫理やセキュリティに関しても具体的な事例を紹介した。学生からのコメントにも「インターネット，情報機器の脆弱性や危険について，よく理解できた」とあり，インターネット等の情報技術の問題とその対処についての的確な知見と方法論について学んでいることがわかる。

結果報告書

授業科目名　コミュニケーションと言語・教育
評価実施日　平成24年2月22日
担当教員名　兼重　昇，原　卓志　　回答者数　62　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	31	29	2				4.5
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	30	24	7		1		4.3
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	26	22	12	1	1		4.1
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	24	30	8				4.3
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	26	26	9	1			4.2
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	32	23	5	1	1		4.4
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	31	22	9				4.4
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	31	21	10				4.3
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	32	23	6	1			4.4
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	30	27	3	2			4.4



教員のコメント

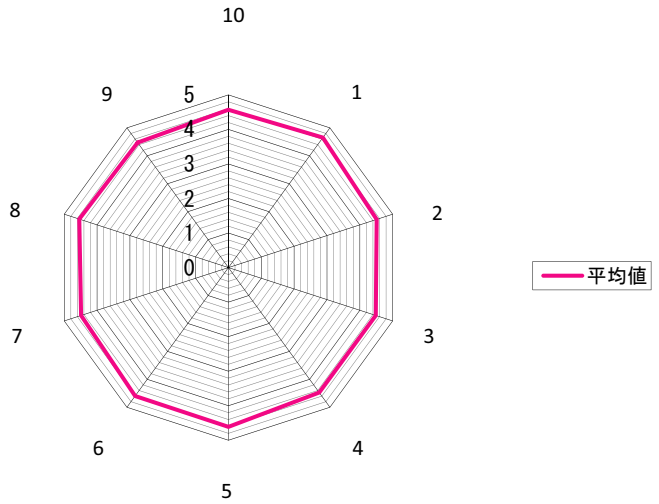
授業の前半を国語学を専門とする教員が担当し、後半を英語科教育学を専門とする教員が担当した。本授業の受講生が、日本語学や英語学を専門とする学生ばかりではないことから、できる限り日常的な言葉を題材としつつ、コミュニケーションの本質に切り込めるよう配慮し、一方的な講義形式にならぬよう、グループ活動や討議などの作業を取り入れるなどの工夫を試みているが、70名を超える受講生を前にして、1コマごとの授業の狙いやグループ活動・作業の目的を十分に理解させることには苦労している。学生からは、「授業の中で、何を意図したワークなのか分かりづらかった。ワークするなら授業内できちんとフィードバックしてほしい。不真面目な学生にとっては、ワークが多く“楽しい授業”であったかも知れないが、現職や真面目な学生にとっては“活動の意味が分からない授業”と捉えられても仕方ない部分があると思う」「授業の目的やねらいが分かりにくく、何のためにその活動を行っているのか、理解できないことがあった」などの厳しいコメントが見られた。

全体的には、まずまずの評価であったが、授業の狙いや活動の狙いについての理解を図ることが、今後の課題である。

結果報告書

授業科目名　教師のための声とからだとことば
評価実施日　平成24年2月14日
担当教員名　余郷　裕次，頃安　利秀，綿引　勝美　　回答者数　72　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	50	19	3				4.7
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	42	25	5				4.5
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	43	21	8				4.5
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	43	21	7	1			4.5
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	50	16	6				4.6
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	48	19	5				4.6
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	42	23	7				4.5
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	45	21	6				4.5
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	45	19	6	1	1		4.5
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	49	17	5		1		4.6



教員のコメント

「(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。」の平均値が4.6であった。これは、回答数72名という規模の授業としては、良好な結果であり、受講生に満足を与えたものと評価できる。また他の(1)～(9)の質問事項すべてにおいて、平均値が4.5を上回っており、この授業が全体として高い評価を受けたことが分かる。

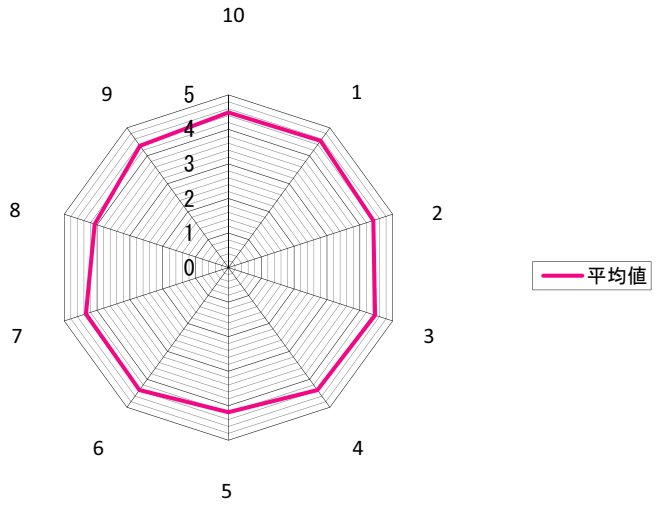
この授業でよかったと思われる点については、「一つの授業内で、三つの分野を総合的に学べた点。」をあげている。これは、オムニバス的な授業内容を、受講生自身が総合化するという本授業のねらいが達成されたことを示唆している。さらに、「講義形式というよりは、実践的な授業だったので、楽しんで授業を受けることができた。」との記述があり、身体論に基づく実践的な授業内容が肯定的に評価されている。

今後も、教師としての身体のあり方について、声とからだとことばから追究する実践的な授業を心がけていきたい。

結果報告書

授業科目名　学校危機管理研究
評価実施日　平成24年2月8日
担当教員名　阪根　健二　　回答者数　112　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	70	34	6	2			4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	65	32	11	4			4.4
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	66	36	7	2	1		4.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	57	44	8	3			4.4
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	44	51	12	4	1		4.2
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	62	37	8	4	1		4.4
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	59	39	9	3	2		4.3
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	42	44	20	4	2		4.1
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	57	40	13	2			4.4
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	69	34	5	3	1		4.5



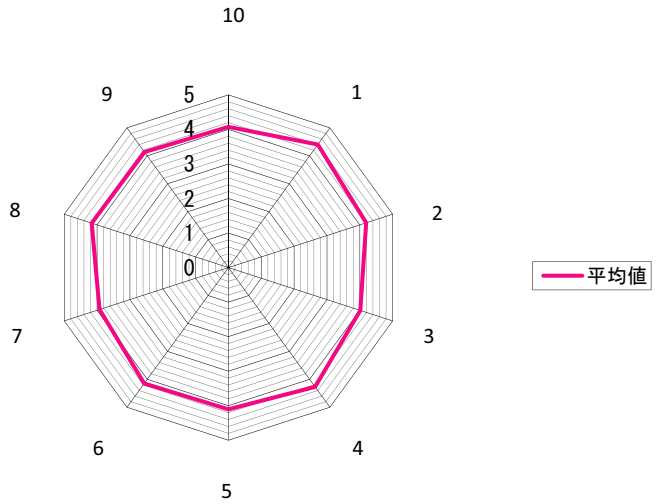
教員のコメント

今回の授業は、学校における危機を如何に対応できるかという視点を重点に構成した。その関係で、受講生のモチベーションは高い状態だった。ただ、盛りだくさんだったため、授業進度は早く、ついていきかねた院生もいたようだ。しかしながら、昨今の学校現場では欠かせない内容であるため、理論だけの授業では不十分である。つまり、教師の実践力の育成につながる内容であるか否かであるが、この点については、4．5と高い数字となり、当初の目的は達成されたものと考える。また、総合評価も概ね高く、本授業の意味・意義が伝わったものと考えている。なお、次年度は、視聴覚教材などをより充実させたいと考えている。

結果報告書

授業科目名　現代の諸課題と学校教育Ⅱ
評価実施日　平成24年2月14日
担当教員名　小西　正雄　　回答者数　67　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	42	13	10	1	1		4.4
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	34	18	10	4	1		4.2
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	26	23	10	6	1	1	4.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	36	17	11	2	1		4.3
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	30	20	13	2	2		4.1
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	34	16	13	1	3		4.1
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	28	16	16	4	3		3.9
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	32	19	13	1	2		4.2
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	31	20	12	2	2		4.1
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	32	15	15	3	2		4.1



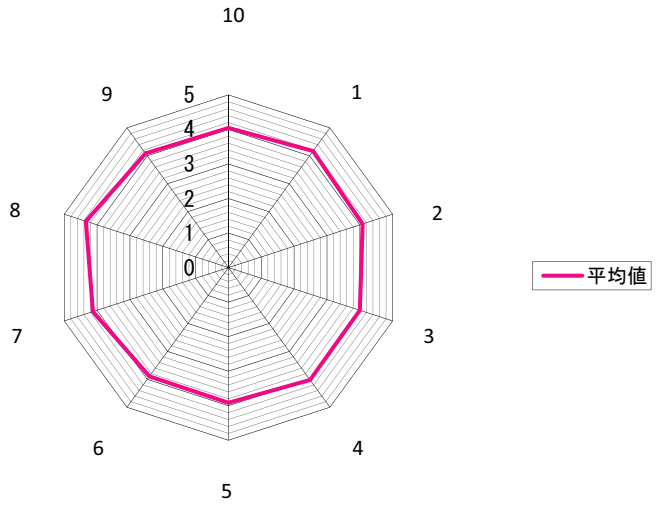
教員のコメント

23年度もおおむね好評である。唯一気になったのは、3．9評価となっているテキスト使用についてである。今回から拙著をテキストとして指定したが、その活用が十分に図られていなかったことは、ある程度自覚しているところである。24年度については、この点に留意して授業構成を考えたい。

結果報告書

授業科目名　予防教育科学
評価実施日　平成24年2月7日
担当教員名　佐々木　恵，内田　香奈子　　回答者数　47　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	22	14	9	1	1		4.2
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	20	16	8	1	2		4.1
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	18	17	8	2	2		4.0
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	17	16	12	2			4.0
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	16	17	10	2	2		3.9
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	17	15	9	5	1		3.9
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	20	18	6	1	2		4.1
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	25	16	4	1	1		4.3
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	16	20	10	1			4.1
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	18	17	9	2	1		4.0



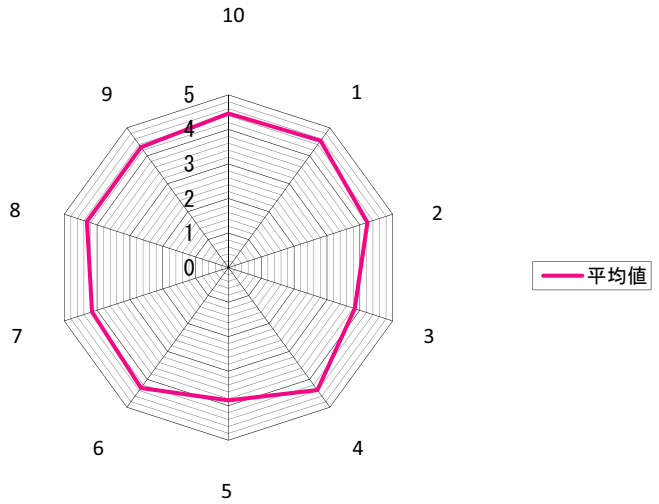
教員のコメント

本講義は、本学予防教育科学センターによって進められている文部科学省「学校において子どもの適応と健康を守る予防教育開発・実践的応用研究事業」の一貫として開講された、全く新たな授業科目である。
全体として4.0前後の評価となっており、初年度としては一定の評価を得たと考えられる。ただし、個別の自由記述による意見を概観すると、実習による体験的学習については肯定的な意見が多い一方で、理論面の解説がやや難解との意見も存在した。次年度からは、この点についてさらに理解しやすい解説に努める予定である。
また、初年度は受講者数の制限を設けなかったため、多人数で実習的活動を行わねばならず、受講者数を制限した方が良いとの意見も存在した。次年度からは、上限を学校教育現場の1クラスにあたる40名とし、学習環境の維持を図る予定である。

結果報告書

授業科目名　近代教育文化史演習
評価実施日　平成24年2月20日
担当教員名　梶井　一暁　　回答者数　13　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	8	4	1				4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7	4		2			4.2
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	1	5		1		3.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	7	4	2				4.4
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	6	1	4	2			3.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	7	4	1	1			4.3
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	7	3	1	2			4.2
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	7	4	1	1			4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8	2	2	1			4.3
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	8	4		1			4.5



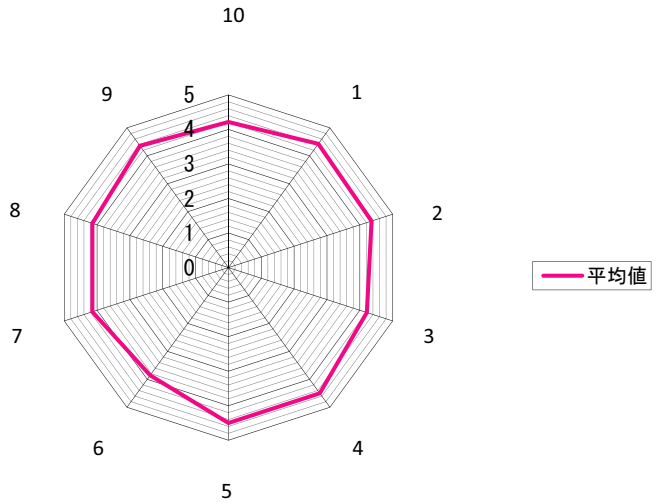
教員のコメント

総合評価で4.5を得ることができ、受講者からは概ね満足を得られたと把握される。
課題は(3)「教師の実践力の育成につながる内容」と(4)「授業の進む速さ」である。
「教師の実践力」の含意をどうみるかにもよるが、本授業は歴史研究を基盤として教育や文化の位相を論じる内容であるから、すぐに学校や教室で役立つ技術やプログラムを提供するものでは、もとよりない。受講者の声には、多角的な視点を学べた、教育を考える土台を得たなどもある。実践の足腰を鍛える基礎学問としての位置を確認し、充実を図りたい。
授業の進度は、早いと感じた受講生がいたようである。丁寧な説明を評価する受講生もあり、授業についてきている者もあるのだが、再度全体的な進度を考えたい。

結果報告書

授業科目名　教育認知心理学演習
評価実施日　平成24年2月14日
担当教員名　皆川　直凡　　回答者数　14　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	8	4	2				4.4
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7	5	2				4.4
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	5	3				4.2
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	9	3	2				4.5
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	9	3	2				4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5	4	4		1		3.9
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	6	4	4				4.1
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	6	4	4				4.1
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	5	2				4.4
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	7	4	2	1			4.2



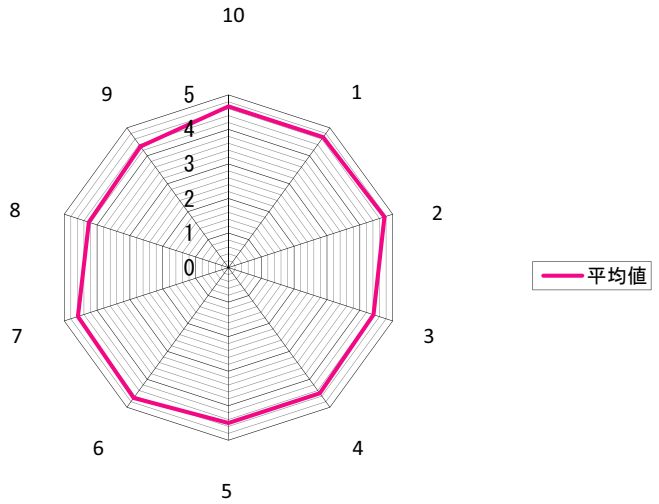
教員のコメント

人間形成コースの専門科目であり，特に心理学分野において修士論文の作成に取り組む学生に向けた授業構成をおこなっており，他分野・他コースの学生には必ずしも容易ではない授業内容である。こうした個人差が，ほとんどの項目の評価平均値が4.0以上であり，授業への総合評価の平均値も4.2とかなり高いのに対し，1つの項目の評価を1とし総合評価を2とした受講生が1名いたことに表れていると考えられる。項目(1)～(9)の個人別評価平均値を算出したところ，総合評価5の7名の評価平均値は4.0～5.0，総合評価4の4名のその値は3.8～4.7にそれぞれ分布していたのに対し，総合評価3の2名の評価平均値は3.3～3.7，総合評価2の1名のその値は3.1であった。この分析の結果は，個々の項目への評価の集積が総合評価となっていることを表していると同時に，評価の個人差の頑健さを表している。専門性の高い科目であればあるほど，全員を満足させることは難しくなるが，専門科目としてのレベルを落とすことなく，全体の理解度・満足度を高めることを目指して，引き続き授業改善に取り組みたい。

結果報告書

授業科目名　幼年期福祉演習
評価実施日　平成24年2月9日
担当教員名　木村　直子　　回答者数　12　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	8	4					4.7
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	10	1	1				4.8
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	5	1				4.4
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	7	4	1				4.5
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	7	4	1				4.5
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	8	4					4.7
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	7	5					4.6
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	5	5	2				4.3
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	3	1	1			4.3
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	9	2	1				4.7



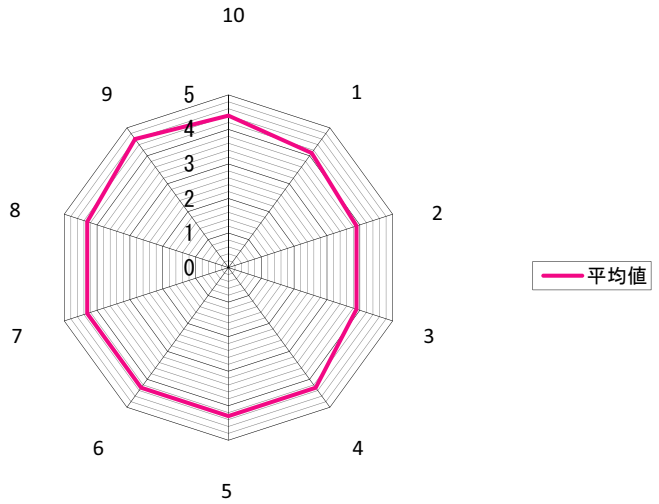
教員のコメント

授業の進め方や内容を受講生の状況に応じて、柔軟に対応することができ、そのことが、総合的に多くの院生の満足に繋がったように思う。また、今年度は、院生の主体的積極的な取り組みにつながる可能性を広げていくための授業改善の取り組みとして、ディスカッションをこれまでのオープン形式ではなく、グループワークを活かしたり、ブレーンストーミングを実践したりするなどした。その結果、「授業時間外に授業のテーマで受講生同士がディスカッションした」等のコメントが寄せられ、グループ学習の良さを反映したものと思われる。しかし、授業の進め方等詳細に見ていくと、改善の余地が残る。特に、板書や進むペースについては、より分かりやすい記述や院生のスピードに合った対応が求められているといえる。

結果報告書

授業科目名　幼年発達心理演習
評価実施日　平成24年2月2日
担当教員名　田村　隆宏　　回答者数　10　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4	3	3				4.1
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	3	2		1		3.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	3	2		1		3.9
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	5	3	2				4.3
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	4	5	1				4.3
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4	5	1				4.3
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	4	5	1				4.3
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	4	5	1				4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	2	1				4.6
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	5	4	1				4.4



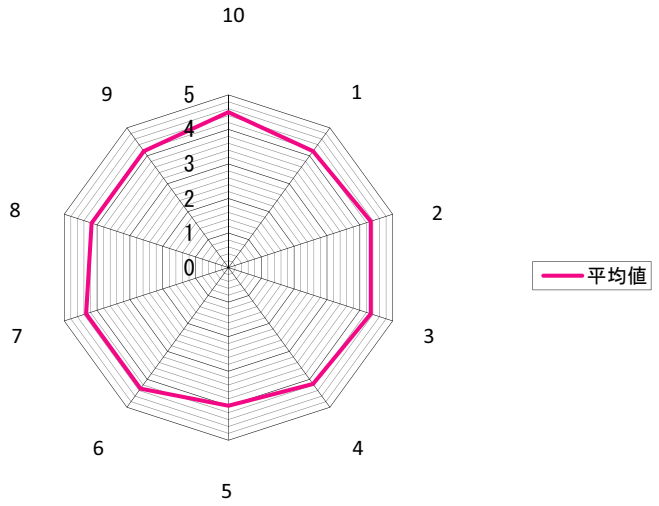
教員のコメント

すべての評価項目で4～5割の受講生が「そう思う」の5と評定し，「ややそう思う」の4の評定を含めると，すべての項目で7～9割以上になるところから，本授業の評価は概ね肯定的であったと考えられる。授業で良かった点としては，積極的に討論活動を取り入れたことから，受講生が主体的に授業に参加できたことが表されていた。今後も，内容を精選し，受講生にとって有意義な授業となるよう工夫したい。

結果報告書

授業科目名　幼年期教育学演習
評価実施日　平成24年2月17日
担当教員名　橋川　喜美代　　回答者数　6　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2	3	1				4.2
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	4					4.3
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	4					4.3
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	2	3	1				4.2
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	1	4	1				4.0
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	3	2	1				4.3
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	2	4					4.3
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2	3	1				4.2
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	3	1				4.2
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	3	3					4.5



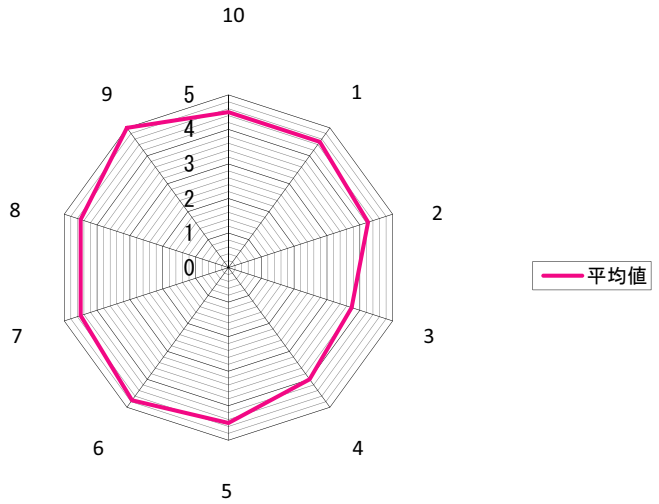
教員のコメント

今年度は異動に伴い集中で授業を実施したことから，履修者のニーズに十分対応できなかったようである。総合評価が個々の項目の平均値よりも高いのはそうした思いの反映なのかもしれない。余裕を持って，前期の授業内容や取り組みを振り返りながら，履修者の理解を確かめる配慮を怠ったことが，項目（4）の「授業の進む速さは，適切であった。」において，最も平均値が落ちた原因と考えられる。未消化な部分を残したことに悔いは残るが，今後の授業改善に繋がるよう工夫を図っていきたい。

結果報告書

授業科目名　幼年発達と幼児教育内容論演習
評価実施日　平成24年2月3日
担当教員名　塩路　晶子　　回答者数　4　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2	2					4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1	3					4.3
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。		3	1				3.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	1	2	1				4.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	2	2					4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3	1					4.8
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	2	2					4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2	2					4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4						5.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2	2					4.5



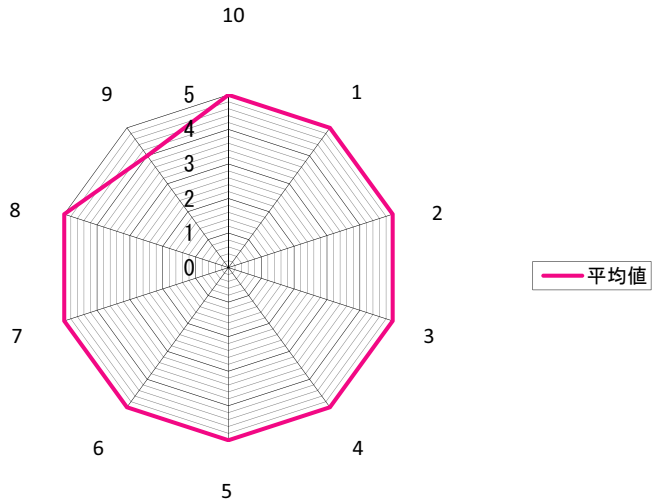
教員のコメント

おおむね良い評価をいただくことができた。
自由記述には、幅広い視野から考え討議したことの有意義さへの言及があり、授業目的はおおむね達成されたと考えている。

結果報告書

授業科目名　幼年発達と幼児教育内容論演習（夜間）
評価実施日　平成24年2月3日
担当教員名　塩路　晶子　　回答者数　1　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	1						5.0
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1						5.0
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	1						5.0
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	1						5.0
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	1						5.0
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	1						5.0
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	1						5.0
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	1						5.0
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。		1					4.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	1						5.0



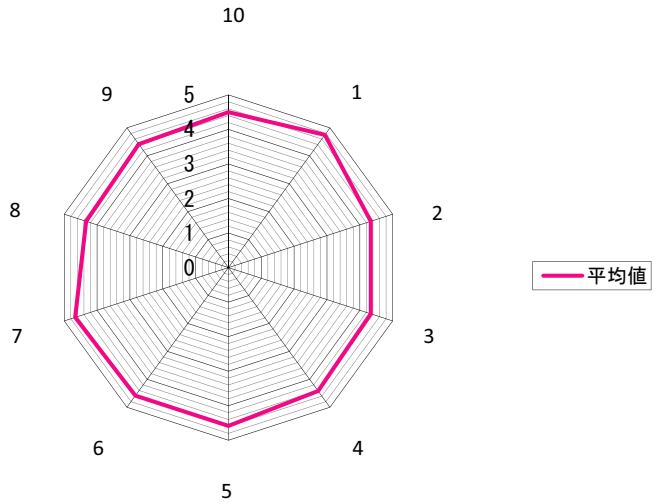
教員のコメント

夜間授業のため一人の受講生であったが、良い評価をいただくことができた。
自由記述には、普段の保育実践の中で用いている言葉や保育方法について、多角的に再考し、理論と実践のつながりを実感できた旨、記載されていた。
今後の課題としては、昼間の授業との交流をうまく図ることができるように工夫していきたい。

結果報告書

授業科目名　総合学習総論
評価実施日　平成24年2月17日
担当教員名　小西　正雄，谷村　千絵　　回答者数　12　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	9	3					4.8
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	8					4.3
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	6	1				4.3
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	6	5	1				4.4
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	8	3	1				4.6
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	7	5					4.6
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	8	4					4.7
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	6	4	2				4.3
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	7					4.4
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	6	6					4.5



教員のコメント

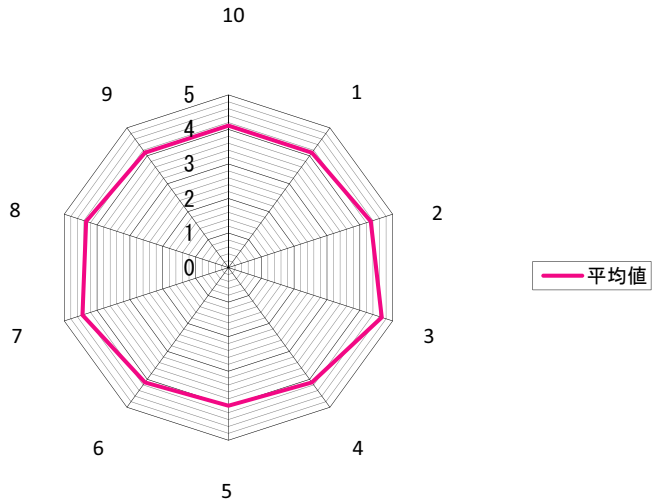
○予想以上に高い評価を受けており、身が引き締まる思いである。この授業については例年「総合的な学習の時間」をついてのノウハウ的な内容を期待する声も散見されたのであるが、今年度は設問1に対する評価平均が4．8と高得点であったことからもうかがえるように、この授業の趣旨がかなり理解されていたことが、他の項の高得点にも波及していたといえるかもしれない。今後も、授業の趣旨を明らかにすることに努めたい。小西正雄

○授業は、15回の中で、グループワークによるブレーンストーミングとウェビング、受講生の意見シェアリング、漫画を題材としたディスカッション、文献講読、VTR視聴、教育研究会の企画作りなど、多様なアプローチで、教科の枠を超えて「学習」の意味を考えるものであった。これらが、受講生の広範なニーズに応えるものになっていたとすれば、方法が多種であったうえに、活動を促すものが多く、また、答えを基本的にオープンエンドにしたことなどが要因として考えられる。しかし、何よりも受講生の意欲や能力が高かったことが大きな要因であると考えられる。谷村千絵

結果報告書

授業科目名　総合学習カリキュラム開発演習
評価実施日　平成24年2月7日
担当教員名　村川　雅弘　　回答者数　9　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4	2	3				4.1
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	4	1				4.3
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	3					4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2	6	1				4.1
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	3	4	1	1			4.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3	5		1			4.1
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	5	3	1				4.4
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	4	4	1				4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	5		1			4.1
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2	6	1				4.1



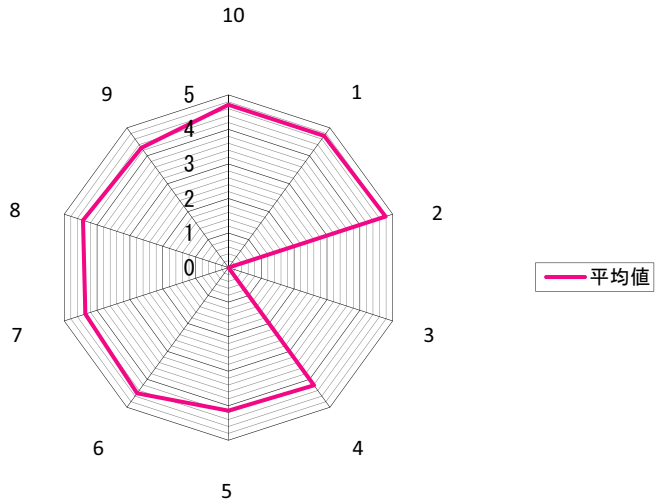
教員のコメント

受講生の人数は少ないが，総合評価も含め全ての項目が4.0以上の評価を得ており，本授業の目標は概ね達成できていると判断される。特に「教師の実践力の育成につながる内容であった」は4．7ときわめて高い評価を得ている。一方，「授業の進む速さは，適切であった」及び「受講生に分かりやすく説明した」については「2」と回答している学生が1名存在する。できる限り多くの事例に触れさせたいという思いが出すぎたと反省したい。自由記述では，「具体的な事例に多く触れることができた」(3)や「先進的に取り組んでいる教師の生の声を聞くことができた」(7)との回答が多かった。特に，後者は学部の集中講義のメリットを活かし，テキストの執筆者でもある実践家を4名ゲストティーチャーとして招待し，その一部を本授業の受講生にも聞かせたことは大変効果的であった。「実際にテキストを執筆・編集した教員やゲストティーチャーの話に誌面以上の内容や情報があった」もそのことが反映している記述である。また，多くの事例を分析させ，自らの言葉や枠組みで整理させたことは，「レポート作成により，職場での活用が期待できる」とあるように有効に働いている。一方，改善点としては，「よい事例が多いのでデメリットも含めてもらうことで改善の指針になる」(2)や「ワークショップができなかったのが残念である」，「授業の展開が流動的であった」などがあった。次年度の改善に活かしたい。

結果報告書

授業科目名　情報教育特論Ⅰ（教育情報人間論）
評価実施日　平成24年2月23日
担当教員名　谷村　千絵　　回答者数　14　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	10	4					4.7
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	11	3					4.8
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。							
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	6	6	1	1			4.2
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	7	3	3	1			4.1
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	8	5	1				4.5
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	7	5	2				4.4
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	8	4	2				4.4
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	6	2				4.3
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	10	4					4.7



教員のコメント

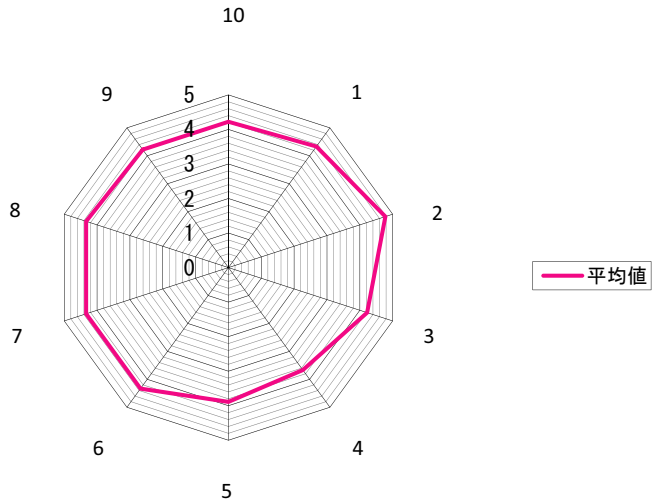
ポストマンの訳書『子どもはもういない』(約240ページ)を購読する授業であるが、章ごとの発表担当者しか本文を読んでこず議論が深まらないという状況を回避するため、本年は以下の対策を講じた。①毎時間中に本時の章を読む時間を設ける、②全員が章ごとのワークシートに内容、疑問、批判、気づきなどを書きこむ、③グループでワークシートの内容についてシェアし議論する、④グループ発表と全体討議、まとめを行う、⑤章のまとめと感想を次回授業の冒頭に担当者が発表する。なお、ポストマン通読後に近年の関連論文を読んで発表する時間も2時間設けることができた。成績評価は、出席、発表、授業参加の態度などを対象とした。

この新しい取り組みに対して、「プレッシャーだが勉強になった」「本を読む作法がわかった」「要約の仕方がわかった」「意見交換ができたのがよかった」「本の内容が大変面白かった」との概ねよい評価が寄せられている。課題として、(4)成績評価の適切さについては、ワークシートを評価の対象にしてほしいとの意見があった。(5)授業の進む速さについては、読み込みやまとめに時間が足らなかったとの意見があった。また自由記述の欄には、「ほとんど読んできていない人がいると議論ができなかった」という点を約半数の者が挙げていた。授業時間内に本を読む時間をとるといっても、当然、速度や理解度には差が生じる。また、全員が読み終わるまで読書時間をとると15回の授業で一冊を読み切れないことも分かり、実際には予習が不可欠であった。「通読とワークシートを宿題にするべき」「ワークシートを評価の対象にしてほしかった」との積極的な意見も多く見られたので、受講生の意欲をいっそう喚起し、全員が予習の負荷に耐える授業になるよう、改善を試みたい。

結果報告書

授業科目名　情報教育特論Ⅱ（教材・授業開発論）
評価実施日　平成24年2月28日
担当教員名　藤村　裕一　　回答者数　9　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4	4	1				4.3
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7	2					4.8
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	3			1		4.2
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	2	3	3	1			3.7
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	4	2	2		1		3.9
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	6	2			1		4.3
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	5	2	2				4.3
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	4	4	1				4.3
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	4		1			4.2
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	4	4		1			4.2



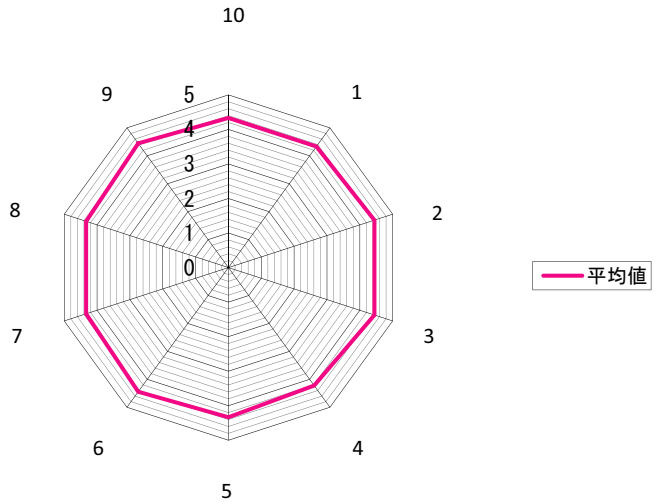
教員のコメント

本年度から，受講生に情報教育の分野ごとに課題を与え，グループで学術論文を論拠として探しながら，具体的な教材開発をする活動を行った。
これに関しては，概ね良好であり，今後も改善しながら継続したい。
成績評価の方法については，レポートの配点より，この教材開発の重みを増すように改善したい。
なお，本授業は情報教育に関する専門授業であるため，純粋な文系の受講者の中には理解困難な面もあったようであるが，専門授業である点に
鑑み授業のレベルを下げることはせず，受講条件にICTに関する基礎知識を入れるように改善したい。

結果報告書

授業科目名　環境教育特論Ⅰ（教材開発）
評価実施日　平成24年2月9日
担当教員名　近森　憲助，田村　和之　　回答者数　9　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4	4	1				4.3
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	5					4.4
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	5					4.4
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	5	2	1	1			4.2
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	4	4	1				4.3
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	5	3	1				4.4
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	4	4	1				4.3
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	4	4	1				4.3
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	5					4.4
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	4	4	1				4.3



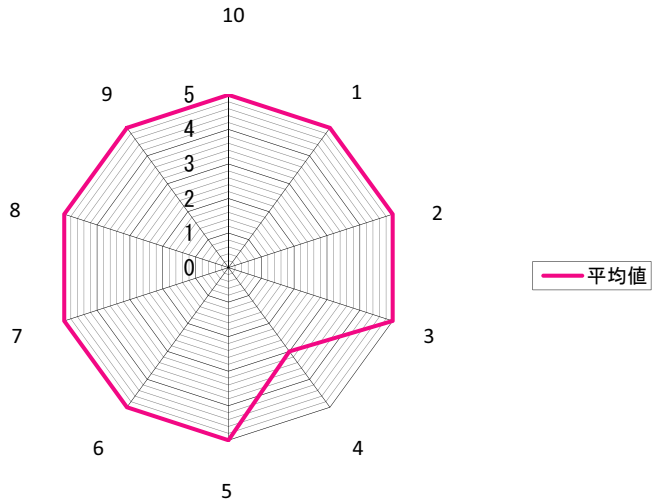
教員のコメント

一方的な講義に終始するのではなく、できるだけ教員とのやりとりを通して、学生自身が教材や環境教育について考え方を形成できるよう配慮したたことが、（2）（3）（9）等に高い評価が得られている理由と思われる。ただ、教材を中心とする授業づくりの成果や発表内容をもとに成績を評価したが、次年度は、成績評価について詳細な説明をしたい。

結果報告書

授業科目名　環境教育特論Ⅲ（実践）
評価実施日　平成24年2月14日
担当教員名　近森　憲助，田村　和之　　回答者数　1　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	1						5.0
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1						5.0
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	1						5.0
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。			1				3.0
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	1						5.0
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	1						5.0
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	1						5.0
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	1						5.0
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1						5.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	1						5.0



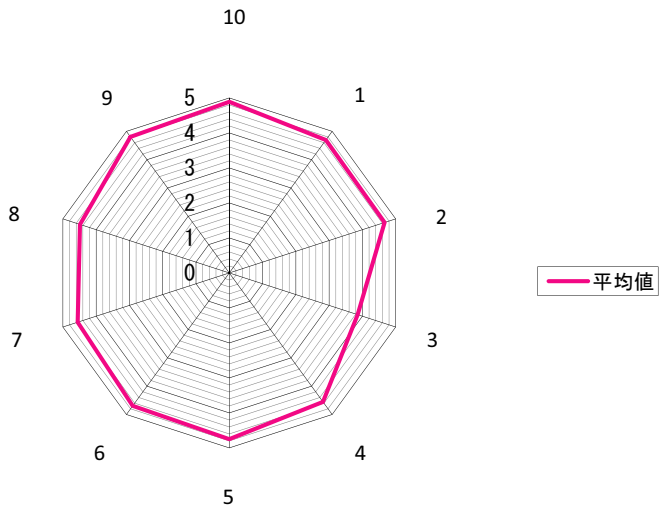
教員のコメント

持続発展教育の理念に従い、環境教育の視点を導入した一般教科の授業づくりを中心に学校現場での活用を念頭においた実践的な授業を展開した結果が、このような結果になったと思われる。成績評価については、今後改善していきたい。

結果報告書

授業科目名　臨床心理学演習
評価実施日　平成24年2月23日
担当教員名　今田 雄三, 葛西 真記子, 吉井 健治, 中津 郁子, 小倉 正義, 久米 禎子, 曽川 京子　　回答者数　36 人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	26	9	1				4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	26	8	2				4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	14	7	11	1	2	1	3.9
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	23	10	3				4.6
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	28	7	1				4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	26	9	1				4.7
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	23	10	3				4.6
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	20	12	3			1	4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	30	5	1				4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	32	4					4.9



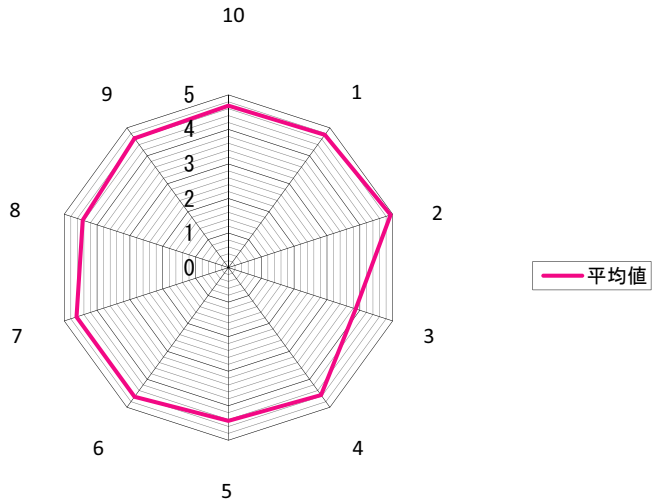
教員のコメント

質問10項中9項目での評価が4.5点以上、特に(10)の「この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。」の評価では4.9点と評価されており、受講生からきわめて高い評価を得られたものと考える。ただし、質問項目(3)の「教師の実践力の育成につながる内容であった。」に関してのみ、評点が3.9点となっている。本授業の受講生は臨床心理士を目指す者が大半であり、授業もそうしたニーズに沿う内容で構成されていたことが影響して、この項目のみ評点が他に比べやや低目になったのではないかと思われる。臨床心理士の実践の場として学校臨床は重要な位置を占めており、本授業で体験的に学んだ内容も学校現場での相談活動、教員との連携における実践力と関連していることを強調するようにしたい。自由記述では、小グループでの深まり、自己開示や自己表現の場、感受性のトレーニングになった点が評価されていた。また、小グループにコース分けされている点については、「それぞれの教員の個性と専門性を生かしている」という評価と、「希望していたコースに割り当てられなかった」という点を改善点として挙げている意見とがあった。特定のコースに希望者が集中するとどうしても第2希以下に回ってもらうことになるが、出来るだけ不満のないようにコース分けの説明、振り分けについては十分な説明と配慮をもって行いたい。

結果報告書

授業科目名　臨床心理査定演習Ⅱ
評価実施日　平成24年2月15日
担当教員名　葛西　真記子　　回答者数　16　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	13	2	1				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	15	1					4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	3	6	1			3.9
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	10	5	1				4.6
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	9	5	2				4.4
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	11	4	1				4.6
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	10	6					4.6
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	10	3	3				4.4
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	11	4	1				4.6
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	12	3	1				4.7



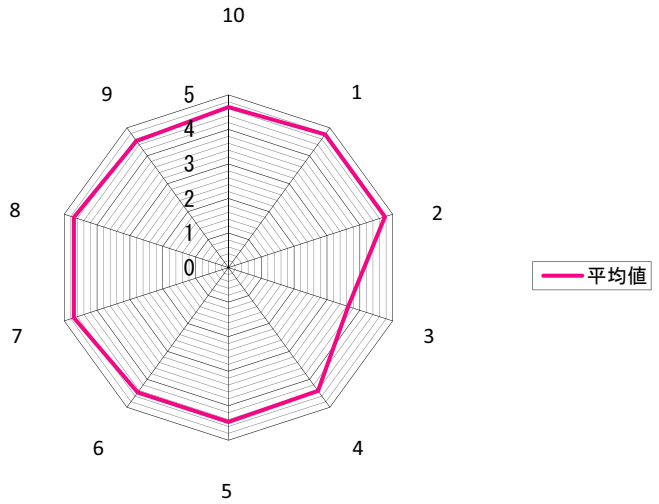
教員のコメント

本授業の総合評価は4.7と高く、受講生から高く評価されていることがわかる。特に、「専門性を深めるのに役立った。」、「授業の概要が適切に表現されていた。」の項目はどちらも4.9、4.8と高かった。今後改善するとすれば、「教師の実践力育成に役立った。」、「進む速さは適切であった。」、「視聴覚機材の使い方は適切であった。」等の項目である。教師の実践力については、投映法という査定方法が学校現場では用いられることがほとんどないため、教師にとっては、その知識、有用性等を知っておく程度でよいと思われる。臨床心理士としての実践力には、投映法は必要であるので、この項目を「臨床心理士の実践力に役立った」に変更すれば、高い評価が得られるのではないだろうか。授業の進む速さについては、早すぎたのか、遅すぎたのか判断しかねる。視聴覚機材は前半は、使用したが、後半は、主に印刷したものが中心であったので、今後、視聴覚機器を使用するこもと検討したい。

結果報告書

授業科目名　臨床心理査定演習Ⅱ
評価実施日　平成24年2月22日
担当教員名　佐藤　亨　　回答者数　17　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	13	4					4.8
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	13	4					4.8
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	4	6	1	1		3.6
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	8	8	1				4.4
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	8	9					4.5
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	8	9					4.5
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	12	5					4.7
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	12	5					4.7
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	10	6	1				4.5
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	11	6					4.6



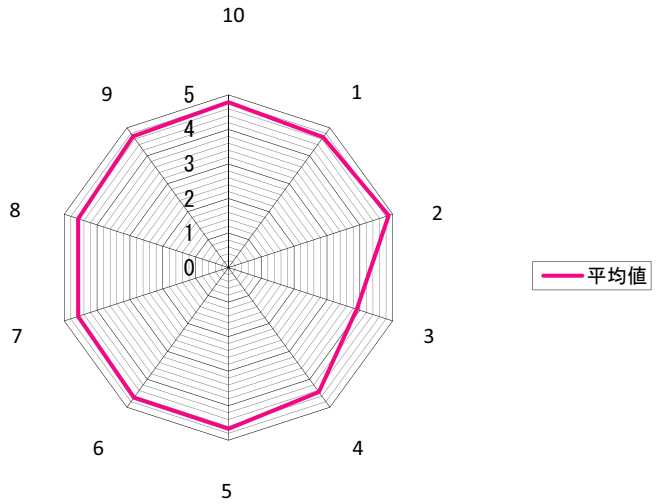
教員のコメント

ほぼ全ての項目で，平均4.4以上の評価を得ており，総合評価でも平均4.6で，3以下の評価をした受講生がいなかったことからも，授業内容はおおむね受講生のニーズに合ったものであったと考えられる。唯一4以下（平均3.6）の評価となった項目（3）「教師の実践力の育成につながる内容であった」に関しては，本来この授業が臨床心理士としての力量の育成に焦点を当てたものであり，教師の実践力の育成を目的とはしていない授業であるため，やむを得ない結果であると考える。

結果報告書

授業科目名　臨床心理面接研究Ⅰ
評価実施日　平成24年2月14日
担当教員名　中津　郁子，久米　禎子　　回答者数　33　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	22	11					4.7
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	29	4					4.9
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	11	10	9	1	1	1	3.9
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	18	12	3				4.5
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	23	9	1				4.7
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	22	9	1			1	4.7
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	22	8	3				4.6
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	22	8	3				4.6
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	24	8	1				4.7
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	27	5	1				4.8



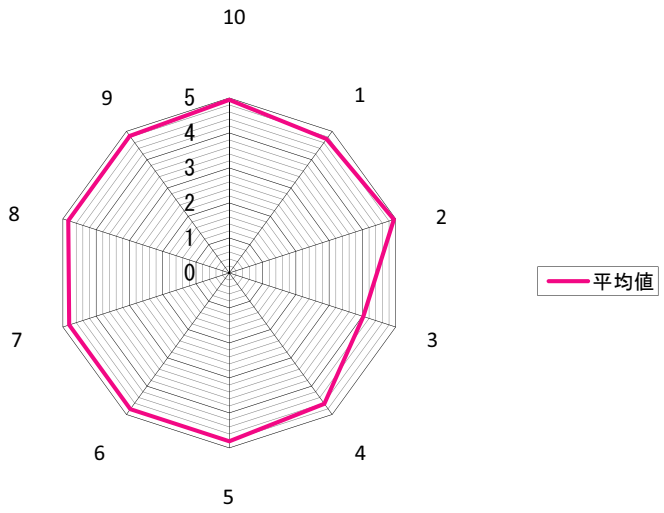
教員のコメント

この授業は昨年に引き続き、教員2人で前半後半に分かれて授業を行なった。前半は講義形式の多い授業であり、振り返り用紙を使って学生の反応を確かめつつ行なった。後半のグループごとの調べ学習形式の授業では、グループの進み具合を確認しつつ行ない最後に全体的な振り返りを行なった。総合評価が4．8であるので、昨年同様、概ね学生にとって満足のいく授業であったと考えられる。自由記述の中では、「実践に役立つ授業内容でたいへん勉強になりました」や「グループで話し合う中で知識を深めることが出来た」などの意見が書かれていた。グループでの調べ学習は「もう少し人数が少ない方が」という意見もあるが、「グループ発表の責任の重さを感じたり」、「仲間と一緒に真剣になる機会」として前向きに捉えられていた。質問項目（3）[教師の実践力の育成につながる内容であった]という項目が3．9で、昨年同様やや低くなっている。これに関しては、この授業が臨床家としての面接研究の授業であるため、教師とは直接的にはつながりにくいと思われ、『どちらとも言えない』を選択する人が増えたと思う。しかし、それでも『そう思う』『ややそう思う』を合わせて半数の人が選択している。教師にとっても、親理解や生徒理解につながる授業内容であると理解されたのだと考える。今後も学生の習熟度や学びの意欲を考慮しながら行なっていきたい。

結果報告書

授業科目名　学校精神保健学演習
評価実施日　平成24年2月10日
担当教員名　今田　雄三　　回答者数　37　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	28	8	1				4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	35	2					4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	15	9	12	1			4.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	23	14					4.6
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	31	5	1				4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	30	7					4.8
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	30	7					4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	31	6					4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	31	6					4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	35	2					4.9



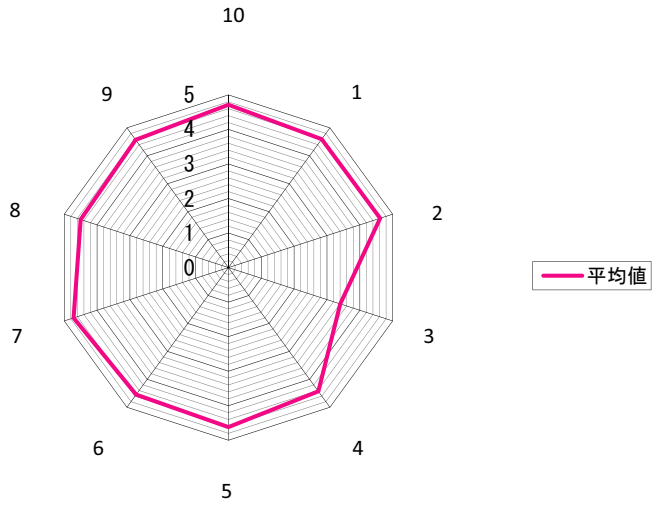
教員のコメント

質問10項目のすべてにおいて評価の平均値が4.0点以上、そのうち9項目では評価の平均値が4.5点以上であった。特に(10)の「この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。」の評価では4.9点と評価されており、受講生からきわめて高い評価を得られたものと考える。昨年度は唯一評価の平均点が4点に達していなかった、質問項目(3)の「教師の実践力の育成につながる内容であった。」に関しても、評価の平均点が4.0点に達していた。これは臨床心理士の実践の場として重要な位置を占めている学校現場でのアセスメント、相談活動、教員との連携についての知識・実践力の養成という観点を強調し、本授業に教師の実践力育成とつながる内容を盛り込んだことの効果だと思われる。なお、授業の改善点として自由記述に「スライドが早い」という意見があった。おそらく前回の演習のふりかえりのPower Pointの提示のスピードが早いということへの意見だと思われるが、守秘義務のため、事例の個人情報の入ったPower Pointのプリントアウトは配布できないため、次年度は提示する画面自体を厳選してスライド枚数を減らし、受講者がメモを取りやすくなるような工夫を考えたい。

結果報告書

授業科目名　臨床心理学統計法
評価実施日　平成23年12月22日
担当教員名　田中　秀紀　　回答者数　42　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	26	15	1				4.6
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	28	13		1			4.6
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	11	7	17	2	5		3.4
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	23	14	5				4.4
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	27	14	1				4.6
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	24	17	1				4.5
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	30	12					4.7
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	26	12	3	1			4.5
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	25	16	1				4.6
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	30	12					4.7



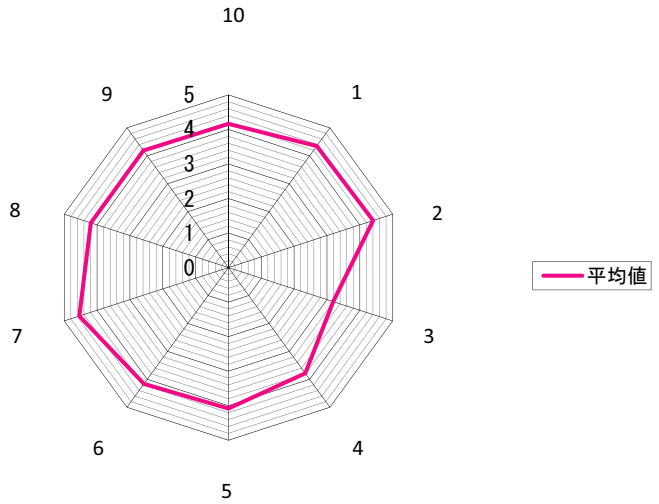
教員のコメント

前期集中の「臨床心理研究法特論」に引き続き、それをさらに発展させた内容の授業である。
3日間のうちに因子分析まで習得するというハードスケジュールながら、受講生は積極的に授業に関与したと感じている。
理論や統計法に使用される用語と理論の理解だけでなく、実際にデータを入力し、分析する実習を通じて、理論と実際の両面を学びたい。
最終の授業ではグループ分けを行い実際にデータ分析の発表をしたことを通じて、実際のデータからどのように統計的意味を抽出するかを体験的に学修したと考える。一方で統計以前に、パソコンソフトの起動レベルから不得手を示すものがおり、統計的分野そのものの理解がどれだけできたのか懸念される。しかしグループ全体でフォローすることもできており、全体的な理解度は高いものと考える。統計やパソコンに著しい困難を示すものに対してのこの授業の位置づけは今後より明確にしていく必要があると感じている。

結果報告書

授業科目名　臨床心理学研究法特論（前期集中分）
評価実施日　平成23年9月22日
担当教員名　田中　秀紀　　回答者数　37　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	16	19	1	1			4.4
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	21	12	2	2			4.4
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	7	6	15	5	4		3.2
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	6	18	12	1			3.8
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	11	18	8				4.1
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	15	16	4	1	1		4.2
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	22	13	2				4.5
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	15	16	5		1		4.2
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	14	17	5	1			4.2
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	12	20	4	1			4.2



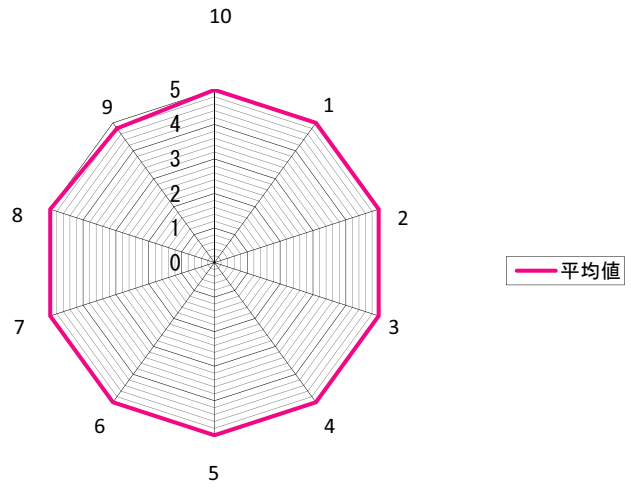
教員のコメント

受講生は臨床心理系が比較的苦手とする臨床心理研究法の基礎、統計法に関して主体的な態度で学んでいた。
特に統計の基礎は今後の修士論文作成や研究の思考法の基礎となるものであり、知識と理論、実際の運用に関して確実に学修することを望む。
教員としても知識の習得を重点的に教授するとともに、実際の使用法に関しても実習形式を取り入れつつ、受講生の理解が深まるようにしたい。

結果報告書

授業科目名　特別支援教育コーディネーター実践論
評価実施日　平成24年2月9日
担当教員名　井上　とも子　　回答者数　5　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	5						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	5						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	5						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	5						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	5						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	1					4.8
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	5						5.0



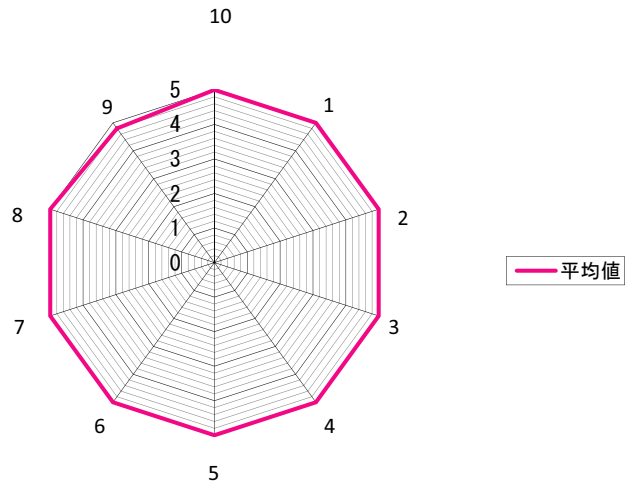
教員のコメント

この授業は、幼児とその保護者を協力者として就学前指導の教育的実践を中心とし、事前事後指導において、その実践を元にして「実践論」に結びつけたスーパーバイズを行っている。受講生5名共に指導準備から事後の分析、指導の修正、綿密な計画作成、記録などにチームワークよく取り組むことができ、幼児の言動にも改善、成長等の実践の成果を見ることができた。単なる実践論の講義ではなく、実際の指導（実践）と論を結びつけてのこの授業は、教育現場に戻ったときに役立つものと考え、今後もこの授業および授業形態は継続したいと考える。

結果報告書

授業科目名　社会資源開発運用・連携論
評価実施日　平成24年2月14日
担当教員名　井上　とも子　　回答者数　5　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	5						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	5						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	5						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	5						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	5						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	1					4.8
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	5						5.0



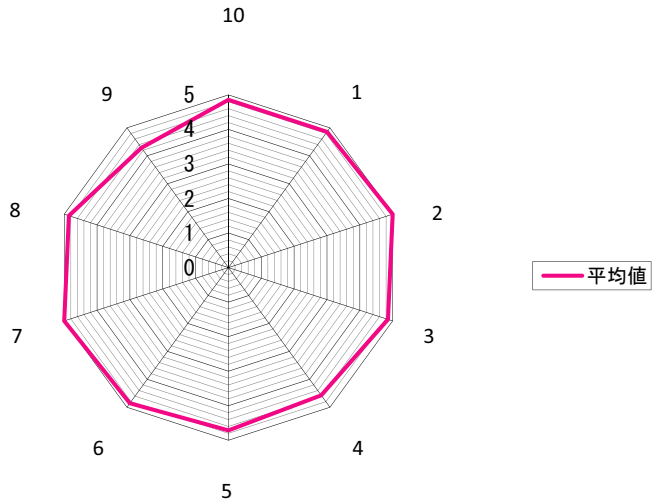
教員のコメント

この授業は、講義形式を取っているが、ほぼ毎週出される課題に取り組んできた内容の協議から始まる。協議の後の講義の内容は、次の課題を提示する前段階としての、「社会資源とは、開発とは」という講義内容、もしくは、実際の運用・連携例などを示した。すなわち、学生の主体的な取り組みが中心となった授業展開となっており、5名の受講生は充分主体的に課題に取り組めていた。しかし、課題に関して調べてきた内容の発表が中心となり、学校の課題や社会資源の開発・運用にかかる課題を協議することは、十分とは言えなかった。授業者としても、一人一人の考えを引き出し、実践の前に「現状に対して疑問を持って考えさせる」授業の最大の目的達成に課題が残っている。

結果報告書

授業科目名　特別支援教育課程特論演習
評価実施日　平成24年2月7日
担当教員名　八幡　ゆかり　　回答者数　7　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	6	1					4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	1					4.9
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	5	1	1				4.6
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	5	2					4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	6	1					4.9
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	7						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	6	1					4.9
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	3	1				4.3
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	6	1					4.9



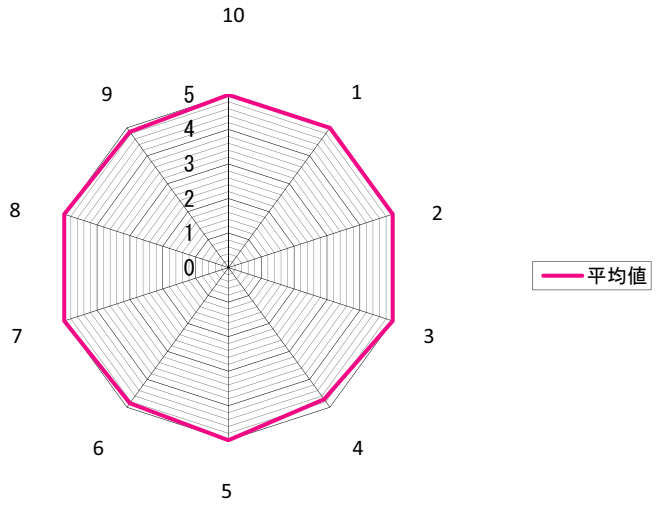
教員のコメント

「授業の内容」や「授業の進め方」の8項目について，平均4.7～5.0と高い評価であった。このうち，5.0の評価は，「授業の内容」の「(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容」と，授業の進め方の「(7)教科書や配布された資料の適切さ」であった。本授業科目が専門科目に位置づいていることから，「専門的知識に役立つ内容」が5.0であったこと，並びに本学が重視している「教師の実践力の育成につながる内容」について4.9と高い評価結果であったことから，受講生の専門性向上に役立つ内容であったと考えられた。また,本授業では受講生の主体的取り組みを重視したが,「授業への取り組みについて」の「(9)授業に主体的･積極的に取り組んだ」が4.3であったことから,ほぼ達成できたと考えられた。そして,総合評価の平均が4.9であったことから,受講生のニーズを満たした授業であったと言えよう。

結果報告書

授業科目名　特別支援教育指導特論演習
評価実施日　平成24年2月24日
担当教員名　大谷　博俊　　回答者数　7　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	7						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	7						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	6		1				4.7
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	7						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	6	1					4.9
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	7						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	7						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	1					4.9
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	7						5.0



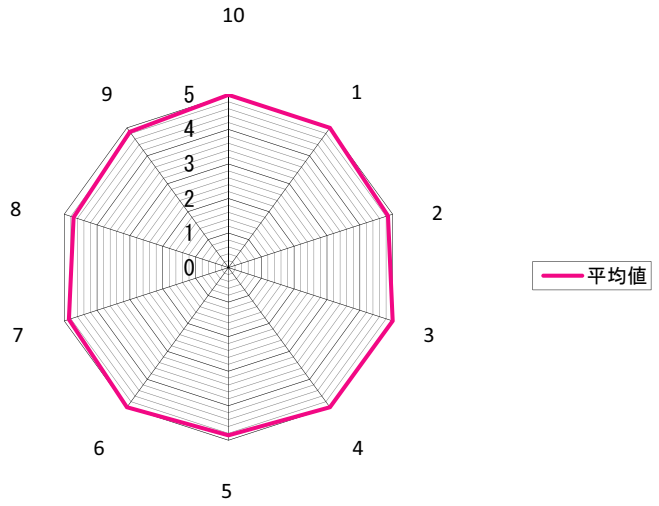
教員のコメント

授業の内容および教員の授業の進め方共に、受講生は高く評価している。また総合評価についても評価は高い。これらのことから、本授業は受講生のニーズに応えるものであったと推察する。何よりも、受講生の授業への主体的･積極的な姿勢を引き出せたことが幸いである。

結果報告書

授業科目名　特別支援教育臨床支援技法演習
評価実施日　平成24年2月17日
担当教員名　高原　光恵　　回答者数　7　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	7						5.0
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6	1					4.9
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	7						5.0
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	7						5.0
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	6	1					4.9
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	7						5.0
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	6	1					4.9
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	6		1				4.7
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	1					4.9
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	7						5.0



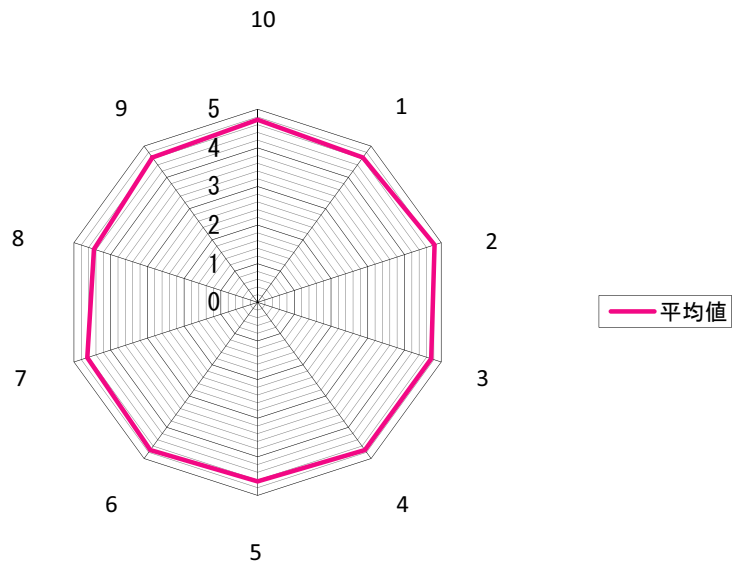
教員のコメント

全般的に高い評価となった。これは、毎週、受講生同士の準備協力が丁寧に行われていたことや、常に発表者以外も質疑、意見等で積極的に議論に参加していた姿勢から出された結果と思われる。今回の受講生は、現職教員、ストレートの2年課程の院生、長期履修生、とさまざまな立場、経験の院生が集まっており、授業内では、テキスト内容に絡んだ実際的な教育課題や対処方法の提案など、折々に討議の場が持たれることとなった。そのため、テキストからだけでなく、日本の教育の場で生じている課題や対処に関連する新たな気づきなど、それぞれが自発的に学びとることができたと思われる。

結果報告書

授業科目名　特別支援教育学習支援演習
評価実施日　平成24年2月20日
担当教員名　島田　恭仁　　回答者数　11　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	7	4					4.6
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	9	2					4.8
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	8	3					4.7
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	8	3					4.7
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	7	4					4.6
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	8	3					4.7
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	8	2	1				4.6
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	6	4	1				4.5
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	4					4.6
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	9	1	1				4.7



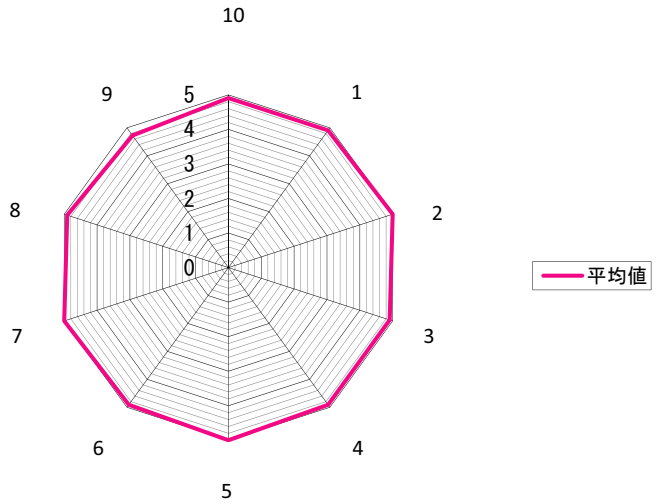
教員のコメント

10項目中6項目（問2・3・4・6・7・10）で，11名中8名以上が5の評定を行ったことから，授業内容はよく浸透し，授業を受けてよかったと思った受講生が多かったことが確かめられた。特に，問2・問3では全員が5又は4の評定であり，授業内容が「専門的知識を深めるのに役立ち」「教師の実践力の育成につながった」ことが分かった。心理検査の結果に基づいて個別指導計画を立案する実習を行ったため，専門的な知識の理解と教育実践力の育成を促すことができたと考えられる。問4・問6でも全員が5又は4の評定であり，授業内容が「受講生にとって分かりやすく」「成績評価も適切であった」ことが分かった。授業の当初にねらいと評価方法の説明を十分に行ったことで，学習への適切な構えを形成できたこと，WISC-Ⅲ・K-ABCなど受講生にとって関心の深い検査の実習を取り入れたことによると考えられる。しかしながら，問7・8・10で3の評定を行った受講生が1名いたことから，中には授業内容の理解に難しさを感じていた受講生もいることが分かった。従って，今後は「配布する資料」「板書や視聴覚機器の使用」について工夫し，より一層授業内容の浸透を図る必要があると考えられた。受講生同士が検査者・児童の役割を演じるロールプレーは有効だったが，それに加えて，検査実施法のデモンストレーションDVDを視聴するなど，観察学習の機会を提供することを検討してみたい。

結果報告書

授業科目名　発達障害児支援医学演習
評価実施日　平成24年2月13日
担当教員名　津田　芳見　　回答者数　11　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	10	1					4.9
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	11						5.0
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	10	1					4.9
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	10	1					4.9
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	11						5.0
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	10	1					4.9
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	11						5.0
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	10	1					4.9
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8	3					4.7
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	10	1					4.9



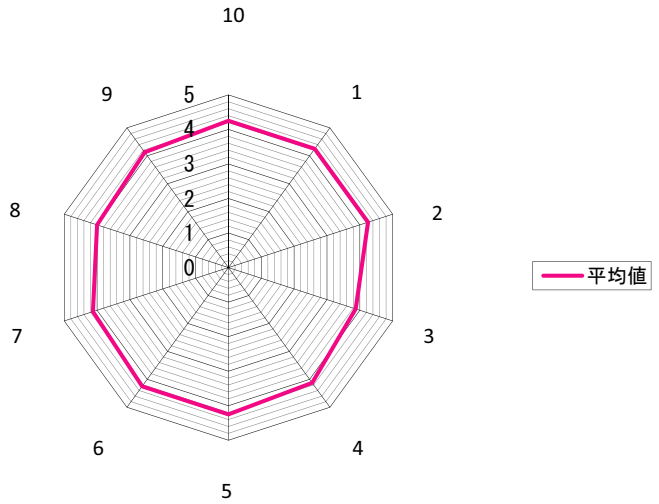
教員のコメント

「全体的に平均して高い評価を受けているようである。
特に専門的知識や、概説などが高い評価を受けている。
学生の授業への積極的取り組みについても、4．9と高くなっており、自主的に、教育現場の課題と関連づけて取り組んだものと推測している。
ワークショップ的な授業を取り入れたため、積極的な授業参加が図られたと考える。」

結果報告書

授業科目名　発達障害児神経学演習
評価実施日　平成24年2月17日
担当教員名　田中　淳一　　回答者数　8　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4	2	2				4.3
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	2	2				4.3
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	3	3				3.9
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	4	1	3				4.1
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	4	2	2				4.3
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4	2	2				4.3
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	3	3	2				4.1
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2	4	2				4.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	3	2				4.1
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	4	2	2				4.3



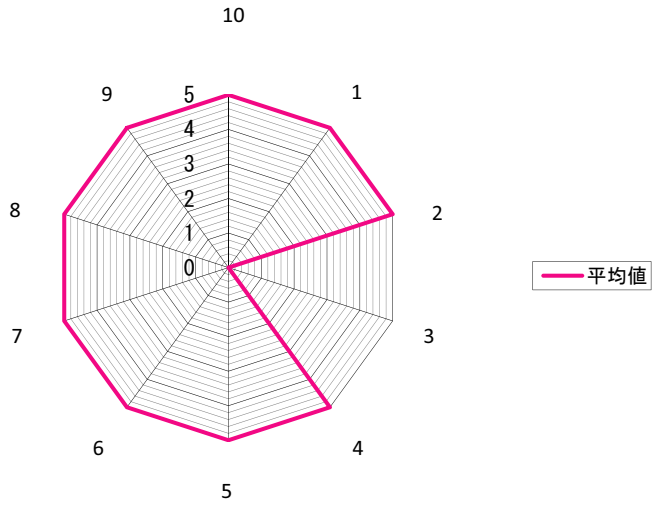
教員のコメント

ある程度の適切な演習が出来たことが、多くの質問項目の平均値が4.0を上回っていることから伺うことが可能であると思われる。ただ、教師の実践力につながる内容に改善していくことが重要であることが指摘されている。専門性が高い演習であるだけに、理解しやすいような説明を行うよう努力した。当分野は興味、関心のある学生が受講するので、熱心に演習にとりこんでくれ、また調査や発表を熱心に行ってくれたように思われる。内容は、昨年度よりもさらに興味のあると思われるものを多くするように考慮した。演習方法および評価も問題がなかったように感じられる。アンケートでの良かった点、悪かった点のほとんどは空白であり、具体的に指摘して頂ければ、今後の演習の改善につながるものと思えた。

結果報告書

授業科目名　日本事情・日本文化
評価実施日　平成24年2月9日
担当教員名　古賀　美千留　　回答者数　3　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	3						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。						3	######
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	3						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	3						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	3						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3						5.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	3						5.0



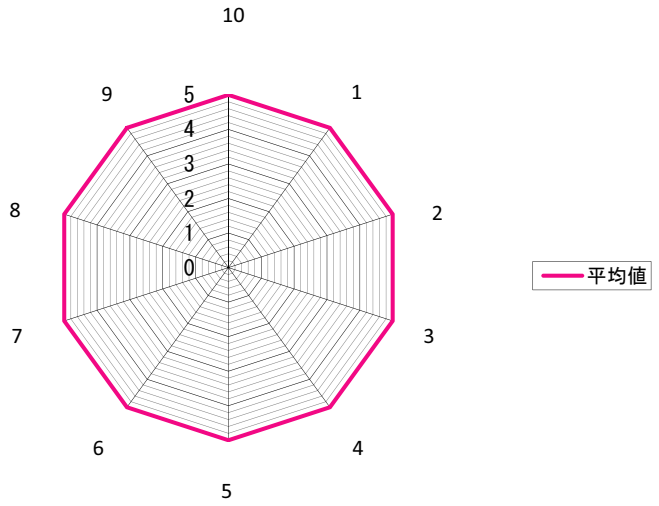
教員のコメント

この授業では、留学生を対象に、日本文化・日本事情への理解を深めること、また最終的には日本語で自分が興味をもったトピックについてプレゼンテーションを行うことをを目標とした。受講者数は3名（＋聴講3名）であった。
総合評価・全項目の平均点ともに5.0であり、高い評価が得られた。人数が少ない授業であることを考慮する必要はあるが、授業について学生が評価してくれたことを素直に喜びたい。
自由記述欄では、改善すべき点についての言及は特になく、良かった点への記述のみであった。具体的には、授業内容について、「内容がわかりやすく面白かった」（ほか1名）、「日本文化・事情を広く学ぶことができた。内容が豊富だった」（ほか1名）、「日本のニュース、文化について理解が深まった」という意見、日本語学習としての効果について「さまざまな語彙が学習できた」「（プレゼンテーションによって）話す力と聴解力も伸びた」、また、担当教師について「親切だった」「分かりやすく授業をしてくれた」という意見が挙げられていた。
基本的な日本事情・日本文化のトピックに加えて、学習者の学びたい分野を授業冒頭のアンケートで聞き、その年度の学習内容に反映させるという形式をとって3年目になるが、学習者のモチベーションも高まり、また学習後の満足度も高いようである。これからも、この結果に慢心することなく、丁寧な授業準備、授業内容の改善を引き続きおこなっていきたい。

結果報告書

授業科目名　日本語Ⅲ
評価実施日　平成24年2月20日
担当教員名　永田　良太　　回答者数　2　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	2						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	2						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2						5.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2						5.0



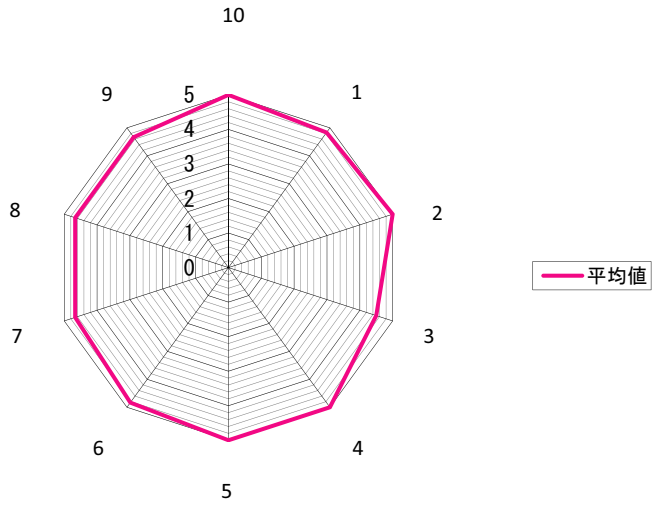
教員のコメント

本授業では，レポートや論文を読むための日本語力を身につけることを目標とした。各項目の評価を見ると，授業内容や授業の進め方に関しては適切であったと思われる。また，授業中には受講者からの主体的な質問や発言も目立ち，日本語の語彙や文法についても深めることができた。本授業の受講者は全員漢字圏の学習者で日本語レベルもほぼ同じであったが，今後は学習者一人ひとりの学習状況を詳しく把握することで，さらに細やかな指導を心がけたい。

結果報告書

授業科目名　日本古典語演習
評価実施日　平成24年2月27日
担当教員名　原　卓志　　回答者数　6　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	5	1					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	1	1				4.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	6						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	6						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5	1					4.8
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	4	2					4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	4	2					4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	2					4.7
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	6						5.0



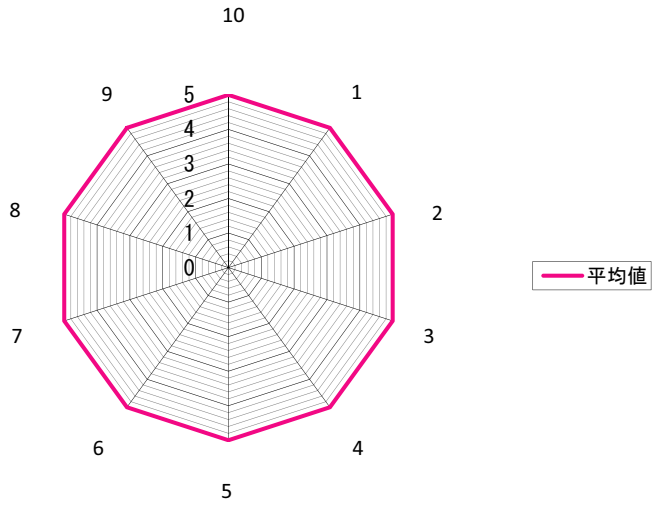
教員のコメント

本年度は、徳島県美馬市美馬町の古刹願勝寺に伝わる古典籍の中から、江戸時代書写(天明二年成立)の「紀行餘所能春」を取り上げ、輪読形式で授業を進めた。
本作品は、これまで知られなかった作品であり、活字として紹介されることもなかったものである。前期に取り上げた片仮名文とは違い、この度は平仮名文であったため、変体仮名と漢字のくずし字に戸惑い、苦労しながらの読解作業になったが、受講生諸君はよく頑張った。その甲斐あって、1・2月頃にはかなりなスピードで読み解けるようになっていた。
本作品が紀行文であることから、作品の記述に沿って、現代の道路地図帳をもとにそのルートを確認する作業を取り入れたことが、受講生の興味を引いたと思われる。受講生からは、「紀行文を使用した授業で、実際に作中に登場する地名を現在の地図にあてはめて作業を進めていったことが、旅の行程を把握する助けとなり、授業の理解が深まった」というコメントがあった。残念なことに、本作品が旅程と風景の記述に終始しており、土地土地で出合った人々との交流や、心理的な描写に欠けるなど、文学性という面では優れた作品とは言えず、古典文学作品の読解という点ではもの足りない作品であった。学生の「次はもう少しメジャーなものが読みたいです」という要望は、このもの足りなさから出たものであると考えられる。

結果報告書

授業科目名　現代日本語演習
評価実施日　平成24年2月7日
担当教員名　茂木　俊伸　　回答者数　3　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	3						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	3						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	3						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	3						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3						5.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	3						5.0



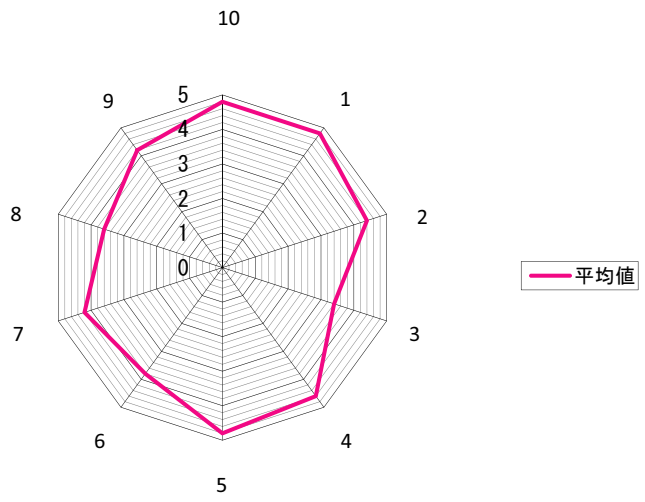
教員のコメント

本授業では，現代日本語に関する研究論文を批判的に読みながら，「意味分析」をテーマとする演習活動を行った。受講者数は，昨年度の 7 名から大幅に減少し，2 名（＋聴講 1名）であった。
授業評価は，総合評価・全項目の平均値ともに 5.0 であるが，回答数が少ないため，具体的な分析は困難である。
自由記述欄に関しては，改善すべき点の指摘はなく，「大変丁寧で良かったし，ありがたかった」「すごくやりがいを感じました」という意見が得られたため，総合的には肯定的な評価が得られたものと思われる。

結果報告書

授業科目名　日本文学演習Ⅰ
評価実施日　平成24年2月17日
担当教員名　野口　哲也　　回答者数　5　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4	1					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	3					4.4
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。		3	1	1			3.4
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	3	2					4.6
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	4	1					4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。		4	1				3.8
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	2	2	1				4.2
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	1	1	3				3.6
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1		1			4.2
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	4	1					4.8



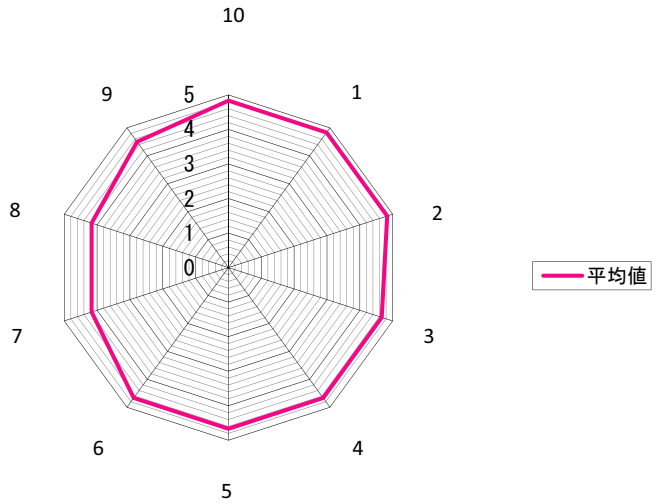
教員のコメント

演習科目としても少数の受講者数で開講できたこともあり、授業中に充実した議論を行うことができたと思う。自由記述による回答においても、時間をかけて文学作品を読むという作業自体に高い満足度が示されている。
(3)の「実践力」については、予てより「すぐには役に立たないかも知れない教養」「何の役に立つのか分からないスキル」として文学研究の意義があると考えているので、質問項目の文言に対して違和感が無いわけではないが、この評価結果は妥当なところかと思う。担当者は他大学に移籍したが、受講生がいずれ何らかの機会に本授業で読み込んだ作品に再び接したり、思い返したりしてくれることがあればと願っている。

結果報告書

授業科目名　日本文学演習Ⅱ
評価実施日　平成24年2月9日
担当教員名　小島　明子　　回答者数　6　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	5	1					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	1					4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5		1				4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	4	2					4.7
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	4	2					4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5		1				4.7
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	2	3	1				4.2
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2	3	1				4.2
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	1	1				4.5
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	5	1					4.8



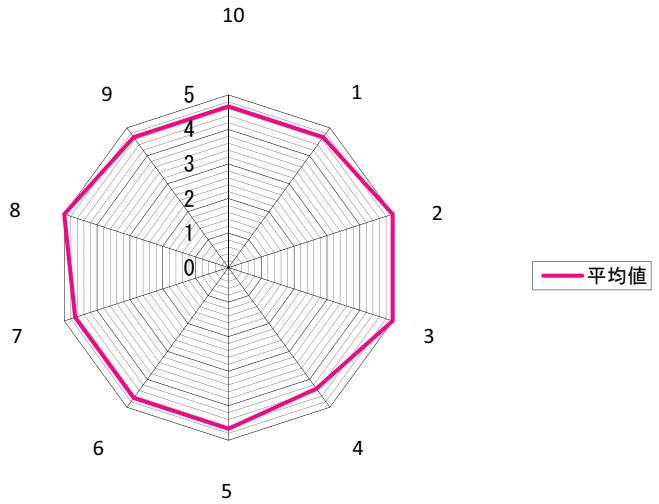
教員のコメント

この科目は演習科目であったため、授業者は学生の主体的な取り組みをサポートし、方向づけを行うことを主にした。その結果、学生自身が自分の努力に積極的な評価をしていたように思う。板書・プリント類についてはやや評価が下がっていたが、これは授業者というより演習の担当者の問題であったと思われ、その点については以降の授業で改善を図りたい。

結果報告書

授業科目名　日本語教育学演習
評価実施日　平成24年2月7日
担当教員名　小野　由美子　　回答者数　3　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2	1					4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	1	2					4.3
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	2	1					4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2	1					4.7
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	2	1					4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	1					4.7
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2	1					4.7



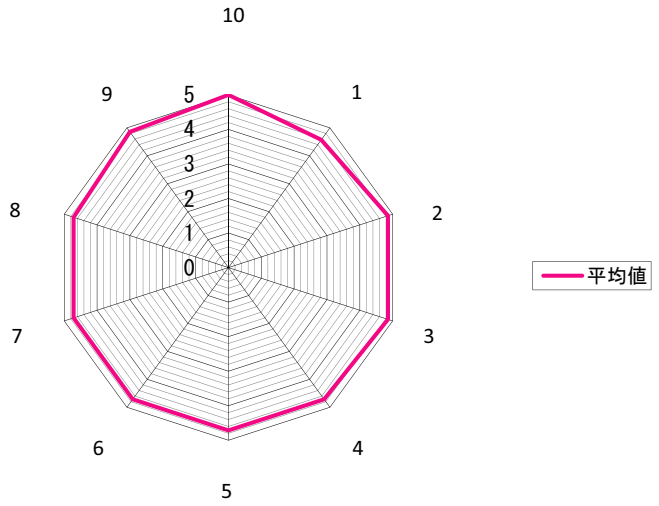
教員のコメント

これからも学生の要望に応えられるような授業をしていきたい。

結果報告書

授業科目名　日本語文法演習
評価実施日　平成24年2月8日
担当教員名　永田　良太　　回答者数　7　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	5	1	1				4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6	1					4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	1					4.9
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	5	2					4.7
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	5	2					4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5	2					4.7
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	5	2					4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	5	2					4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	1					4.9
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	7						5.0



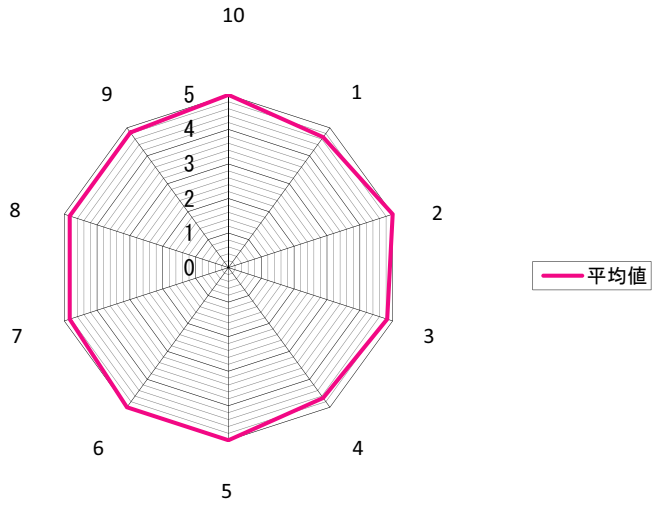
教員のコメント

本授業は，論文の講読を通じて日本語の文法についての知識を深めるとともに，文法研究の観点および方法論を身につけることを目標とした。授業では，グループ発表および受講者一人ひとりに論文の内容を紹介してもらうとともに疑問点，問題点を指摘してもらい，それをもとにディスカッションを行い，理解を深めていった。今回の評価結果を見ると，本授業に対して受講者自身も概ね達成感を感じているものと思われるが，「授業の進め方」に関しては改善する必要がある。アンケートの自由記述を見ると，「先生の（論文内容の）解説に頼りすぎていた」という回答が見られたが，今後は受講者の理解度をふまえつつ，一人ひとりに考えさせる授業作りに努めたい。

結果報告書

授業科目名　日本語語彙論
評価実施日　平成24年2月10日
担当教員名　永田　良太　　回答者数　6　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4	2					4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	1					4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	4	2					4.7
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	6						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	6						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	5	1					4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	5	1					4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	1					4.8
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	6						5.0



教員のコメント

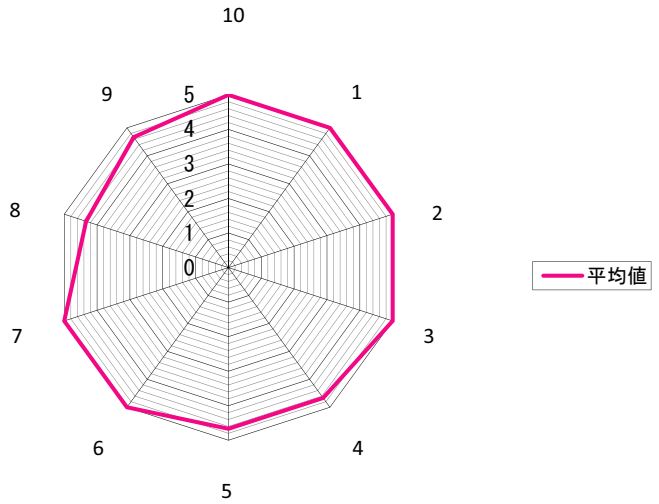
本授業は，普段無意識に使用している日本語の語彙を意識化するとともに，日本語教師として必要な語彙の意味や体系に関する知識を身につけることを目標とした。このような授業目標を達成する上で，留学生や他コース(英語コース)の学生の参加を得たことは有意義であった。他の言語と比較することで，日本語の語彙の特徴が明らかになるとともに，日本語学習者としての視点からの発言により，習得上の問題点を確認することができた。また，本授業においてはディスカッションを多く取り入れたが，アンケートの自由記述欄を見ると，そのようなディスカッションを通して，ことばに対する感覚や言語観を磨くことができたという回答が多く見られた。今後も，様々な方法を取り入れることで，受講者の主体的な学びを促進していきたい。

結果報告書

授業科目名　国語科授業演習
評価実施日　平成24年2月16日
担当教員名　幾田　伸司

回答者数　3　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	3						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2	1					4.7
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	2	1					4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	3						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2		1				4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	1					4.7
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	3						5.0



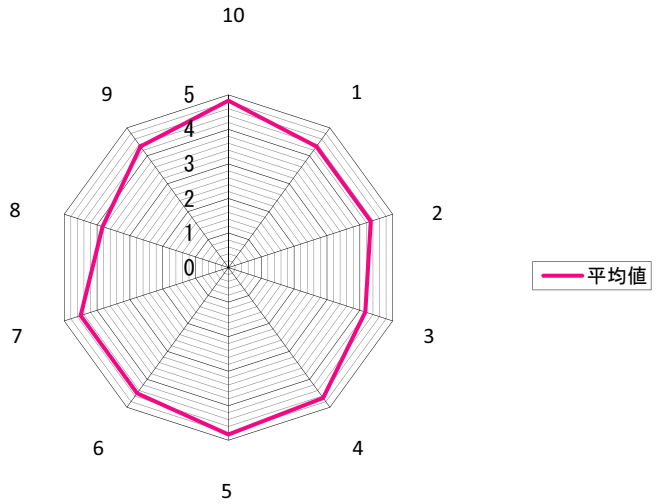
教員のコメント

非常に高い評価をしていただきました。例年以上に少人数だったこともあり、発表にも討議にも受講生自身が主体的・積極的に取り組んでいたことが、満足度の高さにつながったのだと思います。今年度は、国語科教育に関する知見の多寡、関心の所在など、受講生個々の問題意識がばらばらでしたが、その分、多様な面で意見が交わせたように思います。一方で、そうした多様さに授業者が十分配慮しきれなかった面もありましたので、今後の課題としたいと考えています。

結果報告書

授業科目名　国語科教材開発演習
評価実施日　平成24年2月20日
担当教員名　余郷　裕次　　回答者数　6　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4		2				4.3
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	2	1				4.3
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	1	2				4.2
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	5		1				4.7
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	5	1					4.8
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	4	1	1				4.5
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	4	1	1				4.5
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2	1	3				3.8
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4		2				4.3
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	5	1					4.8



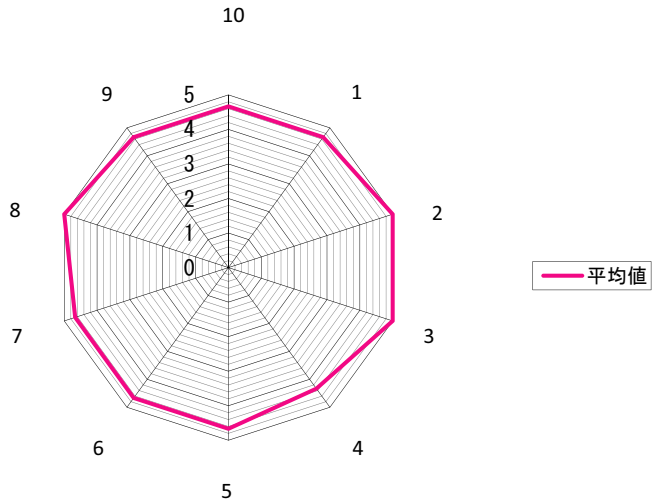
教員のコメント

「（10）この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。」の平均値が4.8であった。これは、この授業が受講者にとって一定の満足を与えたものと考えられる。その理由としては、6人という少人数であったために、演習の担当が複数回となり負担感はあったものの、発表による達成感や充実感があったと推測される。また、少人数ではあるが「分野が違っても、先生や他のメンバーから意見がもらえるので発想が広がった。」という感想には、国語科教材に対して大学院生それぞれの研究分野からのアプローチが、相互に刺激になったことが示唆されている。しかし、演習とはいえ、6人の受講者をせめて2倍にする必要がある。言語系コース（国語）の定員充足ともからむ問題であるが、受講生を増やす努力を続けたい。

結果報告書

授業科目名　日本語教育法演習
評価実施日　平成24年2月7日
担当教員名　小野　由美子　　回答者数　3　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2	1					4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	1	2					4.3
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	2	1					4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2	1					4.7
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	2	1					4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	1					4.7
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2	1					4.7



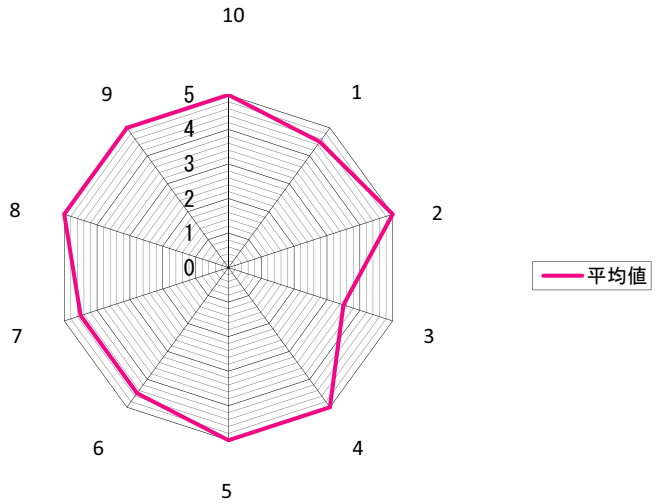
教員のコメント

これからも学生の気持ちにこたえられるような授業をしていきたいです。

結果報告書

授業科目名　英米文化研究Ⅲ（言語文化研究）
評価実施日　平成24年2月16日
担当教員名　杉浦　裕子　　回答者数　2　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	1	1					4.5
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2						5.0
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。		1	1				3.5
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	2						5.0
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	2						5.0
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	1	1					4.5
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	1	1					4.5
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2						5.0
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2						5.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2						5.0



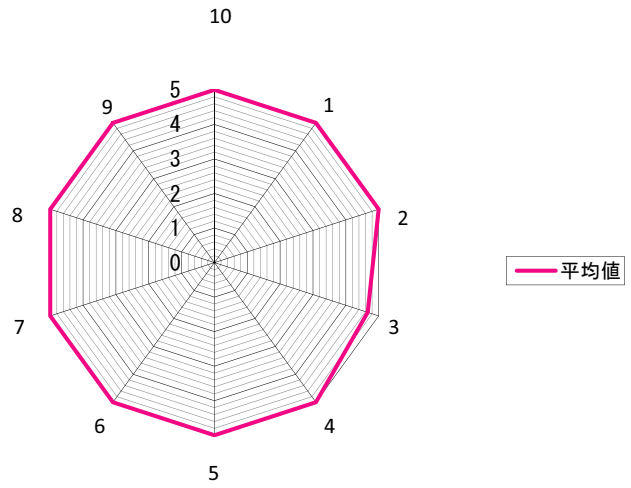
教員のコメント

今年の後期は受講生が2名ながら、戯曲を精読してディスカッションする密度の濃い授業を実践できて、それが受講生の満足につながったことが高評価に表れている。受講生は二人とも非常に感性が鋭く、教師と学生というよりむしろ三人が対等な立場で、一人で読んでも意味がわかりにくい哲学的なテーマなどを議論することができた。受講生の研究における興味・関心の刺激にもなったようで、授業をきっかけに投稿論文を書いた受講生もいた。

結果報告書

授業科目名　学習英文法演習Ⅰ
評価実施日　平成24年2月8日
担当教員名　眞野　美穂　　回答者数　3　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	3						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	1					4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	3						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	3						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	3						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3						5.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	3						5.0



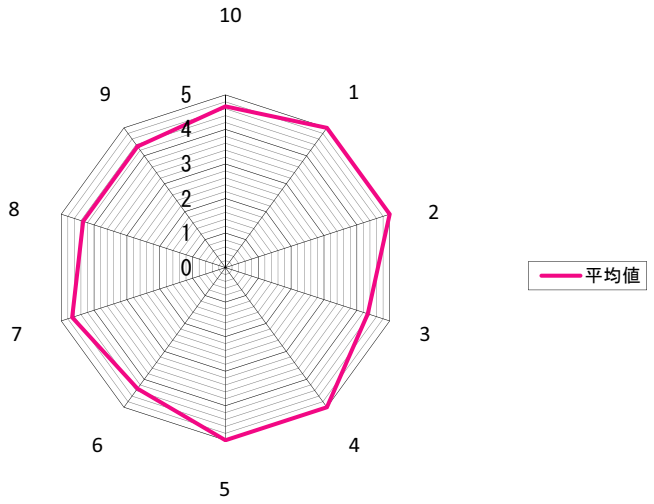
教員のコメント

アンケートの結果を見ると、ほぼ授業内容にいい評価が得られたことが分かる。また内容に関しても、要望にこたえられたようである。今年度はできるだけ丁寧な説明を心がけたことがよかったと考えるため、今年度以降も同様に授業に取り組みたいと思う。

結果報告書

授業科目名　学習英文法演習Ⅱ
評価実施日　平成24年2月10日
担当教員名　藪下　克彦　　回答者数　3　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	3						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2		1				4.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	3						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	3						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2		1				4.3
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	2	1					4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2		1				4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2		1				4.3
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2	1					4.7



教員のコメント

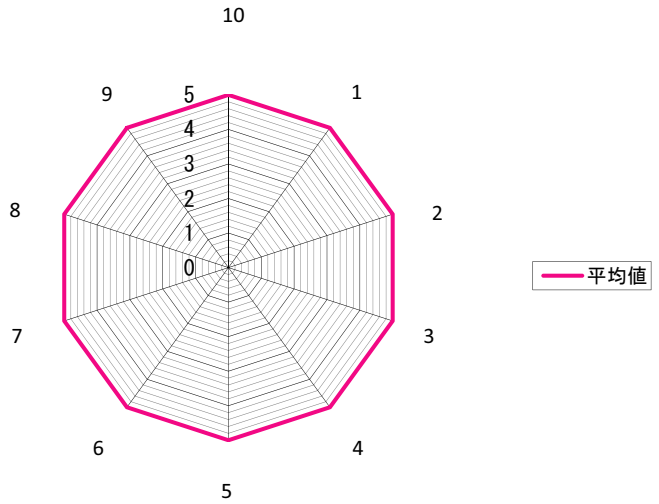
回答者3人のうち，2人は全項目で「5」を付けてくれたことは，光栄であった。しかし，1人の受講生がいくつかの項目で「4」または「3」の評価をしていることから，慢心することなく，授業内容，授業方法で改善をしていく所存である。なお，「この授業でよかったと思われる点」として，「学校で教える文法内容が深く理解できた。」という意見があった。その他の意見としては，「役に立った。」があった。

結果報告書

授業科目名　小学校英語教育演習
評価実施日　平成24年3月5日
担当教員名　ジェラード　マーシェソ

回答者数　2　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	2						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	2						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2						5.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2						5.0

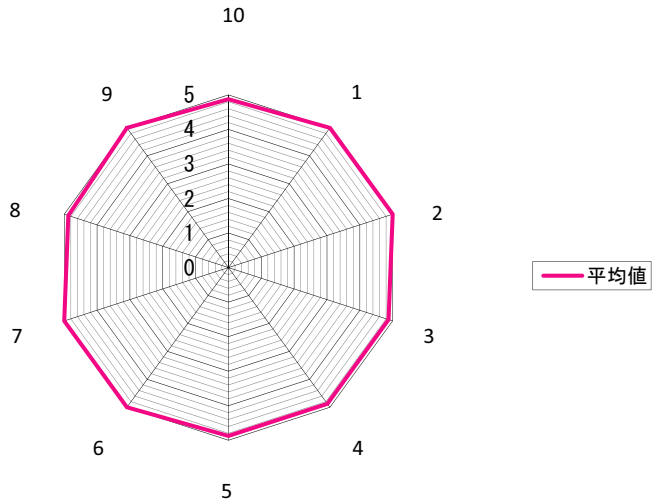


教員のコメント

結果報告書

授業科目名　英語科教育演習Ⅰ
評価実施日　平成24年2月24日
担当教員名　伊東　治己　　回答者数　8　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	8						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	7	1					4.9
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	7	1					4.9
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	7	1					4.9
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	8						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	8						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	7	1					4.9
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8						5.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	7	1					4.9



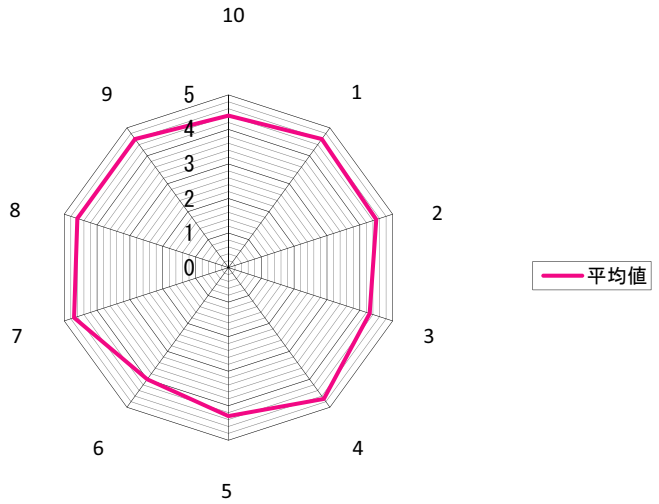
教員のコメント

本授業の目的は，英語のリーディング指導に必要な三つの主要なインターラクション、つまり、①学習者内部でのBottom-up ProcessとTop-down Processのインターラクション，②テキスト内部での部分と部分、部分と全体の間のインターラクション，③教室内部での技能・教材・個人の間でのインターラクションに焦点を当てながら、Interactive Reading Instructionの理論と実践について、基本文献の講読とワークショップ等を通して、多角的な考察を加えていくことであった。本授業に寄せられた受講生からの評価結果（10項目中5項目で授業評価を行った受講生10名全員が5の評価で，残りの5項目では10名中9名が5の評価，そして全体の平均値は4．9）から判断する限り、授業の目的を達成する上で一応の成果が得られたものと考えることができる。具体的な成果としては、授業のメインテーマであるInteractive Reading Instructionの理論について原書講読とそれに基づく講義を通して一定の理解を受講者に授けるとともに、具体的な教材をもとにした授業実践方法についても受講生の理解を深めることができたと思われる。受講生からも「学生が主体的に関わることができた」，「英文を読む力が強くなってきました。」，「英語教育に関して様々な文献を読むことができたことがよかったです。」，「英語授業実践に役立つすばらしい内容であったと思う。」など，好意的な意見が寄せられた。ただ，「(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。」，「(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。」，「(5)授業の進む速さは，適切であった。」，「(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。」の4項目に関しては1名の受講生から4の評価を得ており，改善の余地が残されている。今後，受講生の反応を見ながら，必要があれば改善していきたい。理論ほど実践的なものはないというのが持論であり、今後も実践につながる理論と理論に支えられた実践の連係を模索していきたい。

結果報告書

授業科目名　英語科教育演習Ⅱ
評価実施日　平成24年2月27日
担当教員名　山森　直人　　回答者数　10　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	7	2	1				4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6	3	1				4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	2	1	1			4.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	7	3					4.7
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	6	2	1	1			4.3
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	6		3		1		4.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	8	1	1				4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	7	2	1				4.6
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	4					4.6
総合評価が4.4であることを考慮する	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	6	3		1			4.4



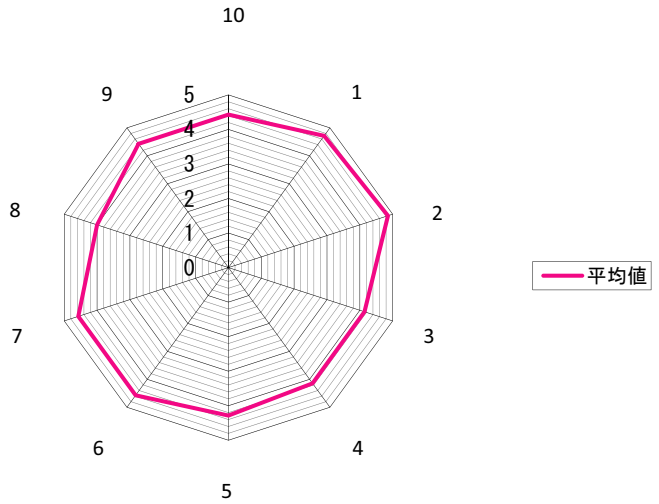
教員のコメント

総合評価が4.4，またその他項目が4ポイント以上を得たことを考慮すると，本授業は学生にとって意味のあるものであったのではないかと考える。しかし，項目3, 5, 6は評定にばらつきが見られ，今後何らかの修正が求められる。これらの項目は前年度も評定が相対的に低い。新年度は，授業内容の修正を図るというよりも，むしろ学生と対話をする機会を増やす方向で，授業進度(項目5)や分かりにくさ(項目6)の問題に対処したいと考える。また教師の実践力の育成(項目3)との関連については，受講生が捉える「教師の実践力」の意味を把握するのと同時に，本授業の目的・主旨をおさえながら対処していきたい。

結果報告書

授業科目名　歴史学研究Ⅰ
評価実施日　平成23年12月23日
担当教員名　西尾　和美　　回答者数　7　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	5	2					4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6	1					4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	2	2				4.1
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	3	2	2				4.1
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	4	2		1			4.3
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	6			1			4.6
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	5	1	1				4.6
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	4	1	1		1		4.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	2	1				4.4
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	4	2	1				4.4



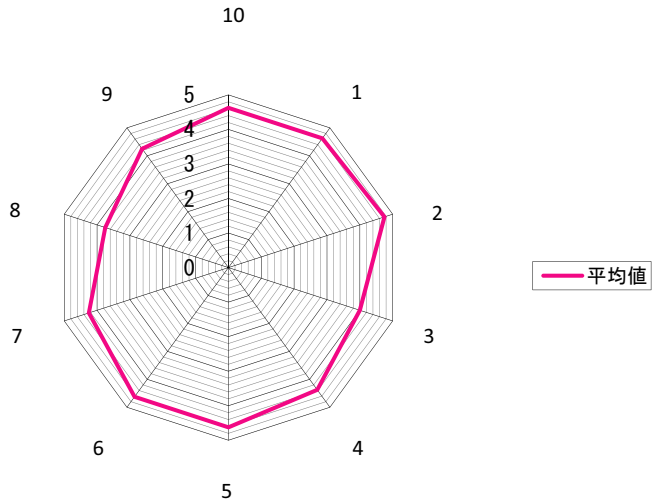
教員のコメント

総合的な評価からすると、この授業は概ね受講生にとって良好なものであったと判断される。特に、(2)の専門知識、および(6)の説明のわかりやすさ、(7)の配付資料については、授業担当者として意を用いた点でもあったので、受講生の高い評価を得ていることは喜ばしい。ただ、そのような全体的傾向の中でも比較的、評価が低かったと思われ点がいくつか見られる。それらについて順次コメントしたい。まず、(3)教師としての実践力につながる内容という点について。この授業の性格からして、また専門知識を深めるという(2)との両立から考えて、この評価を高めるのはなかなか難しい課題でもあると思われるが、次年度は受講生の期待なども聞きながら、授業運営上で、また新たな内容を盛り込む工夫なども考えてみたい。(4)の成績評価方法の説明については、今年度以上に説明を徹底することとする。(8)の板書や視聴覚機器の使用については、なかなか授業内容に有効な視聴覚教材がないため、視聴覚機器は使用しなかったが、代わりに多くの絵画資料を配付しているので、その点で受講生の理解を得るように努めたい。板書については、大学院生対象の授業であるため、学部生に対するような逐一の板書を行わなかったが、次年度は板書の量や方法などにも配慮を高めることとする。なお、各評価項目の評価選択人数の分布を見ると、7人の受講生のうち、授業の速さ、わかりやすさ、板書等をはじめとして、1～2名の学生が総じて低評価を選択している可能性が考えられることから、より一人ひとりの受講状況を観察し配慮した上で、次年度は授業を運営したいと考えている。

結果報告書

授業科目名　歴史学演習Ⅰ
評価実施日　平成24年2月13日
担当教員名　大石　雅章　　回答者数　8　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	5	3					4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6	2					4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	2	3				4.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	3	5					4.4
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	5	3					4.6
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5	3					4.6
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	3	4	1				4.3
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2	3	2	1			3.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	4	1				4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	5	3					4.6



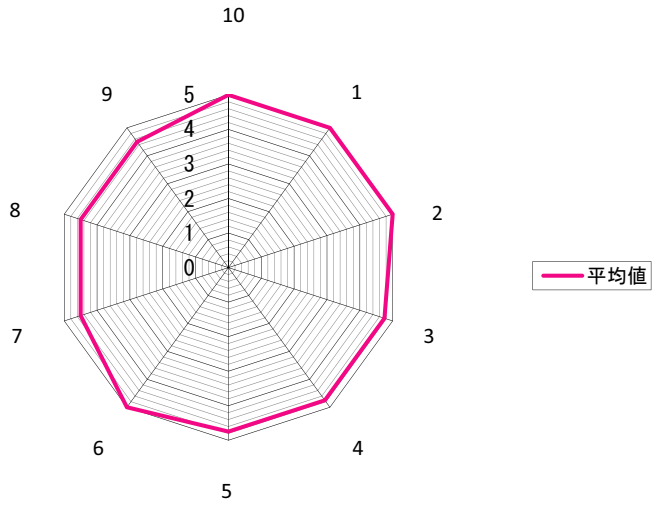
教員のコメント

総合評価の平均が4．6であり、学生からの評価は一応満足できるものであった。しかし「(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。」の項目が3．8で唯一3点台であったことを踏まえ、とくに今後板書の仕方を工夫し、改善していく。

結果報告書

授業科目名　歴史学演習Ⅱ
評価実施日　平成24年2月9日
担当教員名　町田　哲　　回答者数　4　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	1					4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	3	1					4.8
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	3	1					4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	2	2					4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2	2					4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	2					4.5
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	4						5.0



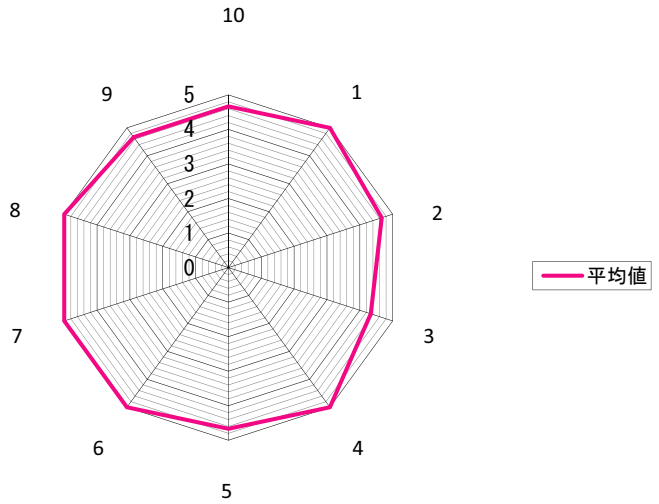
教員のコメント

この演習では、日本近世史を通じて、歴史の見方・考え方を培うため、論文演習のスタイルで進めた。具体的には、東アジアの中の近世日本、中近世移行期における兵農分離、およびそれらを村社会から捉える内容の論文を読み進めた。論文は、日本近世史の骨格を形成した古典的論文、研究史上の画期となる論文、あるいは最新の研究成果に基づく論文など、時期的にも形式的にも多様なものを選び、内容理解、研究史展開にそって整序しながら進めた。受講生の人数は少なかったが、皆、積極的に演習に参加しており、こうした積極的姿勢が、高い評価に繋がったものと考えられる。また、以外にも「実践力の育成」にも高い評価を得た。これは、こうした学術論文を読み進めるスタイルであっても、その内容を充分に理解することができれば、必ずしもアクティブな活動を伴わなくとも、意識的にテーマを掘り下げるなどして、実践に必要な力量を得ることができるということであろう。この点を確認できたのが、授業者にとっても収穫であった。こうした発見を、今後の教育活動にも活かしていきたい。

結果報告書

授業科目名　歴史学演習Ⅲ
評価実施日　平成24年2月2日
担当教員名　原田　昌博　　回答者数　3　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	3						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	1					4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2		1				4.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	3						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	2	1					4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	3						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	1					4.7
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2	1					4.7



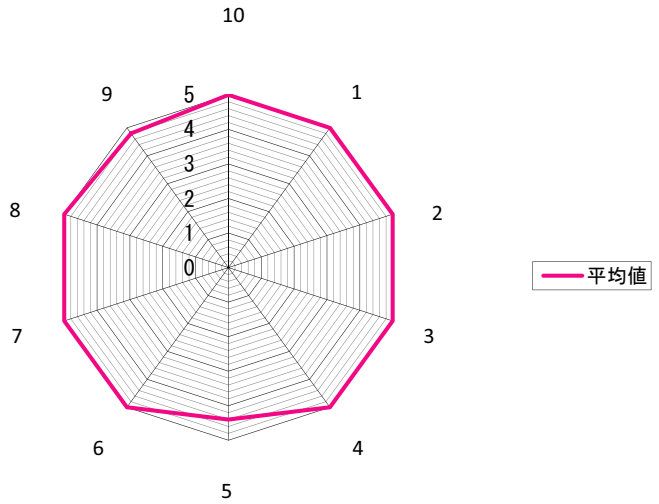
教員のコメント

2011年度は戦後ドイツにおける「過去の克服」をテーマにした著作を輪読し、第二次世界大戦後のドイツを中心にした西洋現代史と戦争責任・戦後責任の問題について検討した。受講者数が3名と少なく、アンケートのサンプル数が十分ではないが、全体的に見て、各質問項目とも「5」の評価が最も多かった点から、授業担当者として概ね本講義の目標を達成できたのではないかと考えている。

結果報告書

授業科目名　法学・政治学演習
評価実施日　平成24年2月14日
担当教員名　麻生　多聞　　回答者数　5　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	5						5.0
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5						5.0
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	5						5.0
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	5						5.0
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	3	1	1				4.4
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	5						5.0
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	5						5.0
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	5						5.0
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	1					4.8
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	5						5.0



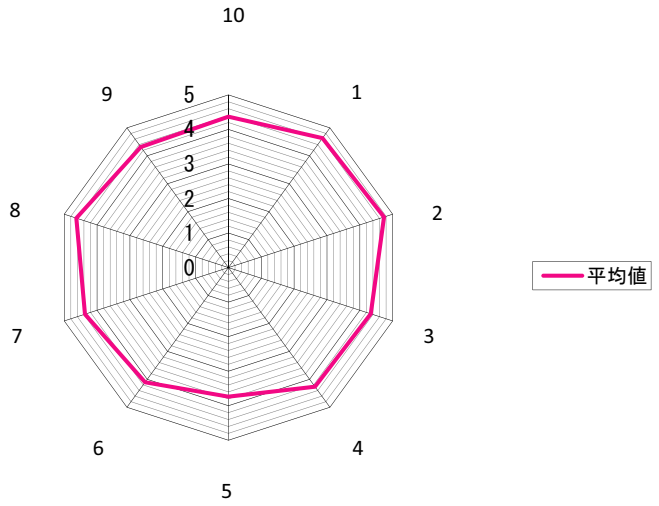
教員のコメント

2011年度の法学・政治学演習では、板垣雄三編『対テロ戦争とイスラム世界』（岩波書店）を講読した。一般市民向けに書かれた新書ということもあり、内容も特に難解で歯が立たないということはなかったように思われる。「テロリズム」という用語が特定の政治的暴力と結びつけられることにより、どのような効果が生じるのかというテーマについて、参加者全員で討議を通じ、各自の問題意識を持ってもらうことができたのではないかと考えている。予習や報告レジュメの作成に関しては、十分頑張ってもらったと評価したい。ただし、討議における問題提起や質問については、もう少し元気よく主体的に遠慮なく手を挙げてもらいたかったというのが本音である。とはいえ、受講生の真摯な受講姿勢に十分助けられて、実りある大学院の演習という時間を共有できたことに感謝したい。

結果報告書

授業科目名　社会科授業研究
評価実施日　平成24年2月20日
担当教員名　梅津　正美　　回答者数　19　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	14	3	2				4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	16	1	2				4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	10	6	1		1	1	4.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	9	6	4				4.3
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	4	7	7	1			3.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	8	6	4	1			4.1
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	8	10	1				4.4
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	12	7					4.6
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	11	4	3	1			4.3
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	11	5	2	1			4.4



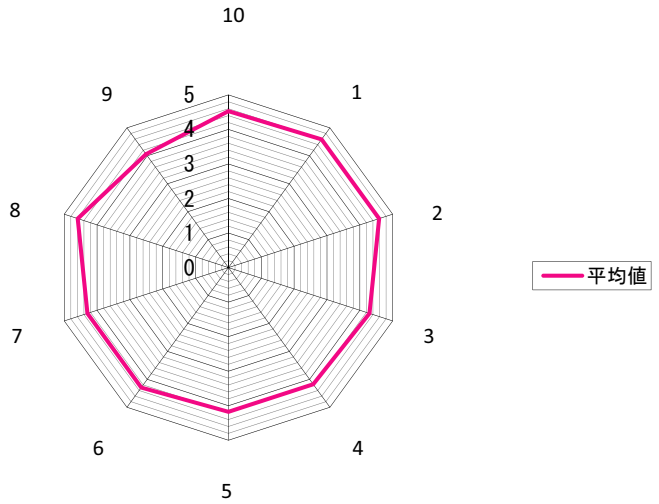
教員のコメント

本講義は、①社会科授業研究の方法論を理解し活用できる、②社会認識論を視点にした社会科授業の類型・特色・限界を理解し説明できる、③社会的判断力育成型授業の類型・特色・限界を理解し説明できることを到達目標に展開した。講義で分析対象に取り上げた授業研究例は、いずれも学校現場で実践された事例であった。学校現場で為されている授業研究を説明し、近い将来学生自らがそれを展開できる力量を形成するために講義と議論を行った。19人の受講生（評価者）の総合評価は4.4であり、「専門的知識を深める内容であったか」に関する問いでは4.7の評価を得ている。また、「教育実践力の育成に役立つ内容であったか」との問いに対しては4.3の評価を得ている。こうした結果から、本講義の目的・内容・方法は、概ね受講生から意義あるものと評価されたとみることができる。授業の進度に関する評価点が、3.7と低かった。学生の理解を確かめながら、一層丁寧な授業展開に配慮しなければならない。

結果報告書

授業科目名　現代の諸課題と社会認識教育
評価実施日　平成24年2月10日
担当教員名　井上　奈穂　　回答者数　17　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	11	5	1				4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	13	2	1	1			4.6
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	10	5		1	1		4.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	8	4	5				4.2
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	10	3	2	1	1		4.2
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	11	3	1	1	1		4.3
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	8	7	1	1			4.3
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	12	4		1			4.6
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	6	2	2			4.1
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	11	4	2				4.5



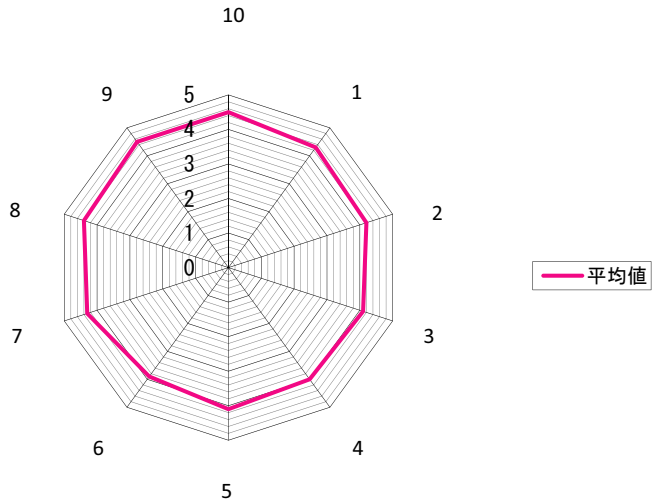
教員のコメント

アンケートに示されている10項目全体の平均は4.5であり、昨年度(3.4)と比較し、授業改善がなされていると言える。カテゴリー別にみると，「授業の内容について」と比較し、「教員の授業の進め方について」の項目が低い。このことから、特に、授業の評価、進め方の点での改善が必要と言える。また，「あなたの授業への取り組みについて」の項目は，全体で最も低い4.1であり、学生の参加を促すような活動をもっと取り入れる必要があるといえる。
本授業は，社会科の授業を事例に，授業検討会と学習評価のあり方を相互に検討することを目的としていた。そのため，社会科の授業についての講義とその検討を行う演習を交互に行うものであった。その意味で，受講生が積極的に取り組みを重視していたつもりであったが、結果、講義中心の授業となってしまったといえる。以上の点を，次回の授業改善につなげたい。

結果報告書

授業科目名　社会科教材開発演習Ⅲ（公民領域）
評価実施日　平成24年2月16日
担当教員名　井上　奈穂　　回答者数　10　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4	5	1				4.3
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	3	1	1			4.2
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	2	2	1			4.1
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	2	6	2				4.0
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	5	2	2	1			4.1
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	3	3	4				3.9
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	6	2	1	1			4.3
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	6	2	2				4.4
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	1	2				4.5
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	6	3	1				4.5



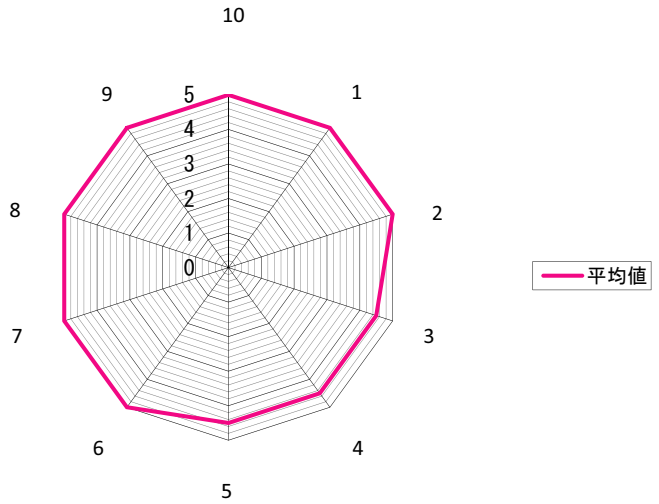
教員のコメント

回答を含めた10項目全体の平均は4.5であった。カテゴリー別にみると，「授業の内容について」の3項目は4.2，「教員の授業の進め方について」の5項目は4.1となっており，教員の授業そのものについては一定の評価を得たと考えられる。また，「あなたの授業への取り組みについて」の項目も4.5と最も高く、結果、「総合評価」も4.5であり，総合的にも一定以上の評価を得たと考えられる。授業は，社会科の授業分析のための理論的枠組みを演習を通して学習するというものであった。以上の結果を踏まえると、演習が中心になり、その基盤となる理論的枠組みの説明が不十分だったのではないかと推察される。以上の点を今後の授業改善につなげたい。

結果報告書

授業科目名　数理科学研究
評価実施日　平成24年2月6日
担当教員名　宮口　智成　　回答者数　2　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	1					4.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	1	1					4.5
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	1	1					4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	2						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2						5.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2						5.0



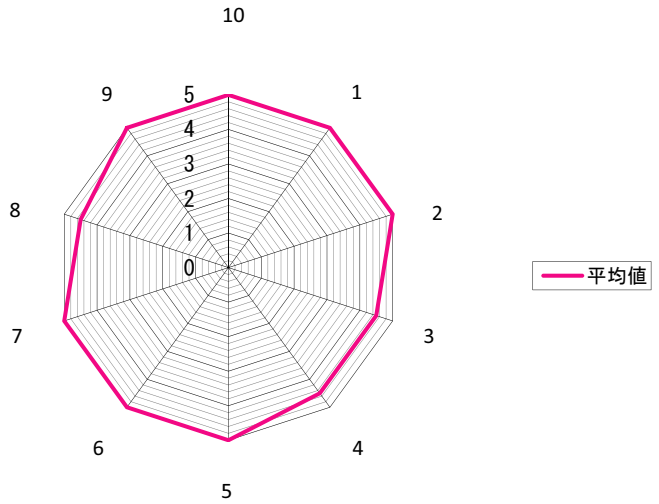
教員のコメント

微分方程式に関する講義を行なった。着任当日からスタートした授業であり、当初は戸惑いもあったが、できる限り具体的で身近に感じられるテーマを選び、簡単な実験も取り入れた。また、中学・高校レベルの数学で微分方程式の本質が理解できるように工夫し、さらに数学の計算力も身に付くような題材を選んだ。受講してくれた大学院生 2 名も非常に真面目に取り組んでくれた。

結果報告書

授業科目名　数理科学演習
評価実施日　平成24年2月6日
担当教員名　宮口　智成　　回答者数　2　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	1					4.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	1	1					4.5
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	2						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	2						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	1	1					4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2						5.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2						5.0



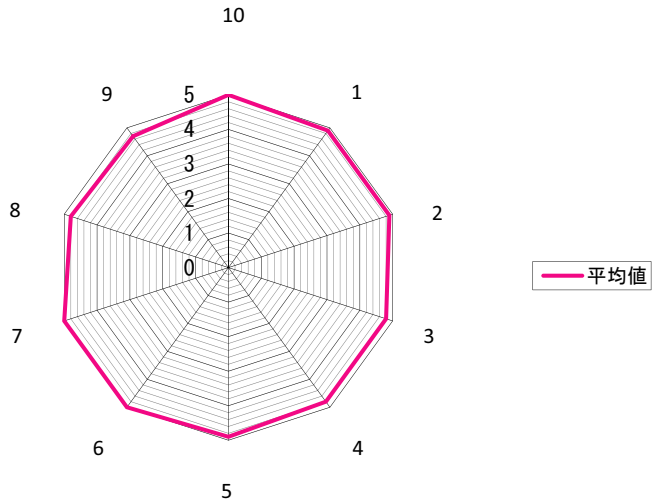
教員のコメント

微分方程式に関する演習を行なった。着任当日からスタートした授業であり、当初は戸惑いもあったが、できる限り具体的で身近に感じられるテーマを選び、簡単な実験も取り入れた。また、中学・高校レベルの数学で微分方程式の本質が理解できるように工夫し、さらに数学の計算力も身に付くような題材を選んだ。受講してくれた大学院生 2 名も非常に真面目に取り組んでくれた。

結果報告書

授業科目名　幾何学研究
評価実施日　平成24年2月21日
担当教員名　松岡　隆　　回答者数　10　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	9	1					4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	9	1					4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	8	2					4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	8	2					4.8
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	9	1					4.9
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	10						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	10						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	8	2					4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	3					4.7
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	10						5.0



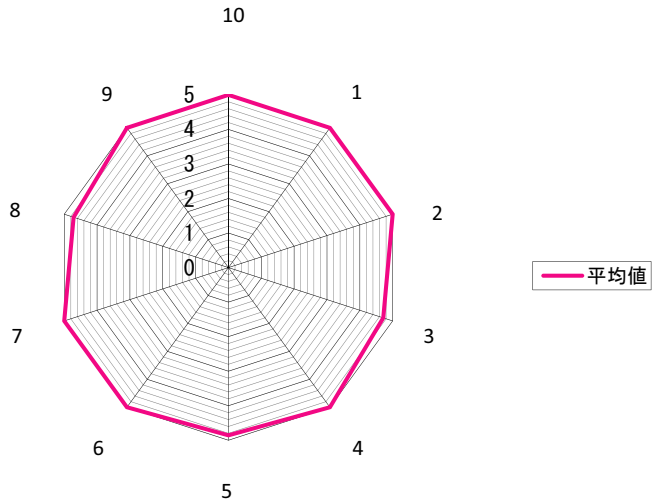
教員のコメント

各項目の評価平均値は4．7から5．0の間にあり，高い評価を得ている。自由記述の「よかった点」欄には以下の回答があった。「幾何学図形を図形以外の観点から考えられた事。折鶴，モアレなど，数式，図形としてあらためて考え，次の発展につながったと思う。数式で考えるとおもしろいと感じた。心理学的なことも実は計算式で表せる事は幾何学の楽しさと思う。この面白さを実際に次の実践につなげようという気持ちになった」，「先生が楽しんでいる授業で，こちらも楽しく受けることができた」，「証明など過去の知識を活かせる内容だった」，「幾何についていろいろなことが分かった」，「モアレや折鶴など興味深い内容が多くておもしろかった。資料もたくさんあって体験的でとてもよかった」，「体験的に学習出来てよかった」，「お土産がたくさんあって楽しかった」，「Very useful lesson. using origami for proving geometrical problem. And the Moire Pattern that often can be seen in our daily life」，「The whole course was good and very interesting especially using origami to prove mathematical theorems」，「This course dealt with very real, concrete examples and the concepts discussed was very applicable. The porfessor was the best in his field and he knew his content very well. He allowed students a lot of opportunities to think and express their ideas. He was very good」。「その他感想」欄には，以下の回答があった。「面白い発見が沢山ありました。研究・演習と2つ授業を受けたことは発展につながったと思います。」，「日常生活での数学にとても楽しめた」，「たのしかったです」，「I like this lesson very much. Sensei is very helpful for us, international students with poor ability in Japanese language」。

結果報告書

授業科目名　幾何学演習
評価実施日　平成24年2月21日
担当教員名　松岡　隆　　回答者数　7　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	7						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	2					4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	7						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	6	1					4.9
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	7						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	7						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	5	2					4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7						5.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	7						5.0



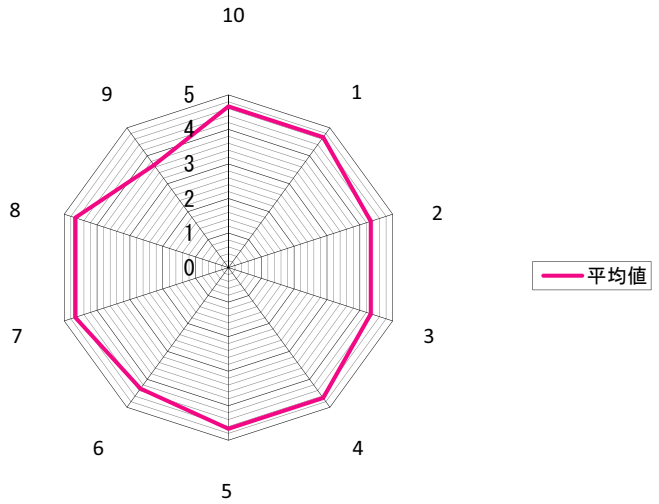
教員のコメント

殆どの項目で評価平均値が5．0であり，高い評価を得ている。自由記述の「よかった点」欄には以下の回答があった。「立体，平面，図形に取り組み，形を変化させることでの動きを考察し，様々な物体を製作でき良かった。実際に子供たちがよろこぶ作品づくりに力を入れていきたいと思う」，「作品をつくるのが楽しくて難しい内容も理解しようとがんばれた」，「作成しながら数学を学習できた」，「幾何学を講義的，実習的に学べた」，「理論だけでなく実際に作成し学べるところ」，「とても楽しく幾何学に触れることができました」，「見たこともないものに触れてとても楽しかった」。「その他感想」欄には以下の回答があった。「得たものが沢山あった。実践に役立てていきたいと思う」，「一番楽しい授業でした」。

結果報告書

授業科目名　解析学研究
評価実施日　平成24年2月23日
担当教員名　成川　公昭　　回答者数　3　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2	1					4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2		1				4.3
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2		1				4.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2	1					4.7
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	2	1					4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2		1				4.3
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	2	1					4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2	1					4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2				1		3.7
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2	1					4.7



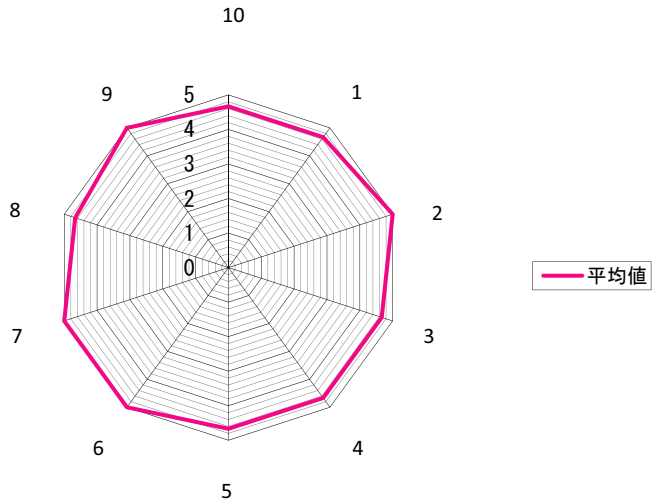
教員のコメント

受講生が3名だけであったので，学生の反応をうかがいながら，その興味に沿って，また理解度を確認しながら授業を進めることができた．学生からの発表や疑問もじっくり聞くことができ，丁寧に授業を進めることができた．その結果，学生からの評価も平均値が4．7と十分な結果が得られたように思う．ただ，1名だけ授業への取り組みが不十分であったと答えた学生がいる．少人数教育においてはおおむね十分な指導ができると思われる一方で，全員が授業に積極的に参加し充実感を持って履修できるよう詳しい分析が必要と感じた．

結果報告書

授業科目名　解析学演習
評価実施日　平成24年2月23日
担当教員名　成川　公昭　　回答者数　3　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2	1					4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	1					4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2	1					4.7
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	2	1					4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	3						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2	1					4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3						5.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2	1					4.7



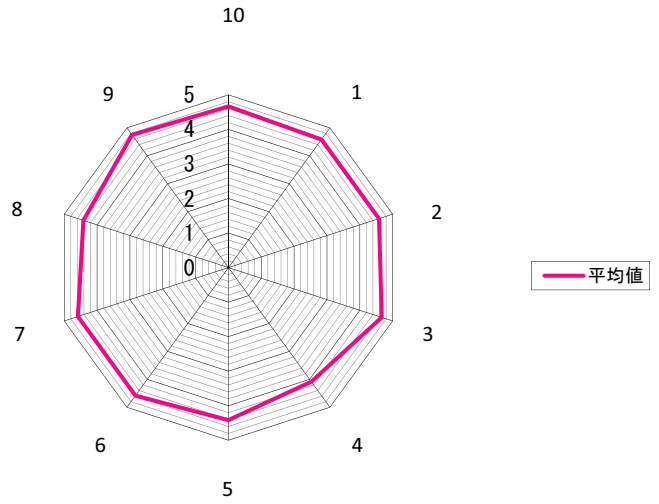
教員のコメント

解析学研究に引き続き行われる演習の時間であり，受講生も解析学研究と全く同じメンバーの3名であった．ここでも，少人数ゆえじっくりと落ち着いて演習とその解説を行うことができた．総合評価も4．7と十分な結果と思われる．また，演習の時間であったせいか，解析学研究とは異なり，3名全員が授業への取り組みに対して5点をつけている．受講生が多いと，演習を行うにも全員に対して十分な指導が行き渡らず，時間のみがやたらかかるという問題を抱えることになる．そういった点において，この時間の少人数の演習は学生側，授業者側ともに満足のいく授業であった．

結果報告書

授業科目名　数学科教育学演習
評価実施日　平成24年2月14日
担当教員名　佐伯　昭彦　　回答者数　12　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	7	5					4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7	5					4.6
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	9	2	1				4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	3	7	2				4.1
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	6	5	1				4.4
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	7	5					4.6
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	7	5					4.6
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	6	5	1				4.4
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	9	3					4.8
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	9	2	1				4.7



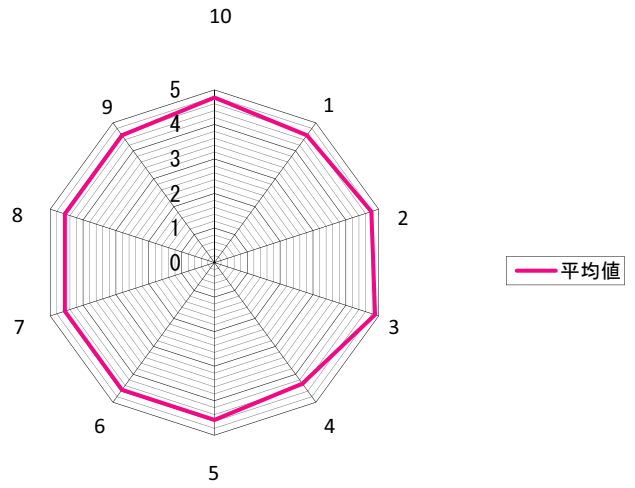
教員のコメント

全ての項目において「4」以上，総合評価では「4．7」という高評価を得ることができた．授業では，昨年の8月に日本で開催された国際会議で実施された研究授業を観察・評価し，それを基に学生が改善した模擬授業を行った．国内外の数学教育の研究者による研究授業に対して，学生たちが興味・関心を持って取り組んでくれたことと，授業は学生主体による活動をもとに自由に議論できたことが大きな要因であったと考える．.

結果報告書

授業科目名　数学科授業研究
評価実施日　平成24年2月9日
担当教員名　秋田　美代　　回答者数　9　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	5	4					4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7	2					4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	8	1					4.9
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	3	6					4.3
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	5	4					4.6
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5	4					4.6
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	6	2	1				4.6
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	5	4					4.6
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	2	1				4.6
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	7	2					4.8



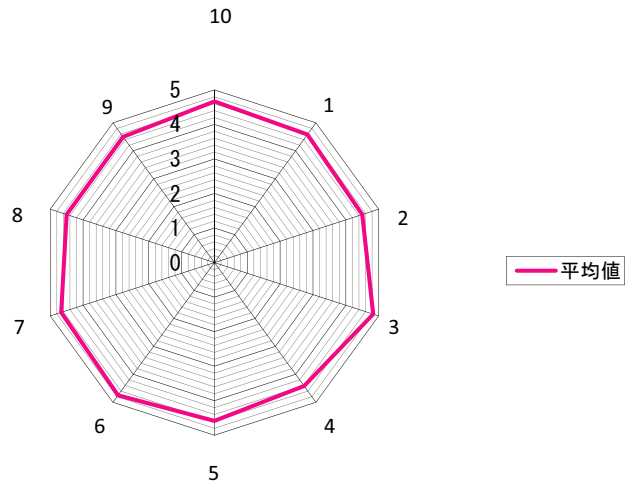
教員のコメント

本授業の主な目標は，数学教育において指導目標を達成するための授業の構成方法・展開方法について理解すること，及び認知科学・脳科学等の研究成果をもとにして，生徒の思考力や創造性を育成する数学の授業についての理論と実践を考察することである。
この授業に対する受講者の評価平均値は4.6，総合評価は4.8であった。評価平均値が高かった質問項目は「(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた」，「(3)教師の実践力の育成につながる内容であった」等であり，評価平均値が低かった質問項目は「(4)成績評価の方法は，適切であった」であった。
これらのことから，受講者が授業において指導目標を達成するための授業の構成方法・展開方法について理解し，授業実践能力を高めたことがうかがえた。
以上の各質問項目に対する評価から判断して，本授業の目的は概ね達成できたと判断できた。成績評価の方法について，受講者にはっきりと理解できるよう，明確に示すことが次年度の改善点である。

結果報告書

授業科目名　数学科教材開発演習
評価実施日　平成24年2月15日
担当教員名　秋田　美代　　回答者数　12　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	7	5					4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7	4	1				4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	10	2					4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	6	5	1				4.4
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	9	1	2				4.6
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	9	3					4.8
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	9	2	1				4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	7	4	1				4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8	3		1			4.5
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	10	1		1			4.7



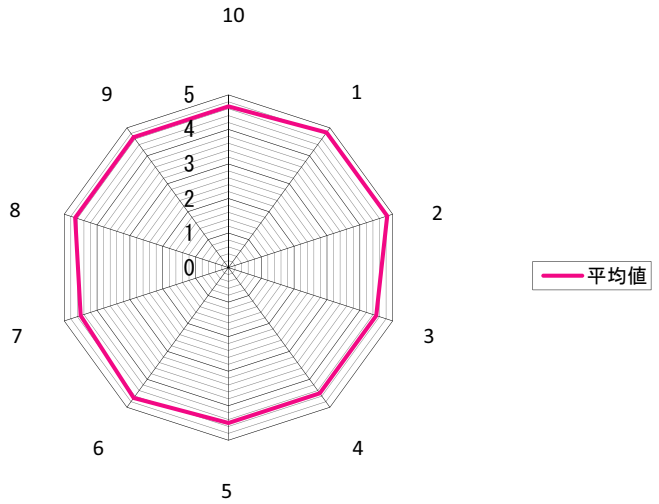
教員のコメント

本授業の主な目標は，前期の「数学科教材開発研究」の授業内容を基盤として，生徒の思考力や創造力を育成する数学教材について探究し，数学科における教材の活用方法・開発方法についての理解を深めることである。
この授業に対する受講者の評価平均値は4.6，総合評価は4.7であった。評価平均値が高かった質問項目は「(3)教師の実践力の育成につながる内容であった」，「(6)受講生に分かりやすく説明した」，「(7)教科書や配布された資料は，適切であった」，「(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた」等であり，評価平均値が低かった質問項目は「(4)成績評価の方法は，適切であった」であった。
これらのことから，受講者が授業において教材開発に対する認識を深め，教材開発能力を高めたことがうかがえた。
以上の各質問項目に対する評価から判断して，本授業の目的は概ね達成できたと判断できた。しかしながら，「(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。」，「(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う」の質問項目で2の評価を付けた生徒が各1名いることから，個人に合わせた指導の導入を検討することが今後の課題である。

結果報告書

授業科目名　無機化学特論
評価実施日　平成24年2月24日
担当教員名　早藤　幸隆，今倉　康宏　　回答者数　6　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	5	1					4.8
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	1					4.8
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	5			1			4.5
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	5			1			4.5
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	4	1	1				4.5
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	5		1				4.7
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	4	1	1				4.5
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	5		1				4.7
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	2					4.7
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	5		1				4.7



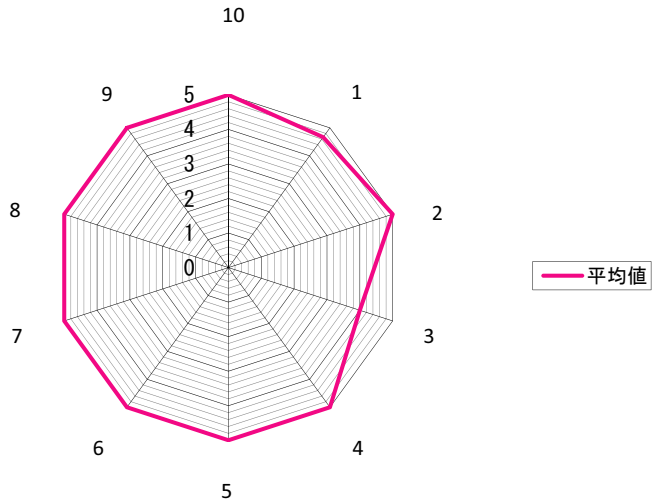
教員のコメント

受講者数が少ないため評価を把握する事は難しいけれども，全体的に受講者から講義内容に関する好意的な評価を受けている。質問項目（1）の結果より本講義における目標と目的は達成出来たと考えられる。無機化学の基礎・基本的な内容を重視した講義の構成と展開により，質問項目（2）が高く評価されると共に，単元の終わりに演習問題を繰り返しながら，詳細な解説と説明により，質問項目（6）が評価されたと思われる。講義はパワーポイントの提示により説明を進め，単元の終わりにパワーポイントの提示内容を資料として配付した。質問項目（10）より講義に関して好評価が得られた事から，来年度以降も講義内容や演習問題の形式などに改良を加えながら進めて行きたい。

結果報告書

授業科目名　地学実験法特論
評価実施日　平成24年2月22日
担当教員名　小澤　大成，村田　守，香西　武　　回答者数　3　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2	1					4.7
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3						5.0
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	1	1				4.0
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	3						5.0
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	3						5.0
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	3						5.0
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	3						5.0
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3						5.0
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2					1	5.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2					1	5.0



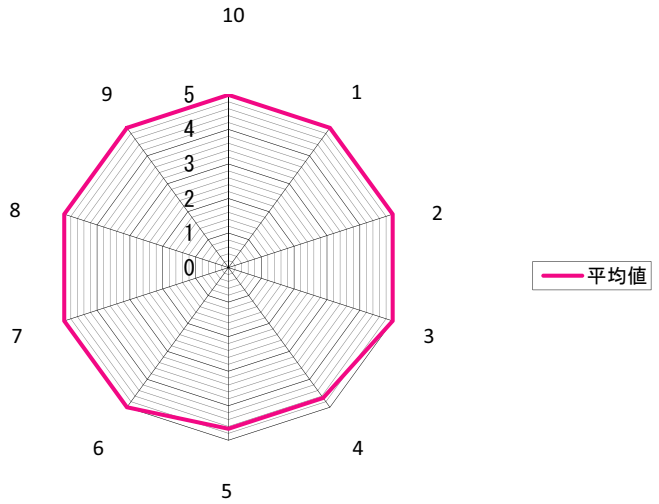
教員のコメント

アンケートへの回答者が3人であるため個別に振り返る。授業の内容については，授業概要について2名が5，1名が4，教師の実践力につながるかについては5，4，3が1名ずつであった。授業の進め方についての項目は全て5，授業への取り組み，総合評価については1名の未回答者を除き5であった。今後は引き続き実験を多く取り入れつつ，実践との連関について配慮していきたい。

結果報告書

授業科目名　理科授業研究
評価実施日　平成24年2月16日
担当教員名　佐藤　勝幸，香西　武，本田　亮，武田　清　　回答者数　3　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	3						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2	1					4.7
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	2	1					4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	3						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3						5.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	3						5.0



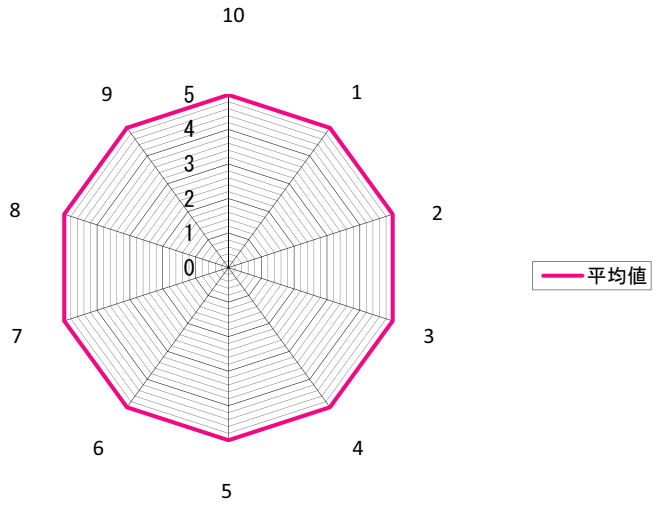
教員のコメント

授業内容は，理科教育の歴史，理科の授業方法・内容，今日の課題等を解説し，さらに実際の授業や学校現場での取り組みを紹介しながら，その後受講生とディスカッションを行い，あるべき理科の授業を模索している。受講生は3人と少なかったが，積極的に参加し，議論に加わっていた。教員経験がない院生が多く，始めは戸惑っている様子であったが，理科の授業方法は数多くあり，それらの特徴を知ることで新たな課題を自分なりに認識できているようであった。単なる知識だけの講義ではなく実際の学校現場で展開されている例を取り上げることで，受講生は理科の授業を深く理解でき，自分の課題として討論に参加できているようであった。教育実践力育成にとって重要な講義であると考えられるので，今後とも受講生の生の声を参考にしながら授業改善に努めていきたい。

結果報告書

授業科目名　歌唱表現演習
評価実施日　平成24年2月24日
担当教員名　頃安　利秀　　回答者数　3　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	3						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	3						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	3						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	3						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3						5.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	3						5.0



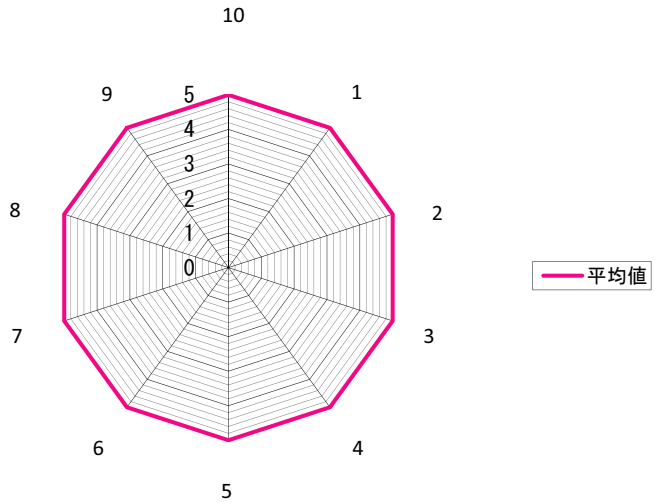
教員のコメント

「歌唱表現演習」ということで実技指導が中心になる授業なので，今回の受講生が3人であったことは，授業をすすめる上で最適であった。そういったこともあり，アンケートの[3]「この授業で改善すべきと思われる点について書いてください。」には，全く何も書かれてはいないので，この授業の内容・すすめ方についての評価は，このまま受け取っていいものと思われる。

結果報告書

授業科目名　歌唱表現演習
評価実施日　平成24年2月17日
担当教員名　草下　實　　回答者数　2　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	2						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	2						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2						5.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2						5.0



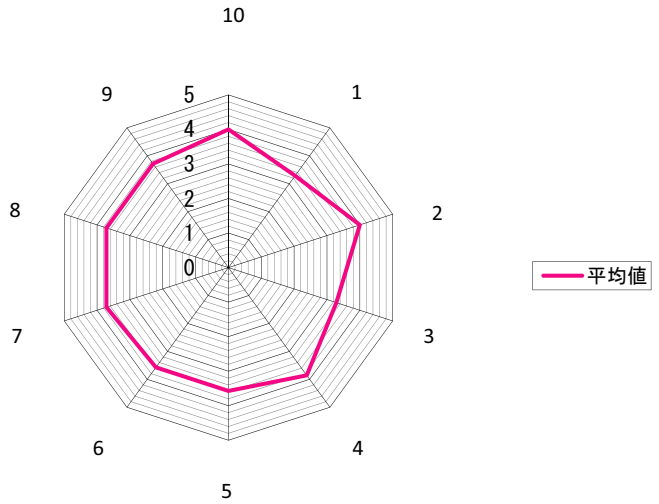
教員のコメント

当該年度については，履修学生数が2名であったことから，授業の内容，展開，進め方についても，シラバスに添うことが順調に行うことができた。従って，余裕を以て，緻密に履修生からの授業に係る質問にも丁寧に対応することができた。この授業は学校教育における音楽教科の表現活動に援用可能な内容としていること，また，授業の到達目標も履修者各自が充分，納得できる成果をあげられたことが良い評価を得られたものと考える。成績の評価は出席状況及び授業への態度，レポート(音楽表現に関する理解度)，歌唱実践(歌唱表現に係る能力)を総合的に評価した。

結果報告書

授業科目名　ソルフェージュ研究
評価実施日　平成24年2月13日
担当教員名　山田　啓明　　回答者数　7　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。		4	2		1		3.3
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	3	2				4.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。		3	3	1			3.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	1	4	2				3.9
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	1	3	2	1			3.6
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1	4	1		1		3.6
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	1	4	1	1			3.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	1	4	1	1			3.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	2	2	1			3.7
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2	3	2				4.0



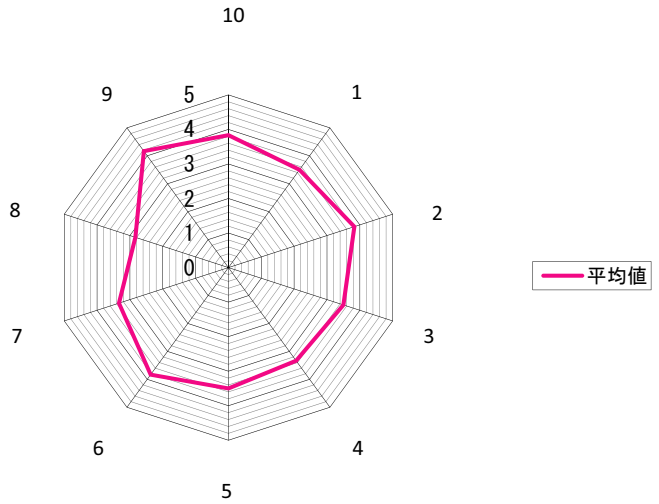
教員のコメント

この授業は毎年テーマを変えて行っているが，今年は内容を教育実践フィールド研究と連動させて，『音楽鑑賞』と題して音楽を聴く意味について，様々な映像資料を紹介しつつ考察した。特定の知識や技能を教える授業ではないので，学生たちがとまどったところもあると思うが，問題提起型の授業として，一定の成果を上げたのではと思っている。

結果報告書

授業科目名　室内楽（器楽）
評価実施日　平成24年2月14日
担当教員名　森　正，山根　秀憲　　回答者数　6　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	1	3	1		1		3.5
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	3			1		3.8
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	3	1		1		3.5
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	1	2	2		1		3.3
	（5）授業の進む速さは，適切であった。		5			1		3.5
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	2	3			1		3.8
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	1	2	2		1		3.3
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。		1	4		1		2.8
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	1			1		4.2
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2	3			1		3.8



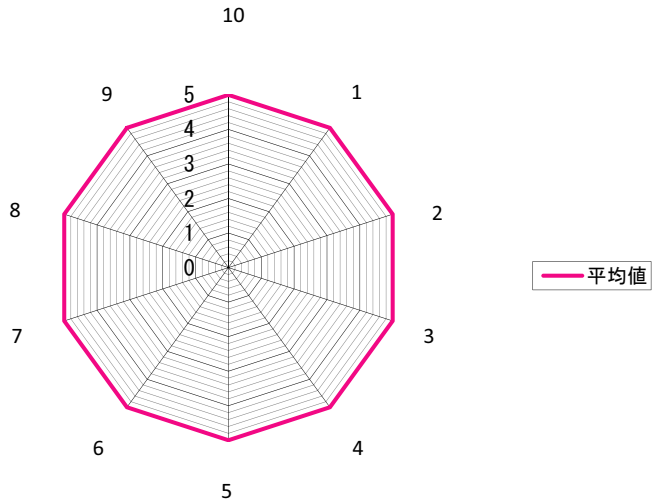
教員のコメント

総合評価が3.8ということで，授業は受講した学生から適切に評価されたと考える。しかし，すべての設問に「1」をつけた学生が1名いた。この学生は設問9の「授業に主体的に・積極的に取り組んだ。」という自らの授業に対する設問に対しても「1」をつけており，またコメント欄にも「授業料がもったいなっかた。」と記述している。どの学生からの回答かは不明であるが，何らかの意図があってこのような評価がされたとするなら，指導する立場としては，より具体的な授業に関する感想を聞き，もしそれが適切な指摘であるならば，今後の授業の改善に役立てる必要があると思う。

結果報告書

授業科目名　作曲法基礎演習
評価実施日　平成24年3月1日
担当教員名　松岡　貴史　　回答者数　3　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	3						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	3						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	3						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	3						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3						5.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	3						5.0



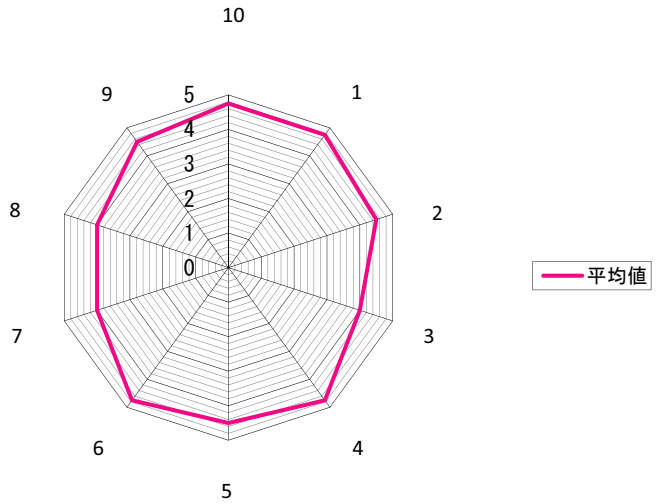
教員のコメント

授業に対しては肯定的な評価で占められたが、受講者が3人なので、否定的な面が書きにくかったのかなとも思う。しかし全受講者が、「授業に主体的・積極的に取り組んだ」と自己評価していることを嬉しく思う。自由記述には、「基礎から丁寧に教えてくれ、とても分かりやすく身につく内容だった。」「リズムコンポジション、自由和声から作曲へと無理なく進むことができた。」「具体的な作例が提示され、今後の作曲の参考になった。」「受講者の作品を互いに聴けて、参考になった。」「先生の作品も聴かせてもらえてよかった。」「なかなか思うように表現できず緊張したけれど，挑戦したことに対していつも認め、褒めてくれたので、勇気づけられ、前向きに取り組んで来れた。」などの他、「作曲法の基礎知識をもっと。」という声もあった。

結果報告書

授業科目名　油画制作演習
評価実施日　平成24年2月9日
担当教員名　鈴木　久人　　回答者数　4　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	3	1					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3		1				4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	1		1			4.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	3	1					4.8
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	3		1				4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3	1					4.8
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	2		2				4.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2		2				4.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3		1				4.5
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	3	1					4.8



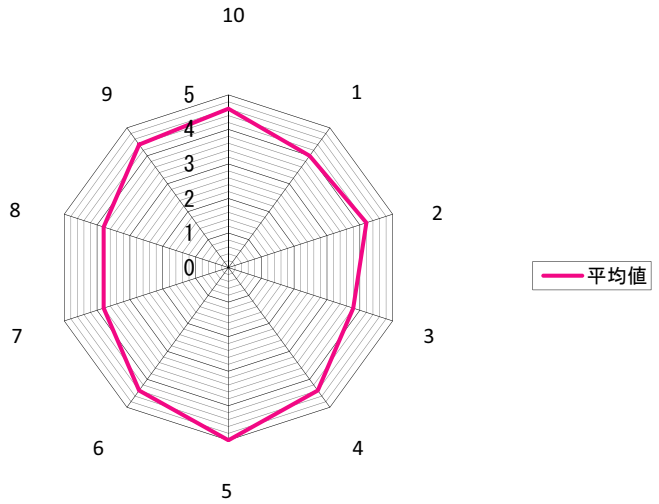
教員のコメント

総合評価が4.8という数値は概ね好意的評価だと受け止めている。質問事項(3)(7)(8)が数値として低く目立つが、本授業は各自の絵画制作の深化を目的とした多様な演習を中心としているため，教科書や視聴覚機材を使用せず，学生がどのように評価するべきか迷ったための数値と思われる。また(3)については教員側としてはこのような内容は教育現場での実践に寄与するものと考えるが，学生には浸透していないものと考えられ，反省材料である。本授業で習得した内容の現場での展開の可能性や教材開発の可能性、児童，生徒の作品鑑賞や評価法についてもより学生とのディスカッション等を通じて深めたい。

結果報告書

授業科目名　平面造形演習
評価実施日　平成24年2月21日
担当教員名　西田　威汎　　回答者数　5　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2	1	2				4.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	2	1				4.2
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	2	2				3.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	3	1	1				4.4
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	5						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3	1	1				4.4
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	2		3				3.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2		3				3.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1	1				4.4
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	3	2					4.6



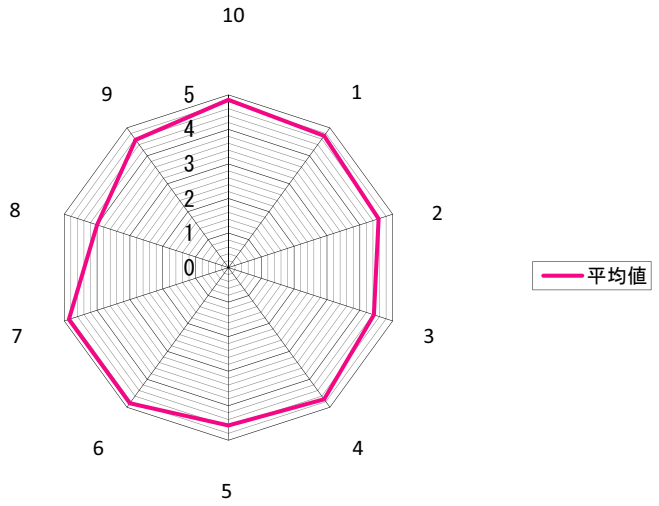
教員のコメント

大学院の授業は，ややもすると，専門的になる傾向があって，教師の実践力の育成に対する評価が低かったのが反省点である。

結果報告書

授業科目名　彫刻制作研究
評価実施日　平成24年2月6日
担当教員名　長岡　強　　回答者数　7　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	5	2					4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	3					4.6
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	2	1				4.4
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	5	2					4.7
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	5	1	1				4.6
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	6	1					4.9
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	6	1					4.9
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3	1	3				4.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	1	1				4.6
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	6	1					4.9



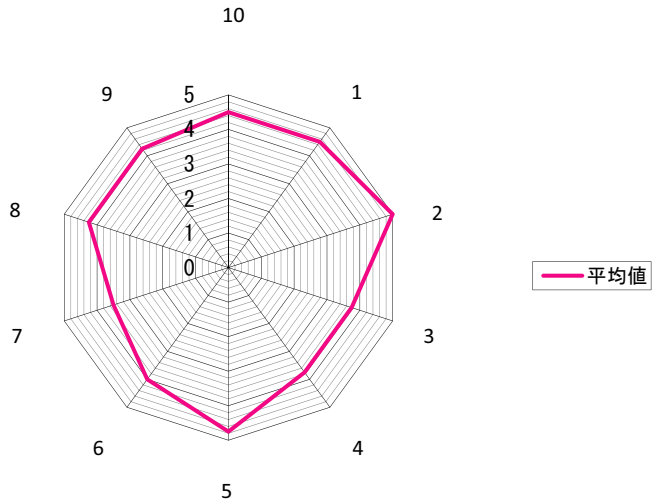
教員のコメント

授業の行われた彫塑実習室は制作用の教室であり，黒板等の設備は無い。従って調査項目(8)板書，視聴覚機器についての回答は，4.0であるが，不正確なものになっている。
他の項目は，どの項目も高い支持を得ている。
全受講者7人の総合評価の平均値は4･9であり，授業内容，授業展開とも充分満足のいく授業であったようだ。

結果報告書

授業科目名　デザイン制作研究
評価実施日　平成24年2月7日
担当教員名　松島　正矩　　回答者数　4　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2	2					4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	1	2				3.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	1	1	2				3.8
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	3	1					4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1	2	1				4.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	1		3				3.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	1	3					4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	1	1				4.3
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2	2					4.5



教員のコメント

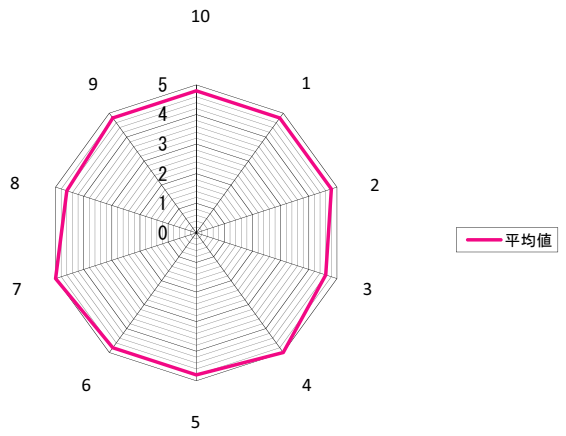
この授業は，マルチメディア教育実習室の画像編集アプリケーションを利用して行った。回答者4名は全員が美術コースの学生であり，普段から画像編集アプリケーションに親しんでいたため，授業は進めやすかった。昨年までは他コースの学生数名が受講してくるのが常であったので，その分少人数の受講となってしまった。かつてない少ない受講生ではあったが，能力に応じて個別に指導することができた点では満足している。

平均値を見ると(7)の項目が最低となっているが，毎回，資料は配布せず，プロジェクターで投影しながら解説を行ったので当然の結果であると思う。ここ数年，評価の点数が良すぎて面はゆい思いをしていたのであるが，今回は全員が正直に評価してくれたのではないだろうか。総合評価をみると，全員がこの授業に満足してくれた様子がうかがえるので，何とか良い評価をしてもらえたのではないかと感じている。

結果報告書

授業科目名　映像デザイン演習
評価実施日　平成24年2月13日
担当教員名　内藤　隆　　回答者数　5　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4	1					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	1					4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4		1				4.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	5						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	4	1					4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4	1					4.8
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	5						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3	2					4.6
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	1					4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	4	1					4.8



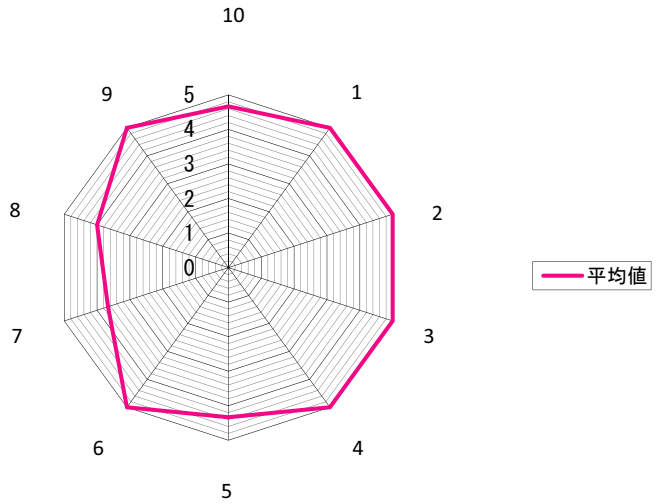
教員のコメント

本年度の受講者数は6名だった(中途脱落が1名いた)。今回は残った5名全員がアンケートに回答してくれた。本年度もここ数年同様、段ボールと虫眼鏡でカメラ(印画紙を装填し撮影できる)を制作する内容と、デジタルカメラでの撮影実習とを主な内容としている。前半を段ボール製カメラの工作、続く2週間に手製カメラでの撮影・現像作業、次の3週間は情報基盤センターから借りた一眼レフデジタルカメラとスタジオの使用法説明及び撮影実習(モチーフは人物と小物)、次の週に映像編集ソフト等の紹介、最後の1週に古典映像の一部とビデオ撮影方法の工夫についてを紹介。数値からは本年も概ね好評を得ていると考えられる。アンケートの記号回答では総合的に低め(4.6ランク)とされているものが「教師の実践力につながる内容だった」と「板書や視聴覚機器の使用」の2箇所であった。「実践力」については授業内容が即席に現場で用いる物ではないため対応が難しい。また「板書や視聴覚機器」については授業内で板書やプロジェクター使用をしないためと考えている。尚、点数評価では1名のみ若干低く回答してあったが、自由記述に好意的記述しか見られず改善要求記述もないことから本人自身の平均値を4に取っていたためと解釈できる。以下は自由記述については[2]『この授業で良かった点』では「カメラの構造や特徴はすごく詳しく教えてくれた」「カメラを作れてその構造が判ったこと」「箱カメラのしくみがよくわかった」「溶剤(おそらくは現像液の事)を使っての現像の仕方、また段ボールで手作りカメラを作れる等、発見の多い授業でした」「院の授業の中で一番楽しかったです。教師になった上で使えると思います」との解答があった。[3]『改善要求』の部分には「全体的に良かったです」「特に無し」としか記入されなかった。個人的にはこの改善要求の自由記述が一番重要と考えているため、やや残念に思う。[4]『その他の感想』については「社会系ですが、美術のおもしろさに少し気づけたと思います」「ありがとうございました。またお話させて下さい」とあった。今後、内容を若干変更する予定であり、これによっても現在の内容への評価との比較が出来ると考えている。

結果報告書

授業科目名　工芸制作研究
評価実施日　平成23年12月24日
担当教員名　井戸川　豊　　回答者数　3　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	3						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	3						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	2		1				4.3
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	1		2				3.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	1	1	1				4.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3						5.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2	1					4.7



教員のコメント

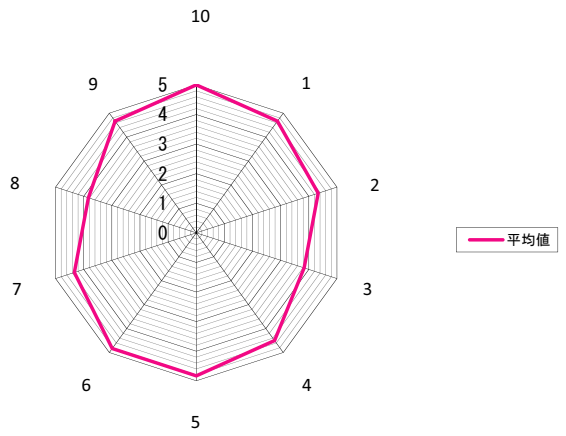
今回取り上げた題材「漆芸」の性質上、乾燥の具合を見ながらの授業だったのでインターバルを設けておこなった。そのため、学生は長時間集中しなければならなかったので苦労を要したと思うが、主体的、積極的に取り組んだ。また、教室の外でおこなわれていた工事の騒音と振動のため、作品を制作しづらかったようだ。

結果報告書

授業科目名　総合造形研究
評価実施日　平成24年2月10日
担当教員名　内藤　隆，野崎　窮

回答者数　6　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4	2					4.7
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	4					4.3
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	3	2				3.8
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	3	3					4.5
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	5	1					4.8
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	5	1					4.8
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	3	2	1				4.3
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2	1	3				3.8
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	2					4.7
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	6						5.0



教員のコメント

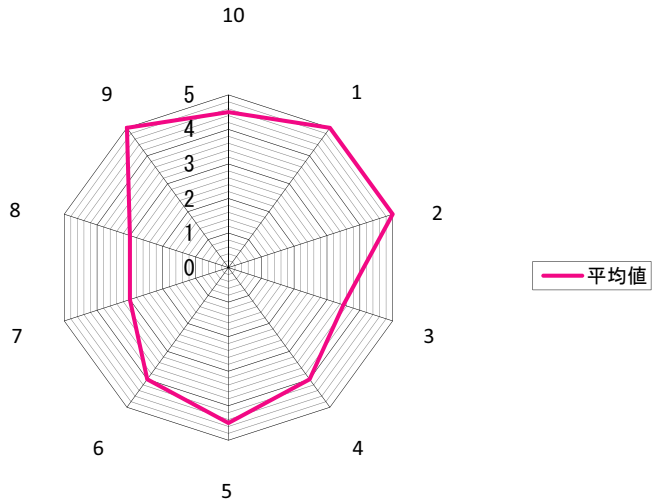
この授業の本年度の内容は、第1時間目に「授業日程の説明」、次の5時間分を「神戸ビエンナーレ2011の見学・資料収集（日帰り）」、続いて3時間分を「各自が興味を持っているアーティストの研究とその発表」、残り6時間分を「各自の作品制作とその展示（会場は芸術棟1階ギャラリー）」に費やすというものであった。主にコンセプチュアルアートを軸として鑑賞調査し、自分なりの考えと表現の実現を試みる内容となっている。受講者は6名で全員がアンケートに回答してくれている。グラフを見ると、例年通りではあるが項目の（3）と（8）が低い。（3）の「教師の実践力につながる」の項目については、本授業の目的として人間形成的側面での内容育成を目標にしており、即席に授業に応用できる内容を伝授することが目的でないため、例年やや低めに収まる傾向があり、妥当な評価だと考えられる。また（8）の「板書や視聴覚機器の使用は適切であった」については、この授業では基本的に教員側からの指定教科書や配布資料は無いこと、また板書や視聴覚機器を特別に使用する箇所が無いことから、この回答になったと考えられる。なお、以下は自由記述について。[2]『良かった点』では「他の受講生の興味や考え方を知れて、そこから多様な学びにつながった点」「自分の中で次の課題が生まれました」「専門とは違った事をして学んだこと。根底にあるのは専門にしている事で、大切にしていることを改めて考えさせてもらえるきっかけになった」「作家を調べることで新たな世界を発見し、更に自らも新たな世界をつくり出す機会となった点」「自己表現が強くなれる」「ビエンナーレで多くの作品を見れたのがよかった。学生作品も様々でよかった」とあり、受講者達が多様な側面から成長の機会として授業内容を捉えてくれたのが判る。[3]『改善要求』は「全体的に楽しかったです」「夏期集中にはしない方がいい」とある。次年度より本授業は担当者が変わるが、残念に思ってくれるのは有り難い。[4]『感想』として「楽しく制作できた」「授業を受けて良かったと思います」「本当に勉強になったと感じております。ありがとうございました」であった。

結果報告書

授業科目名　芸術学演習
評価実施日　平成24年2月16日
担当教員名　小川　勝

回答者数　2　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。		1	1				3.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	1		1				4.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	1	1					4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1		1				4.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。			2				3.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。			2				3.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2						5.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	1	1					4.5

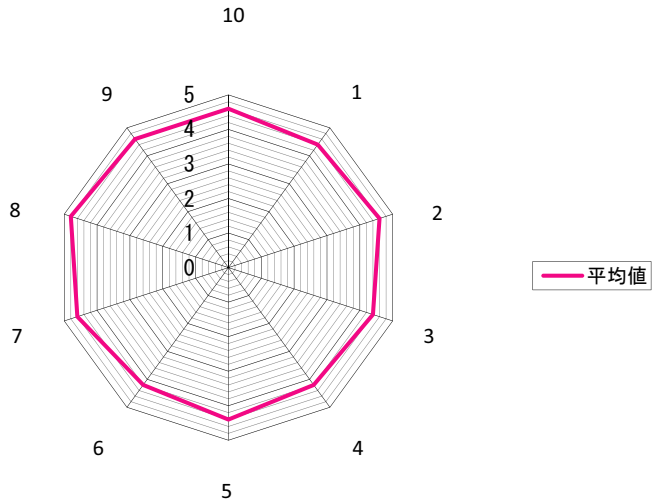


教員のコメント

結果報告書

授業科目名　体育・スポーツ心理学演習
評価実施日　平成24年2月17日
担当教員名　賀川　昌明　　回答者数　5　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2	3					4.4
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	2					4.6
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	3					4.4
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	1	4					4.2
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	2	3					4.4
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2	2	1				4.2
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	3	2					4.6
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	4	1					4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	2					4.6
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	3	2					4.6



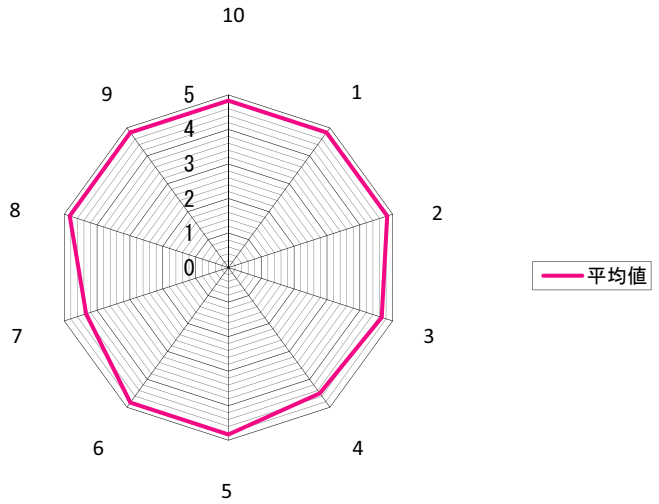
教員のコメント

各項目に対する受講生の平均評価点は4.2～4.8で、いずれも4点を超えていた。また、総合評価も4.6点で、かなり高い評価となった。
しかし、項目番号(4)と(6)の受講生に対する説明に関しては比較的低い評価となっており、もう少し丁寧な説明をすべきだったと反省している。
「この授業で良かったと思われる点」に関わる自由記述は、いずれも「実践的な体験ができ、今後の研究活動に役立った。」という内容になっており、本授業の意図が通じたものと思われる。

結果報告書

授業科目名　健康科学演習
評価実施日　平成24年2月10日
担当教員名　廣瀬　政雄　　回答者数　6　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	5	1					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	1					4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	2					4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	3	3					4.5
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	5	1					4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5	1					4.8
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	3	2	1				4.3
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	5	1					4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	1					4.8
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	5	1					4.8



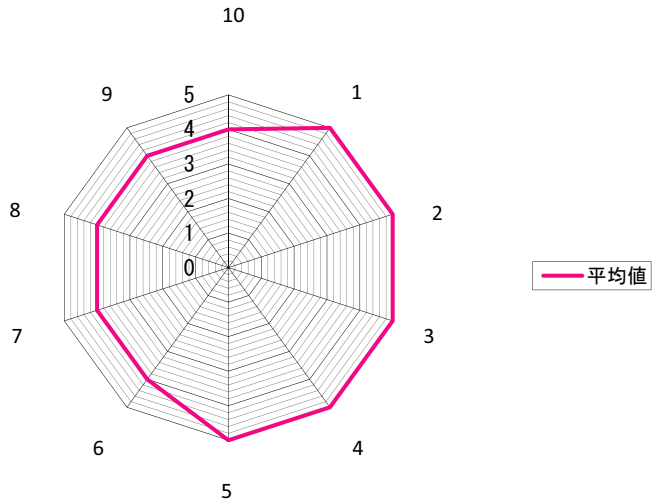
教員のコメント

高い評価と考えられる。この理由は、前期の健康科学研究を受講し、高い評価をしたもののうち継続して受講時間が確保できた学生による評価であること、および、講義内容や説明の仕方において、教師と学生の間の波長が合うようになったことなどが考えられる。学生の評価を知ることは重要であるが、医学的な内容に関する実践的な知識として、何が伝わり、どのように生かされるかを知ることができれば、授業のさらなる改善が可能になる。

結果報告書

授業科目名　情報技術研究
評価実施日　平成24年2月6日
担当教員名　菊地　章　　回答者数　1　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	1						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	1						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	1						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。		1					4.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。		1					4.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。		1					4.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。		1					4.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。		1					4.0



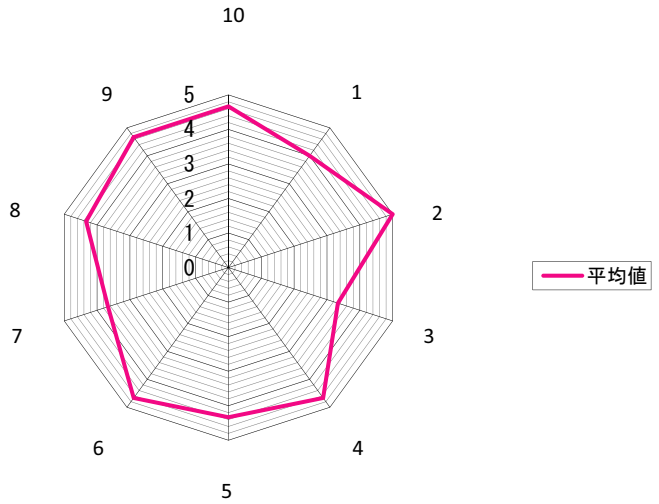
教員のコメント

正規受講者が1名で外国人教員留学生の聴講が1名の計2名の受講であったため，授業進行状況の確認が容易で，受講者はほぼ理解して授業が進んだと思える。ただ，外国人留学生が居たために英語を含めた授業になったため，また内容が若干高度であるため，学生評価は評価5のみでなく評価4を含んでいる。指導側としてはこの評価は妥当な評価と認識している。

結果報告書

授業科目名　エネルギー工学研究
評価実施日　平成24年2月17日
担当教員名　畑中　伸夫　　回答者数　3　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	1	1	1				4.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。		2		1			3.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2	1					4.7
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	2		1				4.3
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2	1					4.7
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	1	1		1			3.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	1	2					4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	1					4.7
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2	1					4.7



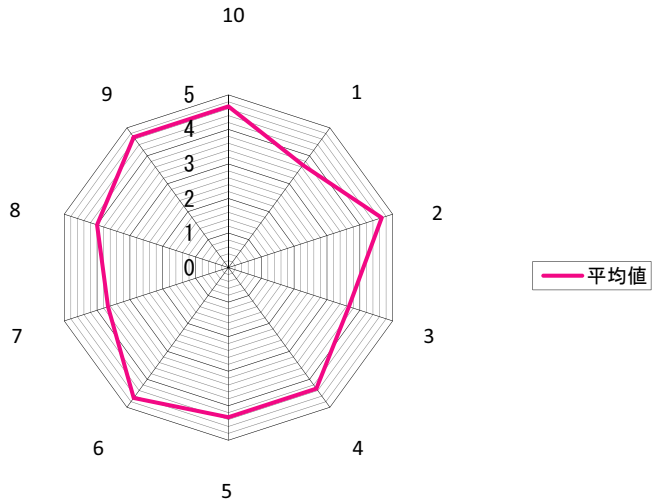
教員のコメント

授業内容に関して、専門的知識を深めるのに役立つ内容であった5.0に対して、教師の実践力の育成につながる内容であった3.3の評価であった。教科専門科目であることから、当然の結果とも理解されるが、改善の余地はあると考える。専門科目としてのレベルを極端に下げることなく、教育実践力の育成に役立つ内容につて検討する。
教科書や配布された資料は適切であった3.7も厳しい評価である。教科書の購入を義務付けず、参考書の紹介にとどめ、板書が多くなったことの結果であると考える。資料の配布等により学生の理解が深まるよう改善する。

結果報告書

授業科目名　エネルギー工学演習
評価実施日　平成24年2月17日
担当教員名　畑中　伸夫　　回答者数　3　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	1	1		1			3.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	1					4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	1		1			3.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	1	2					4.3
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	2		1				4.3
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2	1					4.7
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	1	1		1			3.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。		3					4.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	1					4.7
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2	1					4.7



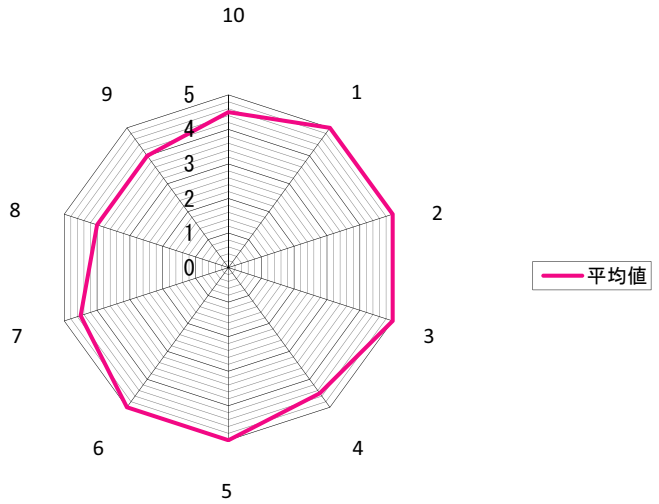
教員のコメント

授業概要はこの授業を適切に表現していた3.7の評価は厳しいものがある。「エネルギー工学研究」と「エネルギー工学演習」が、同一の受講生で連続授業であることから、両授業のけじめをつけることなく授業を進めた結果であると考える。今後は学生の意見と理解を十分に得たうえで実施する。
授業内容に関して、専門的知識を深めるのに役立つ内容であった4.7に対して、教師の実践力の育成につながる内容であった3.7の評価であった。教科専門科目であることから、当然の結果とも理解されるが、改善の余地はあると考える。専門科目としてのレベルを極端に下げることなく、教育実践力の育成に役立つ内容につて検討する。
教科書や配布された資料は適切であった3.7も厳しい評価である。教科書の購入を義務付けず、参考書の紹介にとどめ、板書が多くなったことの結果であると考える。資料の配布等により学生の理解が深まるよう改善する。

結果報告書

授業科目名　画像情報処理研究
評価実施日　平成24年3月1日
担当教員名　伊藤　陽介　　回答者数　2　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2						5.0
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2						5.0
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	2						5.0
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	1	1					4.5
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	2						5.0
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	2						5.0
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	1	1					4.5
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。		2					4.0
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1		1				4.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	1	1					4.5



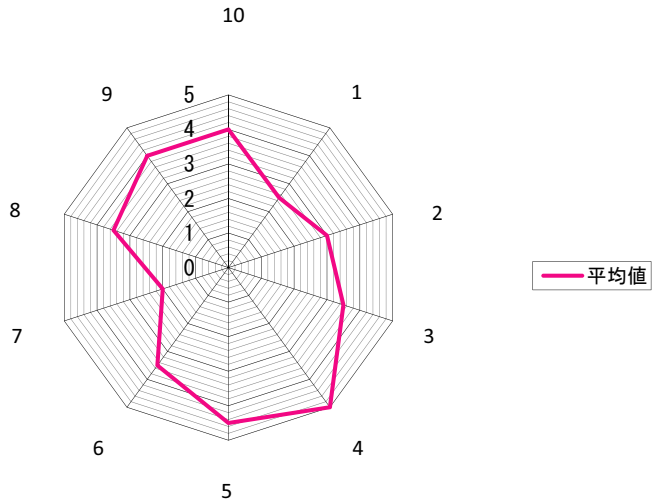
教員のコメント

2名の回答数では客観的な授業評価は難しいが，総合的に見ると満足できる結果と思われる。授業で取り扱った内容に対してより詳しい情報提供の希望があったので，今後，配布資料の充実を行う必要がある。

結果報告書

授業科目名　プログラミング演習
評価実施日　平成24年1月31日
担当教員名　林　秀彦　　回答者数　2　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。		1			1		2.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。		1		1			3.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1			1			3.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	1	1					4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1			1			3.5
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。			1		1		2.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。		1	1				3.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1		1				4.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	1		1				4.0



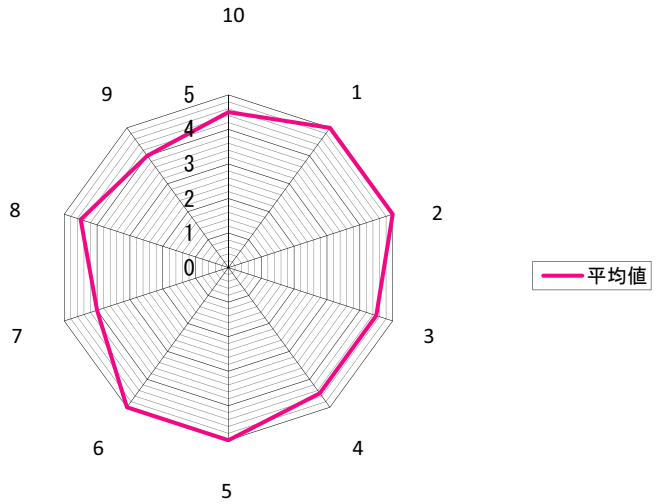
教員のコメント

本授業は，大学院生を対象としたプログラミング演習の授業内容であり，受講者が2名であったことから，受講者それぞれの目標に応じて，これまでよりも主体的に取組む姿勢を重視して授業実践した。また，学部学生を対象とした授業内容ではないこともあり，プログラミング入門レベルの文法を習うような指導型の授業ではなく，受講者それぞれの目標に応じて，その学習をサポートする学習支援型の授業を試みた。評価結果は，2名の受講者のうち1名は，主体的に取り組めることが良かったとコメントしており，その一方で，もう1名は，もっと指導をして欲しかったとコメントしており，両極の結果であった。上記の主旨の理解度合い，目標設定の相違，取組みの姿勢，出席状況等のいくつかの要因が，このように大きく結果を2つに分けたものと考えられる。主体的に授業に参加するように初回に説明しており，最初はそれぞれの目標を設定して取組む姿勢にあったが，その設定が高めであった受講者にとっては後の取組みが想定通りに進まない等の影響を及ぼしていたことが考えられる。また定めた目標の修正が，後のモチベーションに影響を及ぼした可能性も考えられる。少人数でかつ受講者間の意識の差違が大きい場合の新たな方法論を試みたが，いくつかの課題もあることが認識できた。今後は，目標を修正して取組むことができた点を振り返る時間を設ける等により，その意義が理解できるような構成を検討していく予定である。

結果報告書

授業科目名　情報応用演習
評価実施日　平成24年3月2日
担当教員名　曽根　直人　　回答者数　2　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	1					4.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	1	1					4.5
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	2						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	1		1				4.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	1	1					4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。		2					4.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	1	1					4.5



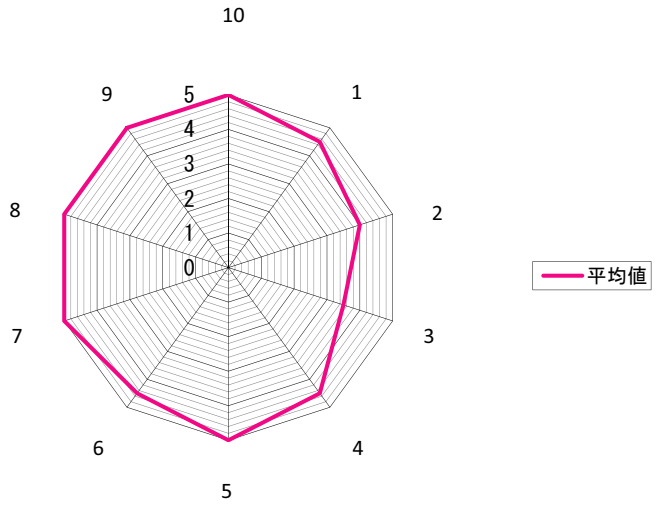
教員のコメント

本授業では実際のネットワーク機材を利用してネットワークの構築を行なったり，無線LANの計測ソフトを用いて実際の電波の様子を測定するといった実習を行った。現実的な内容を扱うことができたため，関心が高かったことがうかがえる。これは授業の内容に関する評価が高いことからもわかる。改善すべき点として，「準備段階で行った作業手順方法についても詳しく知りたかった。」「サーバーについてもっと知りたかった」という意見があった。どちらも扱うには時間の問題があるが，今後の授業では準備や機材の改善でできるだけ対応したい。

結果報告書

授業科目名　コンピュータ科学演習
評価実施日　平成24年2月9日
担当教員名　宮本　賢治　　回答者数　2　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	1	1					4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1		1				4.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。		1	1				3.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	1	1					4.5
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	2						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1	1					4.5
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	2						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2						5.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2						5.0



教員のコメント

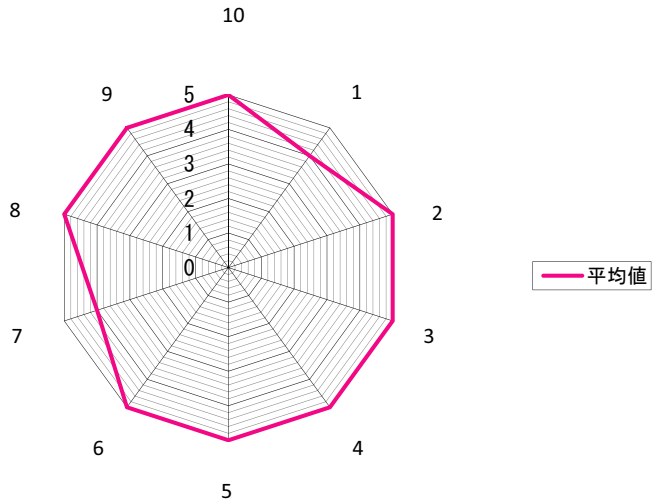
2名の回答者では客観的な授業評価は難しいが、総合的に見ると満足できる結果と思われる。「教師の実践力の育成につながる内容であった」という質問項目は4.0点を下回っており、授業がやや工学よりの専門的な内容で、教師の実践力の育成につながりにくい印象を与えている。しかし、現行の中学技術の学習指導要領の下では、プラグラムによる計測・制御は必須であり、これと本授業との関連や位置づけ、意義をもっと学生に理解させる必要がある。また、本アンケートでは実験機器の不備を指摘する声があったが、この点については学長裁量経費への申請等で改善を図る。

結果報告書

授業科目名　機械工学演習
評価実施日　平成24年2月14日
担当教員名　宮下　晃一

回答者数　1　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。		1					4.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	1						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	1						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。		1					4.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	1						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1						5.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	1						5.0



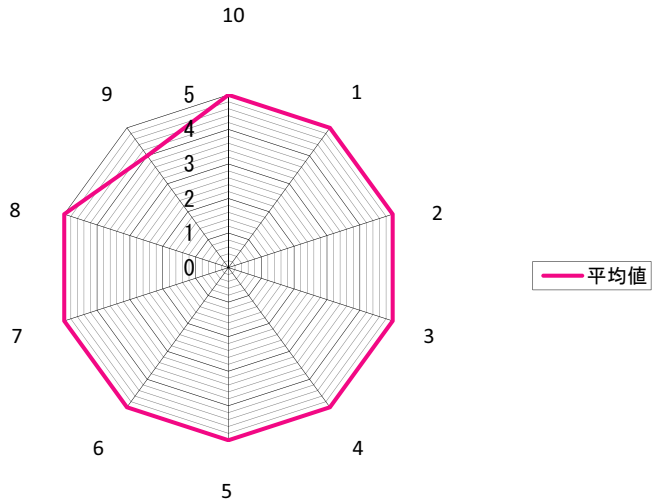
教員のコメント

受講生が少なかったので受講生と相談の上で、演習の内容を受講生の修士研究に活かせる内容に変更した。そのために、全体としては良好な評価をしてくれたものと思われる。一方、授業の準備が間に合わないことが何回かあり、受講生と一緒に参考資料を解読することもあった。それも、大学院の演習であるから意義のあることであったと考えている。

結果報告書

授業科目名　衣生活学演習
評価実施日　平成24年2月20日
担当教員名　福井　典代　　回答者数　1　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	1						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	1						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	1						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	1						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	1						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。		1					4.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	1						5.0



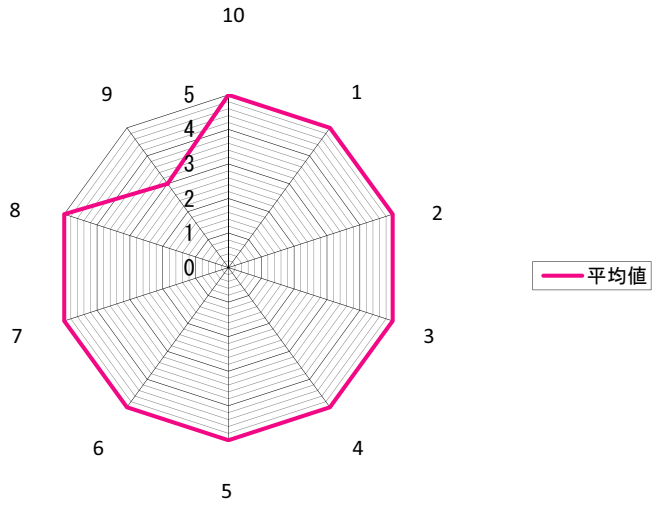
教員のコメント

今年度の受講者数は1名であり，個人の理解度に合わせて丁寧に授業を行った。この授業でよかったことの自由記述にも，この点が記載されている。改善すべき点は「受講者数が少ない」ことであるが，年度による入学者数の増減を一定にすることは難しい。修士論文の作成に少しでも役立つ内容を，これからの授業でも取り入れていきたい。

結果報告書

授業科目名　食生活学演習
評価実施日　平成24年2月16日
担当教員名　前田　英雄，西川　和孝　　回答者数　1　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	1						5.0
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1						5.0
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	1						5.0
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	1						5.0
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	1						5.0
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	1						5.0
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	1						5.0
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	1						5.0
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。			1				3.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	1						5.0



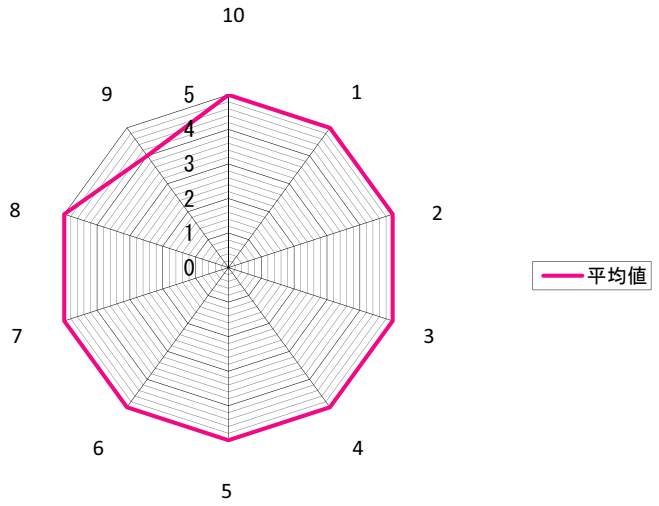
教員のコメント

平成23年度後期に開講したこの授業科目には1名が受講した。この授業内容は食生活学研究を受講した学生を対象に食品学、栄養学及び調理学の基礎的知識の確認や教材開発の実験実習を取り入れて行っている。演習内容としてじゃがいもを使用した教材開発、市販している清涼飲料水の糖度測定、ビタミンCの簡易定量法などをおこなった。また、最新の栄養摂取基準やその基準となる学問背景も講義した。授業アンケートの評価は概ね高かったが，学生が授業に取り組む姿勢に課題提出やテーマ設定に改善の余地が残った。

結果報告書

授業科目名　家庭科教育学演習
評価実施日　平成24年2月9日
担当教員名　速水　多佳子　　回答者数　1　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	1						5.0
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1						5.0
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	1						5.0
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	1						5.0
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	1						5.0
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	1						5.0
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	1						5.0
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	1						5.0
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。		1					4.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	1						5.0



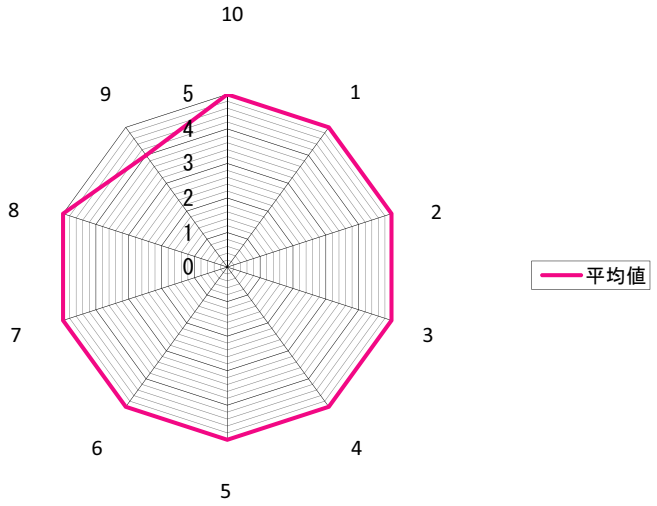
教員のコメント

学生の総合評価は5.0であり、有意義な授業であったと考えられる。
質問項目の「(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。」だけに、学生は「4．ややそう思う」と回答している。しかし、受講生が1名であり、マンツーマンの授業となったため、毎回の授業で学生は課題等を発表することとなり、意欲的な姿が見られた。
アンケートの自由記述欄には、「興味のあることができ、教員となった時に活用できる教材ができた」との記述がある一方、「受講生が少ないので、意見交流に偏りが出てしまう」と書かれていた。演習の授業であったので、受講生の希望に沿った内容で実施することはできたが、意見交流等では物足りなさを感じたのであろう。今後も少人数での授業となることが予想されるため、その特性を生かして、教員としての実践力の育成を図りたい。

結果報告書

授業科目名　家庭科授業・教材開発研究
評価実施日　平成24年2月10日
担当教員名　前田　英雄，福井　典代，渡邉　廣二　　回答者数　1　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	1						5.0
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1						5.0
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	1						5.0
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	1						5.0
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	1						5.0
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	1						5.0
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	1						5.0
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	1						5.0
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。		1					4.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	1						5.0

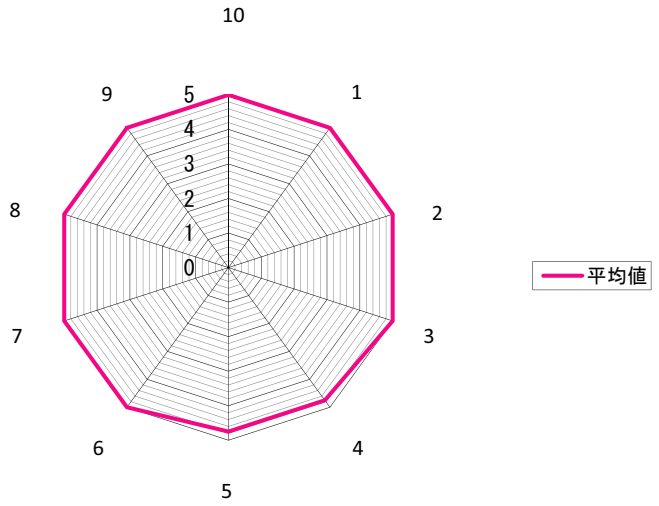


授業には家庭教育コースの1名が受講した。小学校や中学校での衣生活、食生活、消費生活の学習内容に関する講義をした後、実験実習を行った。一人で実験実習に取り組んだため大変であったと思うが、評価結果からその内容の理解はできたことと思われる。今後、さらに受講生の受講目的や家庭科教員になるにふさわしい知識と理解の度合いを考慮し、授業内容と方法をさらに改善・充実させていきたい。

結果報告書

授業科目名　国際教育協力研究
評価実施日　平成23年12月24日
担当教員名　前田　美子　　回答者数　4　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	3	1					4.8
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	3	1					4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	4						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	4						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4						5.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	4						5.0



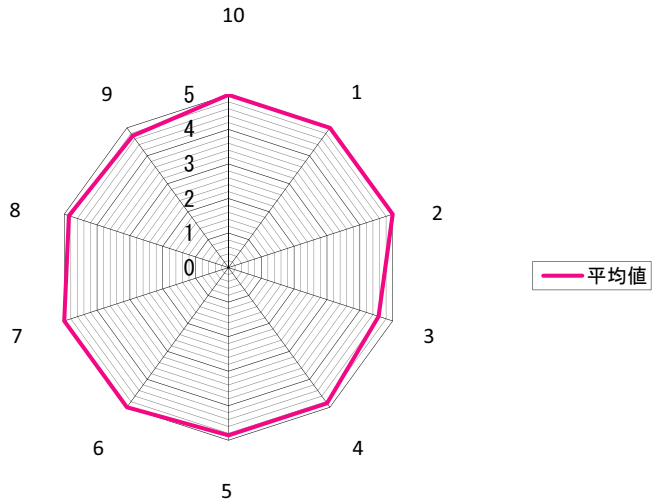
教員のコメント

概ね学生の満足度の高い授業が行えたと思う。集中講義であったため、学生に時間をかけて調べさせることができなかったことが反省点である。

結果報告書

授業科目名　国際教育協力特論Ⅱ（IT教育）
評価実施日　平成24年2月20日
担当教員名　石坂　広樹，小澤　大成，石村　雅雄，近森　憲助　　回答者数　7　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	7						5.0
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7						5.0
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	3					4.6
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	6	1					4.9
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	6	1					4.9
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	7						5.0
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	7						5.0
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	6	1					4.9
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	2					4.7
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	7						5.0



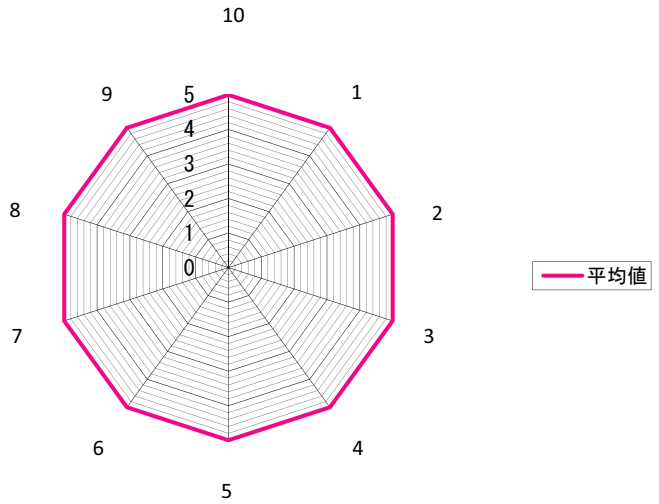
教員のコメント

本授業では、ICT教育政策について各学生が発表しディスカッションする形式を採用した。各国のICT教育政策について学ぶことができ、充実した議論を交わすことができたことが、評価点の高さにつながったものと思われる。

結果報告書

授業科目名　国際教育IT活用演習
評価実施日　平成24年2月17日
担当教員名　石坂　広樹，小澤　大成，近森　憲助，石村　雅雄　　回答者数　7　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	7						5.0
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7						5.0
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	7						5.0
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	7						5.0
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	7						5.0
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	7						5.0
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	7						5.0
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	7						5.0
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7						5.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	7						5.0



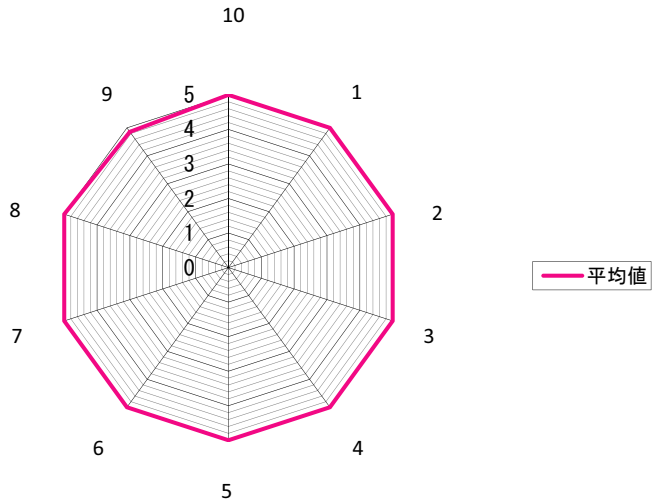
教員のコメント

評価点が高かったことから、実際にICTツールを活用した模擬授業を学生自身に実施させ、その利便性・むずかしさなどについて直接理解してもらうことができたものと理解した。

結果報告書

授業科目名　国際教育教材開発演習Ⅰ
評価実施日　平成24年2月17日
担当教員名　石坂　広樹，小澤　大成，近森　憲助，石村　雅雄　　回答者数　7　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	7						5.0
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7						5.0
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	7						5.0
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	7						5.0
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	7						5.0
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	7						5.0
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	7						5.0
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	7						5.0
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	1					4.9
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	7						5.0



教員のコメント

授業では、PISAやTIMSSの問題を取り上げ、同問題で問われている生徒の能力について議論するとともに、その能力に資するモデル授業の構築に取り組んだ。全学生が参加し、模擬授業を行うことで理解が深まったものと考える。評価点もその分高かった。